

看護学科 2022年度入学生

基礎科目					
科目ナンバリング	授業科目名	掲載番号	科目ナンバリング	授業科目名	掲載番号
22HUM101	Science Basics	01	22HUM116	社会学概論	10
22HUM102	データサイエンス	02	22HUM117	家族社会学	11
22HUM103	情報リテラシー	03	22HUM118	日本国憲法	12
22JUN104	看護学セミナー	04	22HUM119	文章表現法	13
22JUN105	キリスト教学	05	22HUM120	Humanities Basics	14
22JUN106	純心平和学	06	22HUM121	文化人類学	15
22NBA107	看護倫理		22HUM122	コミュニケーション論	16
22HDE108	心理学概論	07	22NBA123	看護情報学	17
22JUN109	宗教学		22NBA124	臨床心理学	
22JUN110	叡智の探究	08	22LAN125	英語Ⅰ	18
22HUM111	運動理論・実技	09	22LAN126	英語Ⅱ	19
22ART112	人間とアート		22LAN127	看護英語	
22ART113	合唱音楽		22LAN128	Listening & Speaking	
22ART114	美術療法		22LAN129	Reading & Writing	
22ART115	音楽療法				

看護の基礎					
22NBA201	形態機能学Ⅰ	20	22NBA212	疾病治療論Ⅳ	
22NBA202	形態機能学Ⅱ	21	22NBA213	疾病治療論Ⅴ	
22NBA203	形態機能学Ⅲ	22	22NBA214	医療概論	28
22NBA204	形態機能学演習（解剖見学含む）	23	22NBA215	保健医療福祉行政論	
22NBA205	病理学		22NBA216	保健医療福祉行政展開論	
22NBA206	薬理学		22NBA217	公衆衛生学	29
22NBA207	栄養生化学	24	22NBA218	健康教育学	30
22NBA208	感染予防学	25	22NBA219	保健統計学Ⅰ	31
22NBA209	疾病治療論Ⅰ	26	22NBA220	保健統計学Ⅱ	
22NBA210	疾病治療論Ⅱ	27	22NBA221	疫学	
22NBA211	疾病治療論Ⅲ				

看護の実践					
22NPR301	看護学概論	32	22NPR326	精神看護学概論	
22NPR302	基本援助技術	33	22NPR327	精神看護学援助論	
22NPR303	生活援助技術	34	22NPR328	精神看護学演習	
22NPR304	診療援助技術		22NPR329	家族看護学	
22NPR305	看護とコミュニケーション	35	22NPR330	終末期・緩和看護学	
22NPR306	看護展開論		22NPR331	がん看護学	
22NPR307	フィジカルアセスメント		22NPR332	補完代替医療と看護	
22NPR308	暮らしの理解	36	22NPR334	公衆衛生看護支援技術論	
22NPR309	地域・在宅看護学概論		22NPR335	公衆衛生看護支援技術演習	
22NPR310	地域・在宅看護学（生活援助技術）		22NPR336	対象別公衆衛生看護論	
22NPR311	地域・在宅看護学（医療関連技術）		22NPR337	地域活動支援演習	
22NPR312	在宅看護過程		22NPR338	基礎看護技術実習	37

看護学科 2022年度入学生

22NPR333	公衆衛生看護学概論		22NPR339	基礎看護展開実習	
22NPR313	成人の生活と健康		22NPR340	暮らしの理解体験実習	40
22NPR314	成人慢性期看護学		22NPR341	地域・在宅看護学実習	
22NPR315	成人急性期看護学		22NPR342	成人慢性期看護学実習	
22NPR316	成人看護学概論	38	22NPR343	成人急性期看護学実習	
22NPR317	老年看護学概論	39	22NPR344	老年生活支援実習	
22NPR318	老年生活機能援助論		22NPR345	老年退院支援実習	
22NPR319	老年健康回復援助論		22NPR346	小児看護学実習	
22NPR320	小児看護学概論		22NPR347	リプロダクティブヘルス看護学実習	
22NPR321	小児看護学援助論		22NPR348	精神看護学実習	
22NPR322	小児看護学演習		22NPR349	統合実習	
22NPR323	リプロダクティブヘルス看護学概論		22NPR350	学校・産業保健実習	
22NPR324	リプロダクティブヘルス看護学援助論		22NPR351	公衆衛生看護学実習	
22NPR325	リプロダクティブヘルス看護学演習				

看護の発展

22NAD401	医療安全学		22NAD409	看護キャリア論	
22NAD402	多職種連携論		22NAD410	看護叡智探究論Ⅰ(基礎)	41
22NAD403	看護管理学		22NAD411	看護叡智探究論Ⅱ(看護の基礎)	
22NAD404	災害看護学		22NAD412	看護叡智探究論Ⅲ(看護の専門)	
22NAD405	国際看護学		22NAD413	看護叡智探究論Ⅳ(看護の統合)	
22NAD406	医療経済論		22NAD414	看護研究の基礎	
22NAD407	看護行政と看護の展望		22NAD415	看護研究ゼミナール	
22NAD408	臨床判断演習		22NAD416	看護研究の実践	

看護学部

授業科目名	Science Basics	担当教員名	学内教員:南 幸子 外部講師:小川英雄・深川伸一
コード	22HUM101	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		

【授業の概要】

Science Basicsでは、高校までに学習した生物・化学・物理の振り返りをしながら、私たちの身体、人々をとりまく環境、地域の自然といった身近な現象を題材とし、Scienceの法則・原理を理解し、看護の専門的知識を学ぶための基盤づくりをします。

人間と相互に影響しあう自然環境を理解し、自然科学に関する基礎知識とそれに基づく広い視野からの科学的分析力を養うことが目標です。具体的には、体内で起きる化学反応、細胞の働きや遺伝情報、力と運動、天気の変化や地震、地球温暖化や自然災害について学びます。看護の仕事に欠かせない分野である生化学・生理学・物理学を学ぶ過程で、看護師として必要な「科学的な見方・考え方」を身に付けます。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 身のまわりの物質とその成分・性質について説明できる。		○			
2 からだをつくる原子・分子と化学変化について説明できる。		○			
3 からだのしくみや機能について説明できる。		○			
4 生命活動、エネルギーと代謝について説明できる。		○			
5 細胞のふえ方と遺伝について説明できる。		○		○	
6 からだの中の環境とその維持について説明できる。		○		○	
7 からだに関するテーマを設定し学んだことを発表することができる。		○		○	

【授業計画】		
	授業計画	
	授業外学修(予習・復習・課題等)	
1	<p>イントロダクション (学内教員 南)</p> <p>授業の目的・概要説明 物理学や生化学・生理学は、看護の仕事に欠かせない分野です。人間の体に関する「なぜだろう」、「どうなっているのだろう」と疑問を持つことから始めよう。 グループワークのためのオリエンテーションと複数の項目から興味のある分野を選択し学習テーマの決定。</p>	予習(60分):中高化学・生物の復習
2	<p>【化学】無機化学 (外部教員 小川)</p> <p>からだをつくる物質、元素、原子・分子(C,H,共有結合)有機物と無機物、イオン、イオン結合、共有結合、金属結合、分子間結合、空気、気体、水素、酸素、分圧、化学反応、化合、親水性、疎水性</p>	予習(20分):化学基礎準拠ノートp5-36 復習(25分):イオン結合・共有結合を原子の構造によって説明する。原子と分子とイオンとの違いは何か述べる。
3	<p>【化学】からだをつくる物質 (外部教員 小川)</p> <p>塩・酸・アルカリ、塩素とその化合物、水酸化ナトリウムとナトリウム、酸と塩基の電解度、水素イオン濃度、塩の加水分解、電解質、酸化・還元、窒素、二酸化炭素と一酸化炭素</p>	予習(20分):化学基礎準拠ノートp37-55 復習(25分):代表的な酸、硝酸、酢酸の構造と性質についてまとめる。代表的なアルカリ、水酸化ナトリウムの構造と性質についてまとめる。
4	<p>【生物】ヒトのからだのしくみ (外部教員 深川)</p> <p>細胞のつくり、遺伝情報とDNA、遺伝情報とタンパク質合成、食物の消化と吸収、消化酵素のはたらき、炭水化物の消化と吸収、脂肪の消化と吸収、ヒトのエネルギー</p>	予習(20分):生物基礎準拠ノートp4-19 復習(25分):ヒトのからだの成り立ちを細胞・組織・器官・個体で説明する。遺伝子の本体(DNA)の構造について説明する。三大栄養素の消化と吸収についてまとめる。
5	<p>【生物】ヒトのからだのしくみ (外部教員 深川)</p> <p>呼吸、内呼吸、栄養からエネルギーを取り出すしくみ、ミトコンドリア、外呼吸、ガス交換</p>	予習(20分):生物基礎準拠ノートp8-9、20-23 復習(25分):呼吸の意味、細胞の呼吸、外呼吸についてまとめる。
6	<p>【化学】有機化学 (外部教員 小川)</p> <p>からだを作るタンパク質の合成と官能基、カルボキシ基、アミノ基、アミノ酸構造式、アミノ酸の性質、タンパク質と構成アミノ酸、たんぱく質の性状・構成、DNA、水素結合、たんぱく質の代謝</p>	予習(20分):遺伝情報とタンパク質について予習する。 復習(25分):水素結合の例をあげ説明する。タンパク質合成のしくみについて図と文章でまとめる。
7	<p>【化学】糖質 (外部教員 小川)</p> <p>糖質の種類、糖質の構造・性質、単糖類、二糖類、多糖類、炭水化物、光学異性体、不斉炭素原子、化学変化とエネルギー</p>	予習(20分):糖類について予習する。 復習(25分):酵素による二糖の加水分解について表にまとめる。
8	<p>【化学】 (外部教員 小川)</p> <p>官能基、カルボキシル基、酢酸、脂肪酸、脂肪とあぶら、クエン酸、TCA回路、コレステロール、ステロイド、モノグリセリド</p>	予習(20分):官能基について予習する。 復習(25分):TCA回路についてまとめる。
9	<p>【グループワーク】 (学内教員 南)</p> <p>1回目のオリエンテーションで提示し選択したテーマについて中間発表を行いグループワークにより学びを深める、</p>	予習(20分):自分で選択したテーマについて、選択した理由・事前学習をA4一枚にまとめる。 復習(25分):グループ内の意見を参考にテーマについてまとめる。

10	【生物】(外部教員 深川) 血液とその循環、呼吸と循環、酸と塩基、pH、アシドーシス、アルカローシス、中和	予習(20分):生物基礎準拠ノートp20-23 復習(25分):血液のはたらきと成分、ヒトの心臓のつくり、血液の循環についてまとめる。	
11	【生物】(外部教員 深川) 代謝、酵素、エネルギー代謝、グルコースの代謝、アセチルコリンの代謝、アミノ酸の代謝	予習(20分):生物基礎準拠ノートp26、32-33 復習(25分):グルコースの代謝について図と文章で説明する。	
12	【生物】(外部教員 深川) 排出のしくみ、浸透圧、濾過	予習(20分):生物基礎準拠ノートp24-26 復習(25分):炭水化物・脂肪・たんぱく質の分解と排泄についてまとめる。	
13	【物理】(学内教員 南) 力と運動、力の分解、慣性の法則、等速直線運動、重力、圧力、てこの原理、力のモーメント	予習(20分):事前の配布資料を読む。 復習(25分):運動力学の「力の合成・分解」、「等速直線運動」、「慣性」、「重力」、「支点・力点・作用点」、「トルクの原理」、「力のモーメント」のどれかについて説明し、生活・遊び・看護にどのように活かされているか、また、活かしたいか論じる。	
14	自由研究発表(学内教員 南) グループ別に進行予定表の作成、役割の決定 選択したテーマに沿って物理・生物・化学的根拠の確認と探求をグループごとにまとめ発表準備	予習(45分):からだに関するテーマの発表準備、発表原稿作成	
15	自由研究発表(学内教員 南) 選択したテーマに沿って物理・生物・化学的根拠の確認と探求グループごとに発表と意見交換	復習(45分):からだに関するテーマのレポート各自提出	
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			記載事項: 特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
A4サイズのノートを準備する。授業前に数回、ノートの提出を求める。次回の授業前に返却する。不足のあるときは、補講時間に指導する。			
【成績の評価方法】			
1 定期試験(70%) 2 課題レポート(30%)			
【履修申請上の条件】			
記載事項: 特になし			
【教科書】			
印刷資料を準備する。			
【参考書】			
生物基礎準拠ノート 化学基礎準拠ノート ニューステージ生物図表(浜島書店)			
【オープンな教育リソース】			
記載: 特になし			
【担当教員の実務経験】			
外部講師2名:高校にて生物・化学の科目を担当。解剖生理などで必要な理系科目の基礎知識を、高校レベルから授業を展開する。 南幸子:臨床看護、訪問看護、特定居宅支援事業所、地域包括支援センターの勤務経験を活かし、看護に必要な基本的な看護の専門的知識を学ぶための基盤づくりの授業を展開する。			
【オフィスアワー】			
月～金曜日の昼休み・放課後			
【教員連絡先】			
南幸子 :sminami@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
記載:特になし			

授業科目名	データサイエンス	担当教員名	高橋 利光			
コード	22HUM102	区分 (必修・選択)	必修			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
本授業では、Windowsの機能や操作、ファイルの管理法、インターネットによる情報収集法と日本語ワードプロセッサであるWordについて学習する。Excelで表やグラフの作成、合計や平均値などの計算、集計、並び替え、条件文、検索やデータベースなどの関数の使用法を学習する。Windowsの機能や操作、ファイルの管理法、インターネットによる情報収集法と日本語ワードプロセッサであるWordについて学習する。Excelで表やグラフの作成、合計や平均値などの計算、集計、並び替え、条件文、検索やデータベースなどの関数の使用法を学習する。なお、専門科目で統計学を学ぶ準備段階として、関数の基本的な知識や技術を習得することも目的となっている。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	Windowsの基本的な知識を身に付け、操作することができる。					○
2	基本的な情報モラル、Web利用方法を説明できる。					○
3	情報資源・ネットワーク環境を利用して、情報を収集、分析、活用できるようになる					○
4	Microsoft Office Wordを利用し、基本知識・操作の習得から文書作成ができる					○
5	Microsoft Office Excelを利用し、基本知識・操作の習得と表計算、グラフ作成、基本的な関数を使用することができる					○
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	ガイダンス ・講義概要・講義計画の説明 ・アンケート調査(今までのPC使用状況など) ・コンピュータの基礎① Windows 基本説明	予習(30分):シラバスを確認する。PCを使用し、どんなことがしたいのか目的をイメージする(例:タイピングが速くなりたいなど)。 復習(60分):授業に配布する資料「1回目講義資料」の確認とタイピング練習 課題(120分):授業中に課題を提示する。				
2	コンピュータの基礎② ・Windows 基本と操作方法の説明・演習 ・利便性が高いアプリの紹介・使用説明	予習(30分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(コンピュータの基礎)」を確認する 復習(60分):授業に配布する資料「2回目講義資料」の確認とタイピング練習 課題(120分):授業中に課題を提示する。				
3	情報モラルとインターネットの活用方法 ・WEBサイトを利用し、効率の良い情報収集・検索方法の説明 ・基礎的な情報モラルとITルールについて動画閲覧	予習(30分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(情報モラルとインターネットの活用方法)」を確認する 復習(60分):授業に配布する資料「3回目講義資料」の確認とタイピング練習 課題(120分):授業中に課題を提示する。				
4	文書作成① ・Microsoft Office Wordの概要・機能説明 ・文書作成・演習	予習(30分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(Microsoft Office Word概要と機能)」を確認する 復習(60分):授業に配布する資料の確認とタイピング練習 課題(180分):授業中に中間課題を提示する。				
5	文書作成② ・Microsoft Office Word 機能の復習と操作方法 ・文書作成・演習	予習(30分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(Microsoft Office Word基礎操作)」を確認する 復習(60分):授業に配布する資料の確認とタイピング練習 課題(120分):授業中に課題を提示する。				
6	表計算ソフト利用① ・Microsoft Office Excelの概要説明と操作 ・表計算方法・演習	予習(30分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(Microsoft Office Excel概要と機能)」を確認する 復習(60分):授業に配布する資料の確認とタイピング練習 課題(120分):授業中に課題を提示する。				
7	表計算ソフト利用② ・Microsoft Office Excelの基礎操作 ・数式と関数使用・演習	予習(30分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(Microsoft Office Excel操作と関数表)」を確認する 復習(60分):授業に配布する資料の確認とタイピング練習 課題(120分):授業中に課題を提示する。				
8	・情報モラル復習 ・Microsoft Office Word/Excel 復習 ・アンケート調査(習熟度確認)・演習	予習(30分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(総復習資料)」を確認する 復習(60分):1回～8回の講義資料を確認する。 課題(180分):授業中に最終課題を提示する。				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)		○	PC操作に慣れるため、授業の始まり10分間、タイピング練習を行う。			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
・課題・レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。						
【成績の評価方法】						
授業での取り組み(40%) 各授業の演習課題提出(40%) ※演習課題は、提出するだけでなく提出物の内容を見て評価する。 小レポート(20%) ※レポート課題を2回提示する。						
【履修申請上の条件】						
特になし						
【教科書】						
講義プリントを配布。						
【参考書】						
特になし						

【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 大学、高等学校、専門学校の情報処理講義を経験
【オフィスアワー】 授業内容についての質問やコメントは講義開始前もしくは終了後、教室で行う。
【教員連絡先】
【備考】 必修授業なので、やむを得ない場合を除いて毎回出席すること。毎回、次回講義の「予習資料」を配布する。

授業科目名	情報リテラシー	担当教員名	高野 卓美
コード	22HUM103	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/演習
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		

【授業の概要】

インターネットの普及により社会にはさまざまな情報があふれている。その中からいかに信用性の高い、あるいは目的にかなう情報を取捨選択するか、情報をいかに安全に取り扱うか、または自分の情報を守るかなど、情報をとりまく社会の問題点について検討していく。また、現代社会ではSNSによって意図とせず誤解を生んだり非難の対象となる例が多く見受けられ、加害者や被害者にならないための情報に関する基本的な知識(情報リテラシー)が必要とされている。

本授業では現在の情報化社会に必要な情報リテラシーを学び、その知識を正しく使う方法について考える。また、パソコンを使用してExcel、Word、PowerPoint、Internet、メールファイル圧縮・解凍についての基礎知識を学び、ディスカッションを通して学生の主体的な学びを喚起する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 情報化社会に必要なPCの基本操作ができる。					○
2 ファイルの操作ができ、必要な保存、印刷ができる。		○			○
3 Microsoft Wordの知識を理解し文書作成が実践できる。					○
4 Microsoft Power Pointで図や画像をとりこんだスライドの作成ができる。					○
5 Microsoft Excelの知識を理解し表計算、グラフ作成が実践できる。					○
6 Microsoft Excelで統計の基礎を説明できる。					○
7 インターネットやPDFファイルの利用ができ、ファイルの圧縮解凍ができる。					○

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	Windowsの基本操作 ・PCを起動しログインを行う ・画面名称 ・マウス操作 ・キーボードの名称 ・日本語IMEのON/OFF ・文節変換 ・課題プリント配布	予習:教科書「1章Windows」を読み、分からない箇所を抽出する:(60分) 課題:配布されたプリントを完成させる(60分)
2	Wordの基礎 ・前回の課題プリントを回収する ・Wordの基本操作を学ぶ ・新しいファイルを作成し、ページ設定、入力、表の作成、図形の作成、画像の挿入を行う ・課題ページ確認	予習:教科書「2章 Word」の該当部分を読み、分からない箇所を抽出する:(60分) 課題:文書の作成「アンケート用紙」「グラデーションを使った図形」(60分)
3	PowerPointの基礎 ・前回の課題ファイルを回収する(1回目のプリント返却) ・PowerPointの基本操作を学ぶ ・新しいスライドの作成を行い、スライド追加やオブジェクトの編集を行う ・課題ページ確認	予習:教科書「3章PowerPoint」の該当部分を熟読する(60分) 課題:スライドの作成と編集(60分)
4	Excelの基礎 ・前回の課題ファイルを回収する(2回目の課題返却) ・Excelの基本操作を学ぶ(列幅変更、セルの結合、セルの罫線、四則演算など) ・課題ページ確認	予習:教科書「4章 Excel」の該当部分を読み、分からない箇所を抽出する:(60分) 課題:アンケート用紙の作成「課題4-1」(60分)
5	Excelの計算 ・前回の課題ファイルを回収する(3回目の課題返却) ・Excelの基本的な関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN)を学ぶ ・グラフの作成 ・課題ページ確認	予習:教科書「4章 Excel」の該当部分を読み、分からない箇所を抽出する:(60分) 課題:アンケート用紙の作成、グラフ「課題4-2」(60分)
6	Excelの集計機能 ・前回の課題ファイルを回収する(4回目の課題返却) ・Excelの集計に役立つ関数を学ぶ(標準偏差、COUNTIF) ・重複データチェック ・課題ページ確認	予習:教科書「4章Excel」の該当部分を読み、分からない箇所を抽出する:(60分) 課題:アンケートの集計「課題4-3」(60分)
7	Excelの統計機能 ・前回の課題ファイルを回収する(5回目の課題返却) ・Excelの基本的な統計機能を学ぶ(テーブル、ピボットテーブル、条件付き書式) ・課題ページ確認	予習:教科書「5章統計」の該当部分を読み、分からない箇所を抽出する:(60分) 課題:「身長や血液型のデータ」、「男性と女性の赤血球」「腫瘍マーカー検査」(60分)
8	インターネットと情報セキュリティ ・前回の課題ファイルを回収する(6回目の課題返却) ・SNSモラルやメールのマナーについて知り、感想を発表する ・PDFファイルの使い方、作成方法、メールへの添付を学ぶ	予習:教科書「6章インターネットと情報セキュリティ」の該当部分を読み、分からない箇所を抽出する:(60分) 課題:PDFファイルを作成し、メールで提出する(60分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	スライドショーや動画
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】 課題に対するフィードバックは次の授業において口頭またはプリント返却で行う		
【成績の評価方法】 授業への参加10%、課題提出を30%、定期試験を60%として総合評価を行う		
【履修申請上の条件】 特になし		
【教科書】 医療・看護系のための情報リテラシー Office 2019対応版 東京図書		
【参考書】 特になし		
【オープンな教育リソース】 特になし		
【担当教員の実務経験】 一般企業、省庁にてOffice製品を使用した書類作成、サポート業務、マニュアル作成などの実務経験を活かし、間違いやすいポイントや修正方法を含め簡単明瞭な指導を行う。		
【オフィスアワー】 毎週木曜日 8:30～9:00 実習教室 事前に連絡を取ること		
【教員連絡先】 tkouno@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】 教科書に沿った実習を行うため、毎回教科書は予習を行い持参してくること。		

看護学部

授業科目名	看護学セミナー	担当教員名	山本 君子・宮本久雄・伊藤菜穂				
コード	22JUN104	区分 (必修・選択)	必修				
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】 本科目は、看護学を学ぶ上での導入科目として位置づいている。大学生に期待される基礎的な学びの態度・方法・知識などを修得し、高校生から大学生へのスムーズな移行を図る。具体的には、保健看護医療福祉の分野から、個人またはグループで関心のあるテーマを選び、関連した文献を読み、グループディスカッションなどを通し、考察を深め、プレゼンテーション、レポート作成を行う。レポート作成を通し、著作権や個人情報保護などの法令遵守の意識を持ち、人権、個人情報、著作権について説明できるようにする。また、研究についての倫理を学び、不正(捏造・改ざん・盗用)について説明できるようにする。 学生主体型授業展開をし、自ら必要な知識を得て、各自の課題に気づきその課題に向けての解決策について体系的に考えることができるようにする。また、学ぶために必要な聴く・読む・書く・調べる・整理する・要約する・まとめる・表現する・伝える・考えるなどについて授業を通して学修する。さらに、卒業後のキャリア生活を見据え、期待される看護職とはどのような存在であるのかということ早期より考察する力をつける。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
		ディプロマ・ポリシー					
		①	②	③	④	⑤	
1	キリスト教の愛の精神について自分の考えを説明できる。	○				○	
2	大学での学修方法が説明できる。					○	
3	教科書や文献の活用方法と授業中のノートの整理方法や工夫する方法を述べるができる。					○	
4	図書館とデータベースを活用する方法および資料収集方法、基本的なルールについて説明できる。					○	
5	科学的・論理的な視点でレポート作成できる。					○	
6	社会人として求められるコミュニケーション能力について記述できる。					○	
7	看護学を学ぶ意義を記述できる。					○	
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	授業ガイダンス 生徒から学生への変換「大学で学ぶことの心構え」 大学で学修することの意義を学ぶ 【講義】	担当:山本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(15分):講義を振り返り、これからの自己の考えをA-4用紙にまとめる。				
2	自己表現と対人コミュニケーション 他者紹介:学生間でインタビューを行いその内容をまとめ、他者に紹介を行う グループ内で感想を語りあい、他者紹介を振り返る。 【講義】	担当:山本	予習(30分):自己表現とコミュニケーションに必要な、話の順番、話の間のとり方、傾聴などについての資料を検索し準備する。 復習(15分):講義を振り返り、学びをA-4用紙にまとめる。				
3	レポート作成時の書籍、資料、文献収集方法など(図書館) 研究についての倫理の基礎(捏造・改ざん・盗用)について 【講義】	担当:山本	予習(30分):事前に図書館を見学する。 授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、自己の関心・興味のあるテーマを選択し、そのテーマを選んだ理由をノートにまとめる。 復習(15分):講義を振り返り、学びをA-4用紙にまとめる。課題図書の見学等に取り組む。				
4	本や資料を音読し、文章の読み方、言葉の調べ方など(図書館) 【講義】	担当:山本	予習(30分):自分の関心・興味のある書籍や文献について説明できるように準備する。 復習(15分):講義を振り返り、学びをA-4用紙にまとめると共に課題に取り組む。				
5	レポートの書き方の基本事項-① レポートとは何か レポートの形式や書き方の基本事項について 著作権や個人情報保護などの法令遵守、人権、個人情報、著作権について 【講義】	担当:山本	予習(30分):テキストのレポートの書き方の箇所を熟読する。 山本君子著:癒し 井深八重のハンセン病患者へのケアを熟読し、レポート作成する。 復習(15分):講義を振り返り、学びをA-4用紙にまとめると共に課題に取り組む、発表会に備える。				
6	テーマに沿っての、レポート作成-② 各自で自己のレポートを添削し、グループ内で発表し合う。 【講義】	担当:山本	予習(30分):講義を通しての学びをもとに、自己のレポートを添削し、発表資料を準備する。 復習(15分):発表会を通して自己の学びをA-4用紙にまとめる。				
7	水俣病のDVD「花をたてまつる」視聴 介護とは? 【講義】	担当:宮本	予習(30分):水俣病についての書籍や文献について説明できるように準備する。 復習(15分):講義を振り返り、学びをA-4用紙にまとめると共に課題に取り組む。				
8	石牟礼文学と水俣病との関りについて 【講義】	担当:宮本	予習(30分):現代の人間関係(夫婦)についての書籍や文献について説明できるように準備する。 復習(15分):講義を振り返り、学びをA-4用紙にまとめると共に課題に取り組む。				
9	文章の要約-① 書籍に書かれた内容を理解しやすくまとめる 【講義】	担当:山本	予習(30分):テキストの「読む力を伸ばす」「読んで要約する」箇所を熟読する。 本紹介(①看護の力②希望病棟③晴れたらいいね④看護師という生き方⑤勇気は一瞬後悔は一生⑥心のナース⑦気にしない⑧ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー) 上記①～⑧の紹介の本から、グループ毎に選択し要約する。 復習(15分):講義を振り返り、学びをA-4用紙にまとめると共に課題に取り組む、発表会に備える。				
10	文章の要約-② 伝わりやすい文章の構成や仕方の基本 【講義】各自で自己のレポートを添削し、グループ内で発表し合う。	担当:山本	予習(30分):選択した本について説明できるように準備する。 復習(15分):発表会を通して自己の学びをA-4用紙にまとめる。				

11	口頭発表の基本的事項 【講義】	担当:山本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、口頭発表の基本的事項を説明できるように準備する。 復習(15分):講義を振り返り、学びをA-4用紙にまとめると共に課題に取り組む。	
12	口頭発表実施 【講義】	担当:山本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、口頭発表の基本的事項を説明できるように準備する。 復習(15分)::講義を振り返り、学びをA-5用紙にまとめると共に課題に取り組む。	
13	看護と倫理-① 看護職の倫理綱領について 【講義】	担当:山本	予習(30分):公益社団法人日本看護協会のホームページ「看護職の倫理綱領」「忘れられないエピソード」で興味・関心のあるテーマを選択し、選んだ理由と自分の考えをノートにまとめる。 復習(15分):講義を振り返り、学びをA-4用紙にまとめると共に課題に取り組む。	
14	看護と倫理-② 各自がまとめてきた「看護職の倫理綱領」「忘れられないエピソード」について、グループで発表し合う。 【講義】	担当:山本	予習(30分):第5回の授業における自己の学びを他者に伝えるための発表資料を準備する。 復習(15分):発表会を通して自己の学びをA-4用紙にまとめる。	
15	看護学を学ぶ意義 まとめ 学びの発表 【講義】	担当:山本	予習(30分):第14回の授業における自己の学びを他者に伝えるための発表会資料を準備する。 復習(15分):発表会を通して自己の学びをA-4用紙にまとめる。 課題レポート:1回~15回までの授業を振り返り「看護職を目指すために4年間の大学生活をどのように過ごすのか自己の考え」についてまとめる。 1000~1500字程度のレポート作成。 ★15回目の発表会を通して自己の学びA-4用紙のまとめ・課題レポート提出。 ★提出日は授業終了1週間後とする。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			○	DVD活用 iPad
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○	
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション			○	
【課題のフィードバック】				
リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義に実施する。				
【成績の評価方法】				
復習での自己の学びA-4用紙のまとめ30点(①~⑫総計)、発表会参加度40点(⑬~⑮総計)総合評価する。 課題レポート点30点(⑯)の評価基準は、「到達目標1~5」に示している「視点ならびに根拠の明確化の程度」で作成した評価表を用いて評価する。(定期試験は実施しない)				
【履修申請上の条件】				
特になし				
【教科書】				
1. 世界思想社編集部:大学生 学びのハンドブック[5訂版], 世界思想社, 2021. 2. 坂井浩美・山崎啓子著:看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK, 日本看護協会出版, 2021. 3. 峰村淳子・石塚睦子編:よくわかる 看護職の倫理綱領 第3版, 照林社, 2022.				
【参考書】				
1. 梶谷佳子、河原宣子、堀 妙子編集:看護学生のための よくわかる大学での学び方, 金芳堂, 2018. 2. メヂカルフレンド社編集部:New看護学生プレトレーニング 看護を学ぶ前にもう一度整理しておきたい基礎知識, メヂカルフレンド社, 2019. 3. 佐藤智明、矢島 彰、山本明志編:3訂 大学 学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック、ナカニシヤ出版, 2020.				
【オープンな教育リソース】				
公益社団法人日本看護協会ホームページ https://www.nurse.or.jp/episode/				
【担当教員の実務経験】				
看護師としての実務経験および看護大学の教員経験のある者、コミュニケーションの知識のある者、図書館の知識のある者を中心に、看護学セミナーを教授する。				
【オフィスアワー】				
火・木の12:10~13:00				
【教員連絡先】				
k_yamamoto@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
この科目は、看護学の基礎的知識・技術・態度について学びます。また、クラスで協同するグループワークも取り入れていますので積極的な参加が必要です。 進度は、1週間に2時間ずつ進みます。必ず、教科書や図書館の資料などを活用し、予習、復習を丁寧に行うことにより、看護学への学問的な関心が高まります。後期に位置する専門科目の履修に重要な科目です。				

看護学部

授業科目名	キリスト教学	担当教員名	宮本 久雄		
コード	22JUN105	区分 (必修・選択)	必修		
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。				
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。				
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。				
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。				
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。				
【授業の概要】					
<p>看護に職業と人生の意義を学生一人ひとりが見出すことを授業の目的とする。 そのための最も基本的な自らの成熟を励まし促す方策として「他者論」を提示する。 すなわち、「他者論」とは、他者が誰であり、他者と出会い共に生きることの自覚の深まりである。 この「他者論」のテーマをめぐって、授業では物語的方法をとる。 そこでは他者と真に出会い、他者に供えつつ共に生きた人々の物語を紹介していきたい。 その人々は、宗教・科学・文学・死生学などの分野に生きた人々である。 例えば、知的ハンディを負った子供たちと生きたJ・パニエ、水俣病患者の苦姿を共苦した石牟礼道子、カルカッタで弱い病者などに献身したマザー・テレサ、愛の福音を全人類に向けて語ったイエス・キリストです。 授業では、彼らの物語資料、テキスト、言葉そして彼らを具体的に示すDVDを用い、学生諸君に解り易いように解説します。 その授業内容を若者学生が、全心身に体现できるように。</p>					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー
					① ② ③ ④ ⑤
1 授業において「他者の物語」をよく聞き身につけ、他者の尊厳と権利を守る為奉仕するその意味を述べるができる。					○
2 「他者の物語」とは、他者のために生きた人格(イエス、マザーテレサなど)の物語り、豊かな人間性の悟りであるそのことを述べるができる。					○
3 「他者の物語」の傾聴は、自己が他と関わる人格の育みの根本となり、看護の根本となる具体的な内容を述べるができる。					○
4 こうして地域社会のいろいろな人々と出会い、人々の心身共なる健康の育成に貢献する看護の三原則cure、care、他者のcarryの人間力を豊かにし、国際社会でも活躍できることを具体的に説明できる。					○
【授業計画】					
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	原子力関連の問題、DVD「チェルノブイリ」を見る。 ノーベル文学賞作品『チェルノブイリの祈り』を読む	原爆を通して結ばれた絆について(予習「教科書」183～184頁:20分) 原子力発電所の事故や核分裂について(復習:40分) 「チェルノブイリの祈り」(復習:90分)			
2	DVD「十万年後の安全」を見る。	「善きサマリア人のたとえ」(予習:120分) 「十万年後の安全」の復習(40分)			
3	イエスのたとえ;「善きサマリア人」1イエスの時代	「罪深い女」(予習:120分) 「たとえ」という文学類型の復習(40分)			
4	「善きサマリア人」2、「罪深い女」	「無慈悲な僕」(予習:100分) 「善きサマリア人」の復習【「教科書」6日目(60分)】			
5	「無慈悲な僕」(エンブレム付き)	「無慈悲な僕」(エンブレム)【復習:120分】 「罪深い女」の復習【「教科書」5日目(40分)】			
6	マザー・テレサの生涯と伝き;DVDも見る。マザー・テレサのことば	たとえにひびく福音の精神を学ぶ。(復習:30分) マザー・テレサの生涯とことばの復習(復習:130分)			
7	ハンセン病患者への奉仕者井深八重、DVDを見る	井深八重とマザー・テレサについて学ぶ(160分)			
8	ジャン・パニエと知的ハンディの人々の協働体「ラルシェ」	相模原「津久井やまゆり園」事件から学ぶ(30分) ジャン・パニエと「ラルシェ」について復習(130分)			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)			DVDなどの活用		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)					
③:ディスカッション・ディベート		○			
④:グループワーク		○			
⑤:プレゼンテーション		○			
⑥:実習・フィールドワーク					
【課題のフィードバック】					
<p>レポートの書き方の説明と予行実習をする。 リアクション・ペーパーについてのコメントを行う。</p>					

<p>【成績の評価方法】</p> <p>前期のレポート(70%)、リアクション・ペーパー(10%)、授業中にテキストを読んでもらう時の態度など(20%)、他</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>「関わる」ということ。新世社</p>
<p>【参考書】</p> <p>拙著『いのちの記憶』新世社、新約聖書「マタイによる福音書」、『そうか！なるほど！！キリスト教』日本キリスト教団出版局</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>毎年第四土曜日頃に(マリア祭の時に)キリスト教文化研究センターが開催するシンポジウム。第一会議室にて。</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>神学研究・実践者として、東大25年、上智大8年、本学5年目の実務経験を通し、各学生のレベルを見極めながら、特に看護師となって成長する上で物語論を工夫している。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>木曜日9時半～12時10分</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>電話・FAX 03(3463)2536</p>
<p>【備考】</p> <p>教科書は市場で入手することは難しいので、教官の研究室で安価に購入できるようにする。 4月21日の「看護学セミナー」(1限・2限)において、水俣病のDVDとその説明をする。</p>

授業科目名	純心平和学	担当教員名	田尻 真理子 大竹聖美 佐野通夫			
コード	22JUN106	区分 (必修・選択)	必修			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ確かな臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
マリア様、嫌なことは私が喜んで」という学園標語は、ひとりひとりが小さな平和を実現してゆくために、「他人の立場に立って愛の心で」行動するための指針となっている。「純心平和学」は、Sr.江角の平和への希求を一人ひとりが実現するための手がかりとなるものである。ところで、平和へのアプローチは多様で、さまざまな視点から平和について考え、取りくむことが可能である。本講では、音楽、絵本、教育などの観点から平和について考える糸口を探る。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	
				③	④	
				⑤		
1	1 学生個々人が自分なりの興味・関心・問題意識から「平和」について積極的に考える糸口を発見し、自分なりの平和についてのアプローチを見出すことができるようになる。				○	
2	「マリア様、嫌なことは私が喜んで」を日々、積極的に、喜んで実践し、周囲の人々に喜んでもらえる＝自分の身近なところから平和を作り出していくことができる、すなわち、建学の精神を日々実践できるようになる				○	
3						
4						
5						
6						
7						
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	導入(田尻):担当教員紹介(全教員)、授業の概要、目標、進め方、評価方法等 (田尻) 東京純心女子学園創立者 Sr.江角 ヤス先生 について (田尻)	シラバスを熟読してくること 配布資料の「第一回の授業を受けて」のページで指示された項目について記入すること(第1回事後・60分)第二回で提出				
2	音楽と平和(鎗木):レクチャーコンサート (鎗木) (講堂)	予習]終末期医療について調べ続ける。 【復習】配布資料中指示された項目について記入 (90分) 第三回提出 ←添削後第四回授業にて返却、講評				
3	絵本と平和1 (大竹)	【予習】 【復習】【復習】配布資料中指示された項目について記入 (90分) 第五回提出 ←添削後第六回授業にて返却、講評				
4	絵本と平和1 (大竹)	【予習】 【復習】【復習】配布資料中指示された項目について記入 (90分) 第五回提出 ←添削後第六回授業にて返却、講評				
5	絵本と平和1 (大竹)	【予習】 【復習】【復習】配布資料中指示された項目について記入 (90分) 第五回提出 ←添削後第六回授業にて返却、講評				
6	教育と平和1 (佐野)	【復習】授業時指示された課題 (90分) 第七回提出 ←添削後第八回授業にて返却、講評				
7	教育と平和2 (佐野)	【復習】授業時指示された課題 (90分) 第八回提出 ←添削後適宜返却				
8	教育と平和3 (佐野)	【復習】授業時指示された課題 (90分) 第レポートボックスに提出 ←添削後適宜返却				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○				
③:ディスカッション・ディベート		○				
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション		○				
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
提出された課題への添削および授業内での言及・講評						

【成績の評価方法】 配布資料記載欄記載(50%) レポート(50%)
【履修申請上の条件】 特になし
【教科書】 授業内配布資料
【参考書】 授業内で指示
【オープンな教育リソース】 授業内で指示
【担当教員の実務経験】
【オフィスアワー】
【教員連絡先】 mtajiri@g.t-junshin.ac.jp
【備考】

授業科目名	心理学概論	担当教員名	小俣 沙知
コード	22HDE108	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
心理学は、目に見えないところを客観的に研究する学問である。本講義では、心とからだのつながり、ストレスの概念、心身の発達などを理解し、知覚、学習と記憶、知能、言語、人格などの心理学の基礎的な知識を修得する。人間理解の科学的アプローチとして感覚、認知について学び、その上で、個人の特性を理解するアプローチとして性格について学ぶ。また、社会的態度や集団行動などの社会心理についても言及し、心理学の理論について概観していく。日常生活の中で経験している様々な現象や問題と関連づけながら、人間のこころについて考え、理解を深める。心理学で得られた知識を、対人支援の場面や、専門職間や関係機関との連携の場面などで、活用できることを目的としている。			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			
			ディプロマ・ポリシー
			① ② ③ ④ ⑤
1 人間の心理と行動について学び、自己と他者の理解を深め、心理学の基礎的知識を用いて自己と他者について説明することができる。			○
2 心とからだのつながり、ストレス、心身の発達について説明できる。			○
3 心理学の基礎的知識を習得するとともに、人のこころの働きやより広い視野を持って人間を理解し、人間についての自分の考えを述べるができる。			○
4 人のこころの働きの基本と個人差を理解するとともに、対人支援について説明できる。			○
【授業計画】			
授業計画		授業外学修(予習・復習・課題等)	
1	オリエンテーション 「心理学」の目的について学ぶ	課題:シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加する 予習:心理学について調べまとめておく(30分) 復習:心理学の学修の目的について理解し、対人支援で必要な心理的な視点について自分の考えをまとめる(90分)	
2	認知(環境の認知、感覚、知覚など)について学ぶ 確認小テスト	予習:人の感覚を通して知覚する認知についてまとめてくる(30分) 復習:認知について理解を深め、錯視・錯覚などの認知について自分の考えをまとめる(90分)	
3	感情(感情の仕組み、情動など)について学ぶ 確認小テスト	予習:人の感情について調べまとめておく(30分) 復習:感情の仕組みについて理解を深め、感情について自分の考えをまとめる(90分)	
4	欲求(欲求不満、子どもの欲求の発達)について学ぶ 確認小テスト	予習:欲求について調べまとめておく(30分) 復習:欲求の意味を理解し、欲求不満の対処について自分の考えをまとめる(90分)	
5	性格(性格の分類など)について学ぶ 確認小テスト	予習:自分らしさについて調べまとめておく(30分) 復習:性格の分類について理解を深め、性格の構成について自分の考えをまとめる(90分)	
6	性格(自己理解と他者理解、性格判断の偏見など)について学ぶ 確認小テスト	予習:他者を理解するときの手がかりを調べまとめておく(30分) 復習:性格診断から自己理解を深め、自分らしさがどのようなものか性格診断の偏見を踏まえて自分の考えをレポートにまとめる(90分)	
7	社会心理学(対人影響、同調などの集団における個人への影響など)について学ぶ 確認小テスト	予習:社会心理学について調べまとめておく(30分) 復習:集団における個人への影響の理解を深め、他者との連携場面での対人影響について自分の考えをまとめる(90分)	
8	社会心理学(社会的態度、説得など)について学ぶ 確認小テスト	予習:説得について調べまとめておく(30分) 復習:社会的態度について理解を深める、説得について自分の考えをまとめる(90分)	
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		○	メディア映像の活用
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
フィードバックとして、レポート課題にコメントを入れて返却する。 フィードバックとして、解答の解説を授業内に行う。			

<p>【成績の評価方法】</p> <p>授業参加度:10%、確認小テスト 30% 確認テスト:30% 課題レポート:40%</p> <p>1. どの程度、積極的に授業時に参加したかを「授業参加度」として評価する。</p> <p>2. 毎回授業の初めの前回授業内容の確認小テストと、最終回での確認テストにおいて授業内容の理解度を評価するペーパーテスト(客観テスト)を行う。</p> <p>3. 課題レポートでは、対人支援における他者理解で心理学の基礎的な理論が応用できているかの視点を重視する</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし。</p>
<p>【教科書】</p> <p>授業内で適宜、資料等を配布していく。</p>
<p>【参考書】</p> <p>「看護学生のための心理学」(長田久雄著) 医学書院</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし。</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>特になし。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>金曜日 午前</p>
<p>【教員連絡先】</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし。</p>

授業科目名	叡智の探究	担当教員名	西村 雄太			
コード	22JUN110	区分 (必修・選択)	選択			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
哲学史全体を概観しつつ、ソフィア(叡智)と倫理人(人間の生き方)を探求する。本授業では主に西洋古代哲学の代表的な哲学者であるソクラテス、プラトンの人間観を概観していく講義形式である。また、プラトンの作品を手がかりに、哲学的な問いに受講生の皆さんが個人で向き合うだけでなく、小グループを作りその中のメンバーとの対話を通して意見交換するなどグループワークも取り入れる。今から2500年ほど前の古代ギリシャで哲学者が人間をいかに理解しようとしていたのかを「生と死」「勇気とは何か」「正義とは何か」などのテーマを概説する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	どのような立場や身分にある人にとっても「正しい」と言えるような正しさを探求することができる。	○				
2	他者の自律を尊重する必要性を説明することができる。	○				
3						
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	導入:正義とは何か?	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
2	5人の命を救うために1人を殺すことは許されるか?	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
3	幸福感を最大化することは善か?	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
4	人の幸福度は比較できるか?	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
5	他人に危害を加えないなら何をしてもよいのか?	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
6	社会による個人の自由の制限の是非について	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
7	行為の動機の重要性	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
8	嘘はいかなる場合でもつくべきではないのか?	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
9	道徳に例外はあるか?	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
10	正しさは人それぞれか?	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
11	何が悪を引き起こすのか?	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
12	依怙最眞(えこひいき)は道徳的とは言えないか?	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
13	ルールを守らないといけない理由は何か?	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
14	なぜ動物に権利を認めるべきなのか?	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
15	まとめと議論	予習:テーマについてインターネットで調べておく。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
提出された課題に対するフィードバックは、次回の講義の際に行う。						
【成績の評価方法】						
毎回の課題(50%): Googleフォームを通じてオンラインで提出。 平常点(50%): グループワークへの積極的な参加等を評価する。						
【履修申請上の条件】						
特になし。						

【教科書】 プリントを配布する。
【参考書】 授業内で適宜紹介する。
【オープンな教育リソース】 特になし。
【担当教員の実務経験】 特になし。
【オフィスアワー】 質問は授業後に受け付ける。
【教員連絡先】 ynishimura@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし。

授業科目名	運動理論・実技	担当教員名	下川 学			
コード	22HUM111	区分 (必修・選択)	選択 (保健師課程は必修)			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/ 形態	2単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
本科目では、基礎体力の向上に必要な栄養・食育教育を重視し、心身の健全な育成に生涯にわたって影響力を持つスポーツについて実践していく。また、リーダーシップなどの社会性を養うとともに、生涯スポーツ参加への重要性を学修する。講義は、運動理論として健康とスポーツについての関連について学修し、学びを深める。実技は、スポーツの技能、体力づくりの方法、ルール等の技術向上と体力の増進および健康づくりを体験的に学修する。履修者が多い場合の授業形態は、実技と課題を隔週ごとに行うこととする。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	国民栄養の現状や国民健康・栄養調査等から健康問題についての解決策を述べることができる。			○		
2	体育方法学の面から運動処方、行動変容について説明できる。			○		
3	卓球の実践を通して心と体を一体としてとらえ、ルールが説明でき、技術が向上する。			○		
4	卓球の第1目標は、フォアハンドでラリーができる。第2目標は、バックハンドでラリーができる。第3目標は、ダブルスでゲームができる。			○		
5						
6						
7						
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	オリエンテーション (課題):健康観	・シラバスを一読しておくこと。(60分) ・実技は第2体育館で行う。				
2	(理論)課題:健康や寿命に関すること① (実技)卓球:フォアハンド、バックハンド	・与えられた課題について確認しておくこと(60分) ・実技は、運動の出来る服装(体育館シューズを含む)で授業に臨むこと。 ストロークについて確認しておくこと(60分)				
3	(理論)課題:健康や寿命に関すること② (実技)卓球:フォアハンド、バックハンド	・与えられた課題について確認しておくこと(60分) ・実技は、運動の出来る服装(体育館シューズを含む)で授業に臨むこと。 ストロークについて確認しておくこと(60分)				
4	(理論)課題:国民健康・栄養調査①栄養に関すること (実技)卓球:フォアハンド、バックハンド、ツッツキ	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・基本的な動きについて復習しておくこと。(60分)				
5	(理論)課題:国民健康・栄養調査②栄養に関すること (実技)卓球:フォアハンド、バックハンド、ツッツキ	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・基本的な動きについて復習しておくこと。(60分)				
6	(理論)課題:国民健康・栄養調査③体型に関すること (実技)卓球:フォアハンド、バックハンド、ツッツキ、サービス	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・基本的動作のイメージトレーニングをしておくこと。(60分)				
7	(理論)課題:国民健康・栄養調査④体型に関すること (実技)卓球:フォアハンド、バックハンド、ツッツキ、サービス	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・基本的動作のイメージトレーニングをしておくこと。(60分)				
8	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑤運動に関すること (実技)卓球:ストローク、サービス、ラリー	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・シングルのルールについて予習(30分)、サービスの方法の復習(60分)。				
9	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑥運動に関すること (実技)卓球:ストローク、サービス、ラリー	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・シングルのルールについて予習(10分)、サービスの方法の復習(60分)。				
10	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑦睡眠に関すること (実技)卓球:ゲーム(シングルス)	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・ダブルスのルールについて予習しておくこと。(60分)				
11	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑧睡眠に関すること (実技)卓球:ゲーム(シングルス)	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・ダブルスのルールについて予習しておくこと。(60分)				
12	(理論)課題:運動処方① (実技)卓球:ゲーム(ダブルス)	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・ダブルスのルールの再確認とペアとの連携について確認をしておくこと。(60分)				
13	(理論)課題:運動処方② (実技)卓球:ゲーム(ダブルス)	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・ダブルスのルールの再確認とペアとの連携について確認をしておくこと。(60分)				
14	(理論)課題:行動変容① (実技)卓球:ゲーム(ダブルス)	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・ペアとの連携について再確認をしておくこと。(60分)				
15	(理論)課題:行動変容② (実技)卓球:ゲーム(ダブルス)	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・ペアとの連携について再確認をしておくこと。(60分)				

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】 次回の授業時に行う。		
【成績の評価方法】 授業への取り組み(60%)、レポートや試験(40%)などにより総合的に評価する。		
【履修申請上の条件】 シラバスの内容は受講生のレベルに応じて対応する。実技は第2体育館で行い、課題は教室で行う。体調に留意して授業に臨むこと。		
【教科書】 使用しない。必要に応じて資料を配付する。		
【参考書】 使用しない。必要に応じて資料を配付する。		
【オープンな教育リソース】 特になし		
【担当教員の実務経験】 特になし		
【オフィスアワー】 メールで対応する		
【教員連絡先】 mshimokawa@gt-junshin.ac.jp		
【備考】 特になし		

授業科目名	社会学概論	担当教員名	池本 紗良
コード	22HUM116	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
社会学は何を研究する学問なのか。この問いに正確に答える人は少ない。「社会全体の政治や経済をテーマにする」では不可である。社会学の授業は小・中・高等学校で学習してきた社会科とは異なり、生活環境の側面と社会的・文化的側面を併せもつ私達の生活を多面的に考究していく人間理解のための内容となる。小・中・高等学校での社会科授業ではとすると人間の在り方生き方の問題が捨象されがちであったが、授業では生身の人間の来し方の記録、記憶に焦点をあてながら、未来の生活を創造していくのに必要な事柄を学修する。			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			
			ディプロマ・ポリシー
			① ② ③ ④ ⑤
1 社会の成り立ちを理解し、身近な出来事や人間関係等を社会や歴史と結びつけて説明できる。			○
2 医療・看護の社会的意味・意義について説明できる。			○
3 課題解決にむけて論理的かつ積極的に参画できる。			○
【授業計画】			
授業計画		授業外学修(予習・復習・課題等)	
1	社会学とは何か ・社会学の成立と展開 ・さまざまな専攻分野	予習(60分):社会学概説書を読んでおく。 課題(60分):興味のある専攻分野の関連書籍または論文を講読する。	
2	社会学の根本命題 ・社会学の基礎概念 ・さまざまな集団とその性質	予習(60分):自身が所属している集団を列挙し、それぞれ自分にとってどのような位置づけかを考えておく。 課題(60分):社会学の基礎概念について復習する。	
3	方法論的集合主義 ・「自殺」を社会学する ・社会構造とはなにか	予習(60分):「自殺」問題がどのように語られているのかを調べておく。 課題(60分):「自殺」を「社会構造」の観点から説明できるようにする。	
4	方法論的個人主義 ・「美容整形」を考える ・相互行為とはなにか	予習(60分):「美容整形」が社会でどのように語られているのかを調べておく。 課題(60分):「美容整形」を「相互行為」の観点から説明できるようにする。	
5	社会化・ライフコース ・社会化とはなにか ・ライフコースの概念	予習(60分)各ライフステージ(児童期、成人期、老年期など)がどのような段階なのかを考えておく。 課題(60分):ケアされる側/する側の諸問題を整理しておく。	
6	教育(1) ・学校の社会的機能	予習(60分):学校教育でどのような社会化があったのかを振り返ってみる。 課題(60分):「再生産」について説明できるように復習する。	
7	教育(2) ・社会階層、格差と平等 ・世代間移動と再生産	予習(60分):身近にある格差を列挙し、それらはなぜ生じていて、是正されないのかを検討しておく。 課題(60分):学校の社会的機能と合わせて教育格差を考える。	
8	労働と経済生活(1) ・疎外 ・労働と産業	予習(60分):「働き方改革」の内容について調べておく。 課題(60分):今日的な「労災」にどのようなものがあるか調べる。	
9	労働と経済生活(2) ・感情労働 ・仕事と生活の調和	予習(60分):「ワーク・ライフ・バランス(WLB)」について説明できるよう調べておく。 課題(60分):ジェンダーの視点からWLBを説明できるよう復習する。	
10	医療をめぐる社会的視座(1) ・健康と病気	予習(60分):健康リスクを抱える人びとは、どのような属性の人が多いか、研究論文や調査報告書等で調べておく。 課題(60分):貧困と健康の関係について説明できるよう復習する。	
11	医療をめぐる社会的視座(2) ・障害	予習(60分):「障害」の捉え方について調べておく。 課題(60分):医学モデルと社会モデルの違いについて説明できるようにする。	
12	政治と統治(1) ・ナショナリズムとはなにか ・愛国心と国家	予習(60分):「国家」の枠組みがどの場面で機能しているのかを考えてみる。 課題(60分):「国家」の枠組みがどのような機能を持っているのかを復習する。	
13	政治と統治(2) ・移民問題	予習(60分):現代日本において「移民」がどのように扱われているのかを調べる。 課題(60分):なぜ「移民」が日本では受け入れられないのかを考える。	

14	社会調査の理論と方法(1) ・社会調査の考え方 ・量的調査	予習(60分):これまで自身が回答したことのある「アンケート」の内容を思い出し、整理しておく。 課題(60分):量的調査の特徴を整理しておく。
15	社会調査の理論と方法(2) ・質的調査 ・社会調査の倫理	予習(60分):量的調査と比較して、質的調査(例、インタビュー調査)の特徴を考えておく。 課題(60分):量的・質的調査のメリット、デメリットを整理する。
【アクティブラーニング】		チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)		○
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○
③:ディスカッション・ディベート		○
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。 ・フィードバックとして、小テスト(課題)を回収後、解答の解説を行う。 		
【成績の評価方法】		
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業参加度:30%」、「期末レポート:70%」とする。 ・「授業参加度」はリアクションペーパーに基づいて評価する。 ・「期末レポート」は提示した条件をすべて満たしていることを前提に、内容を評価する。評価基準は、「適切な課題設定」、「既存の学説・知見を踏まえている」、「論拠および論述が妥当かつ明確である」とする。 		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
特になし		
【参考書】		
『社会学で描く現代社会のスケッチ』(友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編、みらい、2019年) 『社会学入門』(盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功二編、ミネルヴァ書房、2017年) 『社会学のつばさ——医療・看護・福祉を学ぶ人のために』(早坂裕子・広井良典・天田城介編、ミネルヴァ書房、2010年)		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
特になし		
【オフィスアワー】		
メールにて連絡すること。		
【教員連絡先】		
sikemoto@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
必修授業なので、やむを得ない場合を除いて毎回出席すること。翌週分のテキストを事前に配布する。		

授業科目名	家族社会学	担当教員名	池本 紗良		
コード	22HUM117	区分 (必修・選択)	必修		
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。				
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。				
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。				
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。				
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。				
【授業の概要】					
本講義では、家族社会学の基礎的な概念や理論をふまえながら、現代社会における家族の諸相について学ぶ。具体的には、社会変動が家族に及ぼす影響や個人のライフスタイルと家族という集団の関連、家族関係と職業・労働の問題、さらには、近年大きな社会的課題となっているケアと家族についてなど、家族にまつわる様々なトピックスを扱う。本講義を通して、社会的に家族をみること、すなわち家族を相対化して見るようになることを期待する。					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					
ディプロマ・ポリシー					
① ② ③ ④ ⑤					
1 家族の成立・変動過程を理解し、現代家族が抱える諸問題について説明できる。					
2 医療・看護の社会的意味・意義について説明できる。					
3 課題解決にむけて論理的かつ積極的に参画できる。					
【授業計画】					
授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)		
1	「家族」とは何か ・家族の定義、家族・親族・世帯 ・家族の多様なかたち	予習(60分):テキストのなかで関心のある章を読み、家族の定義について考える。 課題(60分):自身の親族ユニバーズを図示しておく。			
2	近代家族の誕生 ・家族をとらえる基本概念 ・伝統家族から近代家族へ	予習(60分):テキスト第1章を読み、家族変動について理解する。 課題(60分):伝統家族と近代家族の違いについて説明できるよう復習する。			
3	恋愛と結婚(1) ・未婚化・晩婚化 ・ロマンティックラブイデオロギー	予習(60分):テキスト第2章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):ロマンティックラブイデオロギーの成立と今後の展望について説明できるよう復習する。			
4	恋愛と結婚(2) ・離婚と再婚の動向 ・ステップファミリー	予習(60分):テキスト第6章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):離婚を経験した子どもたちの適応課題と中長期的影響を検討し、復習する。			
5	出産・子育て(1) ・出生率の動向:少子化 ・子育て環境の現在	予習(60分):テキスト第3章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):現在の日本社会における子育て問題を考える。			
6	子ども・若者と家族 ・現代日本における家庭教育 ・社会階層と教育	予習(60分):教育格差について調べておく。 課題(60分):なぜ教育格差が生じるのか、説明できるようにする。			
7	仕事と家族 ・女性活躍とはなにか ・ワークライフバランス	予習(60分):テキスト第7章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):女性の職業キャリア、「M字型就労」について説明できるよう復習する。			
8	介護と家族 ・家族介護の現状 ・介護の社会化、再家族化	予習(60分):テキスト第4章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):医療・看護職として、家族介護問題の解決にむけてどのようにかかわることができるか考える。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫	
①:PBL(課題解決型学習)			○		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○		
③:ディスカッション・ディベート			○		
④:グループワーク					
⑤:プレゼンテーション					
⑥:実習・フィールドワーク					
【課題のフィードバック】					
・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。 ・フィードバックとして、小テスト(課題)を回収後、解答の解説を行う。					
【成績の評価方法】					
・「授業参加度:30%」、「期末レポート:70%」とする。 ・「授業参加度」はリアクションペーパーに基づいて評価する。 ・「期末レポート」は提示した条件をすべて満たしていることを前提に、内容を評価する。評価基準は、「適切な課題設定」、「既存の学説・知見を踏まえている」、「論拠および論述が妥当かつ明確である」とする。					
【履修申請上の条件】					
特になし					
【教科書】					
特になし					
【参考書】					
『入門家族社会学』(永田夏来・松木洋人編、新泉社、2017年) 『よくわかる家族社会学』(西野理子・米村千代編、ミネルヴァ書房、2019年) 『現代家族を読み解く12章』(日本家政学会編、丸善出版、2018年)					
【オープンな教育リソース】					
特になし。					
【担当教員の実務経験】					
特になし					
【オフィスアワー】					
メールにて連絡すること。					
【教員連絡先】					
sikemoto@g.t-junshin.ac.jp					
【備考】					
特になし					

授業科目名	日本国憲法	担当教員名	石黒麻利子							
コード	22HUM118	区分 (必修・選択)	必修							
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義							
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】									
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。									
○	② 倫理的かつ確かな臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。									
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。									
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。									
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。									
【授業の概要】										
本講義では、大学生活を始める学生を対象にして、日常生活場面に潜む法律学的問題と法的責任について学ぶことを目的とする。具体的には、生活上で遭遇する様々な勧誘や契約に関する事柄、インターネットやソーシャルメディアに関連する事柄、情報管理の事柄、講義および試験や実習に関連する事柄などの事例を取り上げ、各事例に関連する法的責任の在り方について講義を行い、社会人としての基礎的知識を身につける。また、憲法の存在意義、基本原理、人権、統治機構、憲法改正を巡る諸問題を学び、人権に配慮した法的思考方法を会得する。さらに、「公正」と「正義」という観点から、法的思考方法と基本概念を理解しながら、社会生活における法的問題を考察する。										
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー				
						①	②	③	④	⑤
1 憲法の存在意義、憲法と法律の違い、立憲的意味の憲法の内容と特徴を説明できる						○	○			
2 日本国憲法の定める国民主権の意義・内容を説明できる						○				
3 日本国憲法の定める基本的人権の尊重の意義・内容を説明できる						○	○			
4 日本国憲法の定める平和主義について意義・内容を説明できる						○				
5 日本国憲法の定める統治機構の制度的特徴を説明できる										
【授業計画】										
	授業計画			授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	憲法の存在意義、憲法と法律の違い、立憲的意味の憲法の内容			予習:(60分)六法とは何か調べる、日本国憲法を読んでおく 復習:(60分)小テストの復習を行う						
2	憲法の歴史、日本国憲法誕生の歴史			予習:(60分)大日本帝国憲法と日本国憲法を読み比べる 復習:(60分)小テストの復習を行う						
3	憲法の三大原理、個人の尊重、法の支配			予習:(60分)憲法の三大原理とは何か調べる 復習:(60分)小テストの復習を行う						
4	平和主義			予習:(60分)個別的自衛権と集団的自衛権の意味、違いを調べる 復習:(60分)小テストの復習を行う						
5	人権(1)総論			予習:(60分)憲法第三章国民の権利及び義務を読んでおく 復習:(60分)小テストの復習を行う						
6	人権(2)精神的自由			予習:(60分)憲法第三章国民の権利及び義務を読んでおく 復習:(60分)小テストの復習を行う						
7	人権(3)プライバシー権、自己決定権と医療			予習:(60分)プライバシー権とは何か、医師の説明義務は何のためにあるか調べる 復習:(60分)小テストの復習を行う						
8	人権(4)刑事手続きにおける権利			予習:(60分)罪刑法定主義とは何か調べる 復習:(60分)小テストの復習を行う						
9	人権(5)経済的自由			予習:(60分)憲法第三章国民の権利及び義務を読んでおく 復習:小テストの復習を行う						
10	統治機構:権力分立の原理			予習:(60分)権力分立とは何か、なぜ必要か調べる 復習:(60分)小テストの復習を行う						
11	統治機構:国会			予習:(60分)憲法第四章を読んでおく 復習:(60分)小テストの復習を行う						
12	統治機構:内閣			予習:(60分)憲法第五章を読んでおく 復習:(60分)小テストの復習を行う						
13	統治機構:裁判所			予習:(60分)憲法第六章を読んでおく 復習:(60分)小テストの復習を行う						

14	統治機構:地方自治	予習:(60分)憲法第八章を読んでおく 復習:(60分)小テストの復習を行う
15	憲法改正	予習:(60分)憲法改正がなぜ問題になるのか調べる 復習:(60分)小テストの復習を行う
【アクティブラーニング】		チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)		○
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○
③:ディスカッション・ディベート		○
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
講義後、小テストの内容を復習し、次回講義時に再度確認して知識の定着を図る		
【成績の評価方法】		
小テスト40%、定期試験60%、講義中の質疑応答等参加度を総合的に評価する。定期試験は六法持ち込み可(但し、六法への書き込み・付箋は不可)		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
ポケット六法令和4年版 有斐閣		
【参考書】		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
医療・交通事故専門弁護士、東京弁護士会・第一東京弁護士会・第二東京弁護士会の医療ADRあっせん仲裁人、東京地方裁判所医療事件専門民事調停委員、公益財団法人日弁連交通事故相談センター東京支部委員、同示談あっせんのあっせん人、第二東京弁護士会仲裁センター運営委員会委員、文部科学省COE研究員		
【オフィスアワー】		
講義実施日14:40~16:10		
【教員連絡先】		
mishiguro@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
パワーポイント原稿の撮影禁止、小テストは用紙縦置き、横書き、学籍番号・氏名は右上に記載		

授業科目名	文章表現法	担当教員名	村松 香代子
コード	22HUM119	区分 (必修・選択)	選択
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		

【授業の概要】
現代はSNSの発達により、話し言葉と書き言葉の区別がつけられない若者が増えている。書き言葉により、きちんとした文章を書く訓練は必須である。本授業では、文章で表現するための基礎的な技術と方法を習得することを目的とする。自分の「考え」を他者に的確に伝える能力は、グループワーク、発表、レポート、卒業研究等に必須である。言葉を効果的に働かせ、相手に「伝える」言葉のあり方を考える。また、日本語の表現法の視点からも他者に的確に要点が伝わる表現方法を学んでいく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 より良い人間関係を築くための文章の表現方法について説明できる。	○				○
2 テキスト批評や参考文献の扱い等、基礎的な形式を踏まえて、問題提起+解答+解答を導く議論が成り立っているレポートが書ける。					○
3 理解や納得させるのみならず、共感・共鳴を読み手の心に届く、オリジナルな文章が書ける。					○

【授業計画】	
授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1 「自己紹介」まずはウォーミングアップ。自己紹介の仕方を考える。実際に自己紹介をしてみよう。	予習(60分) 実習や履歴書等の場で必要となる自己紹介について、心がけたいことを文章上で実践して身につけていく。 復習(30分):授業内容を各自見返す。
2 「レポートの大原則」大学で学ぶための基礎的な技術であるレポート、論文の書き方を学んでいこう。	予習(60分):「私の名前の由来・誕生エピソード」という共通の題名で20分程度で書ける文章にまとめる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。
3 「伝わり方のレベル」どうしたら相手に伝わる文章を書くことができるか。自分の意見を育てよう。	予習(60分):エッセイ題名「私にとっての不思議な話」を執筆するための構想を練ってくる。適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。
4 「考えたつもりから脱却しよう」視点を変えてみよう。連想と深化で、考えを適切に進めよう。	予習(60分):エッセイ題名「私にとっての不思議な出来事」を執筆するための構想を練ってくる。適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。
5 「描写とは」自分が知見した物事を正確に伝えること。看護日誌に必要な描写を学んでみよう。	予習(60分):エッセイ題名「一瞬の隣人」を執筆するための構想を練ってくる。適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。
6 「論理的な文章」論理的とはどういうことか。論理を作るポイントとなる3つの方法を学んでいく。	予習(60分):エッセイ題名「青年の主張—私、言いたいことがあるんです—」を執筆するための構想を練ってくる。適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。
7 「参考文献」参考文献とは何のためのものなのか。参考文献をどう使うのか、どのように書くのか学んでいこう。	予習(60分):エッセイ題名「こころのワクチン、わたしのごはん」を執筆するための構想を練ってくる。適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。
8 「書評レポート」読書感想文との違い。書評レポートに必要な構成を失敗例から学んでいこう。	予習(60分): この授業のまとめ。 復習(30分):授業内容を各自見返す。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	授業の後半に毎回「柔軟体操」として、こちらが指定したテーマで短い文章をノートに書いてもらう。起承転結は構わない。優劣も問わない。20分程度でまとめる要領が良い。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】
課題のフィードバックは翌週の講義で行う。毎回のテーマで書いた文章について、講評を行い、各受講生に適した指導を行う。

<p>【成績の評価方法】</p> <p>授業時間内に示すテーマに基づいた短文の提出70%（出来不出来は問わない）と積極的な発言30%を併せて総合的に評価する。</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし。</p>
<p>【教科書】</p> <p>授業前に適宜配布する。</p>
<p>【参考書】</p> <p>特になし。</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし。</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>小説・エッセイの執筆。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>出校曜日。</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>kmuramatsu@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし。</p>

授業科目名	Humanities Basics	担当教員名	田尻 真理子			
コード	22HUM120	区分 (必修・選択)	選択			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
人文学諸学科のうち、ことに歴史、地理、古典、思想に関する基礎を、日常生活の身近な諸問題を契機として学ぶ。例えば、単に歴史、地理などを単独で学ぶのではなく、「人の移動」をキーワードとしてアメリカ社会の多様性を考察する、などのテーマから、その歴史的発展や地理的なつながり、民族思想にまで膨らませることで有機的に学び、複眼的な視点で物事を捉えることが出来るようになる。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	大学生に求められる人文諸学の基礎知識＝教養が身につく。	○				
2	身近な事象を思索の端緒とすることができる。	○				
3						
4						
5						
6						
7						
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	オリエンテーション、授業概要、授業実施方法(自由連想法)、評価方法、情報カード作成方法の復習(田尻)	【予習】シラバスを熟読し、何を習得するのかを確認する(30分)。 【復習】フロイト、精神分析、無意識、自由連想法 B6(授業時の作成方法で)				
2	【コテン】「コテン」は死なないー古典とは何かー古典に触れる(田尻)	【予習】CDショップの「クラシック音楽」コーナーにどのような(時代)のものがおかれているか調べてカードに記入する(60分)。B6 【復習】「古典の三要件」を、実例を挙げながらまとめる(30分)。B6				
3	【コテン】古典に触れる(田尻)	【復習】授業時配布のシートに必要事項を記入する(90分)。				
4	【イヒ(飯)】「ごはん」の多義性と重要性ーユネスコ無形文化遺産としての和食ー倭食ー稲作伝来と社会構造の変化(田尻)	【予習】『魏志倭人伝』、『古事記』、『日本書紀』、ユネスコ(30分)B6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6カードに纏める(120分)				
5	【カミ(神)】日本の「カミ」ーアニミズム的世界観ー神教的世界観と多神教的世界観ーアニミズムと「かわいい」文化ーアニミズムと「幕の内弁当」的世界(田尻)	【予習】アニメ、アニミズム、クールジャパン、衆生済度(60分)B6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6カードに纏める(120分)				
6	【カミ(上)シタ(下)】二院制/両院制(上院・下院、衆議院・参議院)ー上下関係と敬語ー世界の上下関係:東西問題から南北問題へー9.11以降の世界(田尻)	【予習】第5回で配布した「敬語ワークシート」記入、ペレストロイカ、ベルリンの壁、テロリズム(90分)B6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6カードに纏める(120分)				
7	【シタ(舌)】宗教と食事ー戦争と平和ー共食ー『饗宴』ーエロスとアガペー(田尻)	【予習】カースト制度、ハラール、過ぎ越し、ラマダーン、ウルのスタンダード、プラトン(90分)B6、【復習】授業時指示されたキーワードをB6カードに纏める(120分)				
8	【ガス(瓦斯)】「てんしき」ー「福富草紙」、「神農絵巻」ー「さかさまの世界(Mondo alla riversa)」ーボッシュとブリューゲルー道化とトリックスター(田尻)	【予習】絵巻、ボッシュ、ブリューゲル、カーニバル、トリックスター(90分)B6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6カードに纏める(120分)				
9	【ガス(瓦斯)】『ガルガンチュアとパンタグリユエル物語』ー風刺の機能ー『デカメロン』ーペストーサリンーチクロンBーホロコースト(田尻)	【予習】ラブレール、ボッカチオ、地下鉄サリン事件、ヒトラー、ナチス、ホロコーストB6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6カードに纏める(120分)				
10	【世界戦略】アメリカの「ソフトパワー」をキーワードとして現代史を考える(増田)	池内恵の論文「必須教養は『アメリカの世界戦略と現代史』を熟読してくる(授業外学修時間4時間)。				
11	【移民社会】「人の移動」をキーワードとしてアメリカ社会の多様性を考察する(増田)	テキストのⅠ「アメリカとはそもそもどんな国か」を熟読してくる(授業外学修時間4時間)				
12	【田園国家】「サラダボウル」「メルティングポット」をキーワードとしてアメリカの国土について考察する(増田)	テキストのⅡ「アメリカ的とはどういうことかか」を熟読してくる(授業外学修時間4時間)				
13	【国際通貨】「ドル」をキーワードとしてアメリカの政治・経済を考察する(増田)	テキストのⅢ「私たちにとってアメリカとは何か」を熟読してくる(授業外学修時間4時間)				
14	【宗教・思想】「ピューリタン」「プラグマティズム」をキーワードとしてアメリカ市民の発想を考察する(増田)	松尾式之著「人々の根幹 宗教・思想」「アメリカ市民の発想(常識)」「アメリカの歴史」を熟読してくる(授業外学修時間4時間)				
15	総括・質疑応答、レポート作成時の諸注意(増田・田尻)	第1回から第14回までの授業内容についての疑問点、質問を纏めてくる。				

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】 授業内に実施する課題についての小テストへの添削および全体に向けてのアナウンス。		
【成績の評価方法】 授業内小テスト30%、授業参加態度の積極性20%、期末レポート50%		
【履修申請上の条件】 特になし		
【教科書】 橋爪大三郎、大澤真幸、『アメリカ』、河で新書		
【参考書】		
【オープンな教育リソース】		
【担当教員の実務経験】		
【オフィスアワー】		
【教員連絡先】 hmasuda@g.t-junshin.ac.jp, mtajiri@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】 1回授業時に、B6サイズの情報カードとこれを入れるファイル二冊(両方とも三省堂で購買可)を用意しておくこと 2回から9回の授業外学修で使用する参考図書は都度指定する(大学図書館二回参考図書コーナー) 重大な事件、時事問題、災害等発生の際は授業内容に変更が生じる場合がある。 1回から9回で配布されるハンドアウトは教科書に代わるものであるため、大切に保管すること。紛失した際は他の受講生のものを複写するなどして対処すること。		

授業科目名	文化人類学	担当教員名	金子 毅
コード	22HUM121	区分 (必修・選択)	選択
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
世界各地には多様な生活、さまざまな文化が存在し、人々はそれぞれの社会の生活様式・価値観のもとに暮らしている。文化人類学で最も大切な概念は文化(culture)であるが、ここで取り上げる文化とは、美術館やコンサートホールなどで接する「芸術」などではなく、私たちの周りにある身近な営みの在り方の全てを包括したものを指す。講義では多様な文化を持つ人々が触れ合う現代社会の事例を取り上げ、異文化を理解することの意味を考える。文化人類学の視点・方法を学ぶことにより、人間が作り上げた文化の個別的側面と普遍的側面とを理解し、個別文化の価値を認識する力を養う。同時に、生活様式の違い、価値観の違いから起こる諸問題を捉え、解決へ導く基礎的な視点・考察力を身につけることを目標とする。			
kokode			ディプロマ・ポリシー
			① ② ③ ④ ⑤
1 世界各地の多様な生活、文化、価値観について説明できる。			○
2 文化人類学の視点・方法を学ぶことで、文化の個別的側面と普遍的側面が理解でき、説明できる。			○
3 生活様式の違い、価値観の違いから起こる諸問題の課題解決に向けて自分の考えを述べるることができる。			○
【授業計画】			
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)	
1	プロローグ:文化はどこにあるか	予習(30分):プリント1(文化とは何か、文化の概念と定義) 復習(45分):プリント1(文化とは何か、文化の概念と定義)	
2	人類学の歴史	予習(30分):プリント2(ヨーロッパ、アメリカ、日本の人類学) 復習(45分):プリント2(ヨーロッパ、アメリカ、日本の人類学)	
3	文化の調べ方	予習(30分):プリント3(調査法) 復習(45分):プリント3(調査法)	
4	様々なお話 その1	予習(30分):プリント4(説話1:昔話・伝説・世間話) 復習(45分):プリント4(説話1:昔話・伝説・世間話)	
5	様々なお話 その2	予習(30分):プリント5(説話2:都市伝説) 復習(45分):プリント5(説話2:都市伝説)	
6	様々なお話 その3	予習(30分):プリント6(神話と儀礼) 復習(45分):プリント6(神話と儀礼)	
7	お話は語る その1	予習(30分):プリント7(幽霊と妖怪) 復習(45分):プリント7(幽霊と妖怪)	
8	お話は語る その2	予習(30分):プリント8(予兆と禁忌) 復習(45分):プリント8(予兆と禁忌)	
9	お話は語る その3	予習(30分):プリント9(占いと呪術) 復習(45分):プリント9(占いと呪術)	
10	お話は語る その4	予習(30分):プリント10(妖術と邪視) 復習(45分)::プリント10(妖術と邪視)	
11	お話は語る その5	予習(30分):プリント11(年中行事と祭り) 復習(45分):プリント11(年中行事と祭り)	
12	お話は語る その6	予習(30分):プリント12(日本の伝統行事・来訪神・憑き物) 復習(45分):プリント12(日本の伝統行事・来訪神・憑き物)	
13	お話は語る その7	予習(30分):プリント13(通過儀礼1:妊娠～出産～七五三) 復習(45分):プリント13(通過儀礼1:妊娠～出産～七五三)	
14	お話は語る その8	予習(30分):プリント14(通過儀礼2:成年式～結婚～還暦) 復習(45分):プリント14(通過儀礼2:成年式～結婚～還暦)	
15	お話は語る その9	予習(30分):プリント15(通過儀礼3:死と供養) 復習(45分):プリント15(通過儀礼3:死と供養)	

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		学生の理解をうながすために必要に応じて映像資料なども活用する予定である。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
学生の理解度を確認するために時折、授業時に小テストも実施する予定である。		
【成績の評価方法】		
講義で扱った様々な「文化」を取り巻く問題を他者化して終わりなのではなく、これを自己自身に引き付けて解釈出来ているかを評価基準とする。課題レポート70%、小テスト20%、授業への参加度10%で総合的な評価を行なう。		
【履修申請上の条件】		
特になし。		
【教科書】		
特になし、毎時プリントを配布する予定である。		
【参考書】		
受講時に随時指示。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
特になし。		
【オフィスアワー】		
質問等がある場合は、学務課へ申し出ること。		
【教員連絡先】		
tkaneko@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
文化は人間関係の基礎を形作るものです。どうかアンテナを張り巡らして柔軟な思考で好奇心をもって臨んで下さい。文化は人間関係の基礎を形作るものです。どうかアンテナを張り巡らして柔軟な思考で好奇心をもって臨んで下さい。		

授業科目名	コミュニケーション論	担当教員名	原口 大平
コード	22HUM122	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
コミュニケーション不足による誤解が重大な問題に発展することもある。本科目では、言語コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの理論を学び、敬語表現やお辞儀などのマナーを振り返るとともに、「傾聴」「説得」「感情表現」など、人間関係を豊かにするヒントとなるコミュニケーションの方策を学ぶ。また、理論だけではなくロールプレイも組み込み、シミュレーションを繰り返すことで理解を深める。さらに、看護実践に必要なコミュニケーション技術に関する基本的な理論と方法を修得し、看護を効果的に提供する能力を養う。コミュニケーション論は、言語学、心理学、生理学などが関わる学際的な学問であるため、今後の学びに活かしていく。			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			
ディプロマ・ポリシー			
	①	②	③
1 礼儀を重んじ、敬語に慣れ、よりよい人間関係を築くことができる。	○		
2 建設的かつ解りやすく伝えることができる。	○		
3 自己概念を持ち、自己紹介が出来るようになる	○		
4 自己理解から他者理解を深め、雰囲気よくコミュニケーションがとれる	○		
5 アサーションを理解し、良好な人間関係を築ける。	○		
【授業計画】			
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)	
1	コミュニケーション概要 1. コミュニケーションとは何か・敬語のおさらい 2. なぜコミュニケーションが必要なのか(以降、授業資料はパワーポイントで作成したものを活用)	予習(30分):敬語ドリルを実施 復習(60分):講義の内容を各自見返す 課題(120分):授業中に課題を提示する。	
2	自己概念・自己理解 1. 自己理解を深める 2. ディスカッションを通して自分と他人の違いを知る	予習(30分):敬語ドリルを実施予習 復習(60分):ディスカッションの感想を提出。 課題(120分):授業中に課題を提示する。	
3	社会スキルとアサーション 1. 様々な社会スキルの事例 2. アサーションについて	予習(30分):敬語ドリルを実施 復習(60分):アサーションチェックで自分の特徴を知る。 課題(120分):授業中に課題を提示する。	
4	考えを整理して伝える 1. 伝え方を考える(PREP法) 2. 構成を順序立てて話をする(グループ内でチェックワーク)	予習(30分):敬語ドリルを実施 復習(60分):PREP法を実践してみて、課題点や注意点を探る。 課題(120分):授業中に課題を提示する。	
5	社会スキルとアサーションを鑑みたディスカッション(ワーク)→第2回のテーマを反映予定 1. 各チーム毎に言語、非言語を意識したコミュニケーションを図る 2. 自ら情報を発信し、かつ相手を承認しながらテーマについての見解を出す	予習(30分):敬語ドリルを実施 復習(60分):今日のディスカッションの中身を解りやすくまとめて結果を提出。 課題(120分):授業中に課題を提示する。	
6	【チームによるプレゼン】の為のディスカッション(ワーク) 1. 次回のプレゼン内容について、アイデアを持ち寄る 2. 持ち寄ったアイデアをひとつに絞る。次回チームで発表する。	予習(30分):敬語ドリルを実施 復習(60分):次回の発表に向けて内容、構成、発表順、担当者を決めて練習しておく。 課題(120分):授業中に課題を提示する。	
7・8	【チームによるプレゼン】(発表当日のみ2コマ連続を希望します) 1. チーム毎のプレゼンテーション 2. ディスカッションし、話をまとめ、聴衆に伝える	予習(60分):今日のプレゼン内容を確認する。 復習(120分):グループの発表が良かったかをチェックし提出。 課題(240分):授業中に課題を提示する。	
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			予習では「敬語ドリル」を実施。冒頭で答え合わせと解説をしてから講義に入ります。基本的にディスカッションやプレゼンを含め、対話は敬語とします。また授業では動画を取り入れて学生の理解を深めます。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
授業内ディスカッション終了後に感想やまとめを提出			
【成績の評価方法】			
授業の取り組み(30%), 発表会参加度(30%), 課題レポート(40%)総合評価する。			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】			
「社会人の敬語ドリル」 編者:語研編集部 発行所:株式会社 語研 「大学1年生からのコミュニケーション入門」 著者:中野美香 発行所:ナカニシヤ出版			
【参考書】			
特になし			
【オープンな教育リソース】			
特になし			
【担当教員の実務経験】			
ナレーター・アナウンサーの経験を基に、朗読や話し方、企業研修などで講師を務めています。			

【オフィスアワー】

授業内容についての質問やコメントは講義開始前もしくは終了後、教室で行う。

【教員連絡先】

tenkyunow@yahoo.co.jp

【備考】

特になし

授業科目名	看護情報学	担当教員名	高柳 良太
コード	22NBA123	区分 (必修・選択)	選択
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
看護の現場でさまざまに用いられている看護用語やカルテ用語について、看護情報のIT化を踏まえて、どのように用語の体系化がされ、扱われているのか理解する。また、医療者の共通言語としての医療・看護用語の活用方法や利用上の問題について、プライバシーの概念、情報の共有、セキュリティ、守秘義務、個人情報の保護、情報の開示などの観点から学び、看護情報の取り扱い方を理解する。合わせて、医療者として情報を活用する観点から、著作権法や個人情報保護法等の関連法規についても必要部分を学び、情報利用に関しての法令遵守の考え方も合わせて学ぶ。			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			
			ディプロマ・ポリシー
			① ② ③ ④ ⑤
1 データ・情報・知識およびそれらの関係が概念化できる。			○
2 データ・情報・知識の観点から看護のさまざまな局面について論じることができる。			○
3 医療情報システムの概要を知り、情報を取り扱う上での留意点を説明できる。			○
4 関連する各種の法律・権利関係について理解し、説明することができる			○
【授業計画】			
授業計画		授業外学修(予習・復習・課題等)	
1	授業内容説明 科目概要/評価方法 看護情報学とは	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること 課題(120分): 授業中に課題される課題に取り組み提出すること	
2	看護情報学 データ・情報・知識・形式知・暗黙知	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に課題される課題に取り組み提出すること	
3	看護情報学 用語の標準化 情報セキュリティ	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に課題される課題に取り組み提出すること	
4	看護情報学 個人情報保護法をはじめとする関連法規と医療・看護	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(180分): 授業中に課題される中間課題に取り組み提出すること	
5	医療情報システムについて 1	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に課題される課題に取り組み提出すること	
6	医療情報システムについて 2	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に課題される課題に取り組み提出すること	
7	医療情報システムと看護	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に課題される課題に取り組み提出すること	
8	医療情報と倫理	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(180分): 最終課題に取り組み提出すること	

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
原則提出締め切り後の講義時の最初に解説を行う。		
【成績の評価方法】		
<p><評価基準></p> <p>講義を元に出題される評価レポート課題においては、以下の各内容を評価基準とする。</p> <p>「情報やデータの概念、特徴および医療におけるそれらの特徴を論述し説明できる」</p> <p>「医療・看護における情報システムについて、その成り立ちやシステムの特徴、セキュリティ上重視すべきことが具体的に論述し説明できる」</p> <p>「情報倫理、及び関連する法規の内容について具体的に論述し説明できる」</p> <p><割合></p> <p>授業内課題(数回)50%、最終レポート課題50%で、総計60%以上を単位認定の条件とする。</p>		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
講義中に教員が資料を配付		
【参考書】		
<p>エッセンシャル看護情報学 第2版 太田勝正,前田樹海 医歯薬出版 ISBN978-4-263-23586-7</p> <p>《系統看護学講座 別巻》看護情報学(第2版) 中山和弘,瀬戸山陽子,藤井徹也,篠崎恵美子,会田敬志,高木晴良,戸ヶ里泰典 医学書院 ISBN978-4-260-02771-7</p>		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
業務用システム開発担当システムエンジニア(5年)		
【オフィスアワー】		
講義後1時間程度(火曜日) 随時メール等にて連絡は可能		
【教員連絡先】		
rtakayanagi@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
課題、資料についてはGoogleクラスルームにてダウンロード可能		

授業科目名	英語 I	担当教員名	高橋千佳子・増田光				
コード	22LAN125	区分 (必修・選択)	必修				
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】 「英語」は、看護学科の必修基礎科目に含まれ、コミュニケーション力の育成を目指して英語を学ぶ。 グローバル化が進む今日、学生が将来、海外の医療機関で就業したり、医療ツーリズムなどで海外からの患者に接する、あるいは海外からの医療従事者達と英語でコミュニケーションをとったりする場合などに活躍できるよう、英語力の基礎を築く。 聴く、話す、読む、書くといった英語の4技能をバランスよく学ぶ。演習科目であり、クラスを分けて少人数での実践的なコミュニケーション能力も磨く。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
		ディプロマ・ポリシー					
		①	②	③	④	⑤	
1	基本的な英文法を復習することにより、動詞の時制・疑問文が理解でき、運用することができる。			○		○	
2	リスニング教材が豊富に含まれているため、語と語の連結やアクセント、文の強弱が理解できる。			○		○	
3	課題として英文を書くため、自己紹介や地元など、身近な内容について英文で表現できる。			○		○	
4	場面を設定した会話練習を行うので、買い物や道案内などの日常的な場面での英会話ができるようになる。	○		○		○	
【授業計画】							
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	授業の進め方、Unit 1 Introductions (1)	予習(20分): p.5のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 自己紹介の表現を復習する。					
2	Unit 1 Introductions (2)	予習(20分): p.9のReadingを予習する。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 自己紹介を英文で書く。					
3	Unit 2 What a life! (1)	予習(20分): p.11のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 日常生活の表現を復習する。					
4	Unit 2 What a life! (2)	予習(20分): p.15のReadingを予習する。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 自分の日常生活を英文で書く。					
5	Unit 3 Free time (1)	予習(20分): p.17のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 趣味の表現を復習する。					
6	Unit 3 Free time (2)	予習(20分): p.22のReadingを予習する。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 自分の趣味について書く。					
7	小テスト (Unit 1 - 3) Presentationについて (organizing your ideas)	予習(20分): p.25のVocabularyを解いておく。 復習(40分): presentationについて復習する。					
8	Unit 4 Places (1)	予習(20分): p.29のReadingを予習する。 復習(30分): 場所を表す表現を復習する。					
9	Unit 4 Places (2)	予習(20分): p.31のVocabularyを解いておく。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 自分の町について書く。					
10	Unit 5 Getting around (1)	予習(20分): p.35のReadingを予習する。 復習(30分): 道順の表現を復習する。					
11	Unit 5 Getting around (2)	予習(20分): p.37のVocabularyを解いておく。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 待ち合わせ場所の道順を書く。					
12	Unit 6 Shopping (1)	予習(20分): p.41のReadingを予習する。 復習(30分): 買い物の表現を復習する。					
13	Unit 6 Shopping (2)	予習: 小テストの学習のため予習はなし。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 売りたい商品について書く。					
14	小テスト (Unit 4 - 6) Presentationについて (taking notes)	予習(60分): writing課題から1つ選び、プレゼンテーションの準備をする。 復習(30分): presentationについて復習する。					
15	Presentation	予習: 最終授業のため、予習はなし。 復習(2時間以上): プレゼンテーションのフィードバックを振り返る。定期試験に向けて学習する。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		authenticな素材の活用(DVD, 地図、英字新聞の切り抜きなど)
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<ul style="list-style-type: none"> ● 課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。 ● 小テストを回収後、解答の解説を行う。 ● プレゼンテーションのフィードバックは後日、紙面にて個別に配布する。 		
【成績の評価方法】		
<p>課題:30%、小テスト・プレゼンテーション: 30%、定期試験: 40%</p> <p>1. ライティングの課題提出を「課題」として評価する。授業内でのルーブリックを示し、それに基づいて評価する。具体的には、内容4、構成3、正確さ3、の計10点として評価する。授業参加に関しては、ペアワークやグループワークへの参加度を毎回の授業で評価する。</p> <p>2. 小テストは2回行う。授業で学んだ内容から出題されるため、きちんと復習して臨むこと。プレゼンテーションは内容4、伝わりやすさ3、正確さ3の計10点で評価する。</p> <p>3. 「定期試験」は試験期間に実施し、2クラス共通のテストとする。</p>		
【履修申請上の条件】		
看護学科1年生の必修科目であるため、全員、必ず履修すること。		
【教科書】		
Breakthrough Plus 2nd Edition Student's Book 1 Miles Craven著、macmillan education (「英語Ⅱ」と同じ)		
【参考書】		
授業内で適宜、紹介する。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
特になし。		
【オフィスアワー】		
高橋: 木曜日3、4時間目 増田: 木曜日・金曜日 3時間目		
【教員連絡先】		
高橋 cmori@g.t-junshin.ac.jp 増田 hmasuda@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
新型コロナウイルス感染の状況によってはプレゼンテーションなどが中止となる場合がある。2クラスに分かれるが、基本的には同じ進度で行い、定期試験問題も統一する。		

授業科目名	英語Ⅱ	担当教員名	高橋千佳子・増田光
コード	22LAN126	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を实践する能力を身につけている。		
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を实践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
前期の「英語Ⅰ」と同じテキストを用いて、基本的には「英語Ⅰ」と同じクラス分けを維持する。「英語Ⅱ」では、「英語Ⅰ」で培った英語の基礎力に加えて応用力もつける。「英語Ⅱ」も看護学科の必修基礎科目に含まれ、英語の4技能とコミュニケーション能力の育成を目指して英語を学ぶ。「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」を学ぶことで基礎的な文法や語彙が復習でき、場面に応じた会話力がつき、リスニングやライティングを訓練することで、苦手とされるこれらの技能にも抵抗感なく取り組み、自らの言葉で発信できるようになる。			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			
			ディプロマ・ポリシー
			① ② ③ ④ ⑤
1 基本的な英文法を復習することにより、進行形や形容詞が理解でき、運用できるようになる。			○ ○ ○ ○ ○
2 リスニング教材が豊富に含まれているため、疑問文の語の連結や複合語の強勢が聞き分けられるようになる。			○ ○ ○ ○ ○
3 課題として英文を書くため、英文レターやe-mailが抵抗なく書けるようになる。			○ ○ ○ ○ ○
4 場面を設定した会話練習を行うので、家事や人物描写、休暇についてなどの英会話ができる。			○ ○ ○ ○ ○
【授業計画】			
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)	
1	Introduction 後期授業の進め方、 Unit 7 What's happening? (1)	予習(20分): p.45のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 進行形および家事の表現を復習する。	
2	Unit 7 What's happening? (2)	予習(20分): p.49のReadingを予習する。 復習(30分): Readingを復習する。課題: 友人への手紙を書く。	
3	Unit 8 People (1)	予習(20分): p.51のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 人物描写の表現を復習する。	
4	Unit 8 People (2)	予習(20分): p.55のReadingを予習する。 復習(30分): Readingを復習する。課題: 自分自身の描写を書く。	
5	Unit 9 Having fun (1)	予習(20分): p.57のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 休日の過ごし方の表現を復習する。	
6	Unit 9 Having fun (2)	予習(20分): p.61のReadingを予習する。 復習(2時間以上): Reading復習する。小テストのための復習。 課題(30分): 招待状を書く。	
7	小テスト (Unit 7 - 9) Presentationについて (linking your ideas)	予習(20分): p.65のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 小テストおよびPresentationについて復習する。	
8	Unit 10 Vacation (1)	予習(20分): p.69のReadingを予習する。 復習(30分): 休暇の過ごし方を表す表現を復習する。	
9	Unit 10 Vacation (2)	予習(20分): p.71のVocabularyを解いておく。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 自分の町に休暇について書く。	
10	Unit 11 Life stories (1)	予習(20分): p.71のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 人生のイベントに関する表現を復習する。	
11	Unit 11 Life stories (2)	予習(20分): p.77のVocabularyを解いておく。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 自分史を書く。	
12	Unit 12 Hopes and intentions (1)	予習(20分): p.81のReadingを予習する。 復習(30分): 希望を伝える表現を復習する。	
13	Unit 12 Hopes and intentions (2)	予習(2時間以上): 小テストのための復習をする。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 将来の希望について書く。	
14	小テスト (Unit 10 - 12) Presentationについて (signposting your talk)	予習(60分): Writing課題から1つを選び、presentationの準備をする。 復習(30分): 小テストの復習、presentationの復習をする。	
15	Presentation	予習: 最終授業であり、定期試験に向けての学習があるため予習はない。 復習(2時間以上): 定期試験に向けての復習をする。	

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		authenticな素材の活用(DVD, 地図、英字新聞の切り抜きなど)
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<ul style="list-style-type: none"> ● 課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義にて行う。 ● 小テストを回収後、解答の解説を行う。 ● プレゼンテーションのフィードバックは、後日、紙面にて個別に配布する。 		
【成績の評価方法】		
<p>課題:30%、小テスト・プレゼンテーション:30%、定期試験:40%</p> <p>1. ライティングの課題提出を「課題」として評価する。授業内でルーブリックを示し、それに基づいて評価する。具体的には、内容4、構成3、正確さ3、の計10点満点で評価する。</p> <p>2. 小テストは2回行う。授業で学んだ内容から出題されるため、きちんと復習して臨むこと。プレゼンテーションの評価は、内容4、伝わりやすさ3、正確さ3の計10点満点で評価する。</p> <p>3. 「定期試験」は試験期間に実施し、2クラス共通のテストとする。筆記だけでなく、リスニングも含まれる。</p>		
【履修申請上の条件】		
看護学科1年生の必修科目であるため、全員、必ず履修すること。原則的には「英語 I」が履修済であること。		
【教科書】		
Breakthrough Plus 2nd Edition Student's Book 1 Miles Craven著、macmillan education (「英語 I」と同じ)		
【参考書】		
授業内で適宜、紹介する。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
特になし。		
【オフィスアワー】		
高橋: 木曜日3、4時間目 増田: 木曜日2時間目、金曜日5時間目		
【教員連絡先】		
高橋 cmori@g.t-junshin.ac.jp 増田 hmasuda@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
2クラスに分かれるが、基本的には同じ進度で行い、定期試験問題も統一する。		

授業科目名	形態機能学 I	担当教員名	本田 智子	
コード	22NBA201	区分 (必修・選択)	必修	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義	
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】			
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。			
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。			
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。			
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。			
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。			
【授業の概要】				
人体を理解するうえで必要な解剖・生理学的知識を養うことを狙いとし、各臓器や組織、器官などの名称や構造上・機能上の特徴や活動のプロセス、作用機序、調節機構、反射などを系統別に学習する。形態機能学 I では特に人体を構成する細胞や組織、神経系、感覚器系、外皮系について、各部名称、構造上の特徴、機能について学習する。また、各組織、器官や器官系間で行われる調節システムを知ることにより、人が日常生活で受ける様々な変化に対応していることを理解する。あわせて、ホメオスタシスの失調により様々な疾患や症状として現れることを学ぶ。				
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				
			ディプロマ・ポリシー	
			① ② ③ ④ ⑤	
1	人体における生命維持のプロセス、ホメオスタシス、基本的解剖学的用語について説明できる。	○	○	○
2	人体を構成する細胞・組織の特徴と機能について説明できる。	○	○	○
3	神経系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反射、調節について説明できる。	○	○	○
4	感覚器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反射、調節について説明できる。	○	○	○
5	皮系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反射、調節について説明できる。	○	○	○
【授業計画】				
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)		
1	第1章 人体へのイントロダクション 形態機能学の概要と看護における形態機能の位置づけや必要性 基本的な解剖学用語や分類、概要	予習(約30分):1.1~1.5までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
2	第3章 細胞レベルの機構 細胞の構成部品 形質膜 細胞の基本的構造 形質膜の構造と特徴 形質膜を横切る輸送	予習(約30分):3.1~3.3までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
3	第3章 細胞レベルの機構 細胞質 細胞内の構造物の特徴と機能	予習(約30分):3.4, 3.5を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
4	第4章 組織 組織の分類 細胞接着装置 上皮組織と結合組織の分類と特徴	予習(約30分):4.1~4.9を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
5	第12章 神経組織(1) 神経系の概観 神経系の組織学	予習(約30分):12.1, 12.2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
6	第12章 神経組織(2) ニューロンの電気信号 シナプスにおける信号の伝達 神経伝達物質	予習(約30分):12.3~12.8を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
7	第13章 脊髄と脊髄反射 脊髄の解剖学 脊髄神経 脊髄の生理学	予習(約30分):13.1~13.7を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
8	第14章 脳と脳神経(1) 脳の構成、保護、血液供給 脳脊髄液 脳幹と網様体	予習(約30分):14.1~14.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
9	第14章 脳と脳神経(2) 小脳 間脳 大脳 大脳皮質の機能的構成 脳神経	予習(約30分):14.4~14.8を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
10	第15章 自律神経系(1) 体制神経系と自律神経系の比較 自律神経遠心路の構造 自立神経系の神経伝達物質と受容体	予習(約30分):15.1~15.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
11	第15章 自律神経系(2) 自立神経系の生理学 自律神経機能の統合調節	予習(約30分):15.4, 15.5を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
12	第16章 感覚系、運動系と統合系 感覚 体性感覚 体性感覚経路 運動経路 大脳の統合機能	予習(約30分):16.1~16.5を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
13	第17章 特殊感覚(1) 嗅覚 味覚 視覚	予習(約30分):17.1~17.4を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		

14	第17章 特殊感覚(2) 視覚 聴覚 平衡感覚	予習(約30分):17.5~17.8を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
15	第5章 外皮系 皮膚の構造 皮膚付属器の構造 皮膚の機能 ホメオスタシスの維持	予習(約30分): 5.1, 5.2, 5.4, 5.5を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
【アクティブラーニング】		チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)		その他の工夫 講義のCLASS ROOMを立ち上げ、講義内容の配信や質問などの対応する。 授業に関するビデオ・3D画像・拡大用カメラなどを使用した画像の提供 授業時間外の学修の支援
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
リアクションペーパーに書かれた講義内容の不明点や疑問点について、次の講義内で補足を行う。 中間試験や小テストの解答に関する補足説明を行う。		
【成績の評価方法】		
筆記試験 90%、小テスト10% 本科目では、筆記試験を2回に分けて実施し、2回の合計を評価の90%とする。小テストの10%は、各講義開始前に実施する小テストの合計から算出する。		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
桑木 共之、黒澤 美枝子(監修, 翻訳), 其他2名:トートラ人体解剖生理学 原書11版、丸善出版、2020 ¥7590+税		
【参考書】		
原島 広至(著)、河合 良訓(監修):骨単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至(著)、河合 良訓(監修):肉単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至(著)、河合 良訓(監修):脳単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 原島 広至(著)、河合 良訓(監修):臓単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 Wynn Kapit、Lawrence M. Elson, 他1名:カラースケッチ 解剖学第4版、廣川書店、2015 ¥4300+税 Kapit、Macey、Meisami(著)、永田 豊(翻訳):カラースケッチ生理学、廣川書店、2006 ¥4300+税		
【オープンな教育リソース】		
特に使用しない		
【担当教員の実務経験】		
看護師としての勤務経験と解剖生理学やフィジカルアセスメント、成人看護学の教育経験のある教員が、看護としての臨床経験を踏まえ、看護や日常生活の視点を含めながら講義を進める。		
【オフィスアワー】		
教員が研究室にいる時間帯を常に提示し、講義内容について不明なことや疑問点などがある場合、研究室に在室しているときには対応可能。 事前予約があるとよい。		
【教員連絡先】		
科目に関する連絡は原則class roomで行う。メール対応は平日の8:30~17:30までとする。 メールアドレス : thonda@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
特になし		

授業科目名	形態機能学Ⅱ	担当教員名	本田 智子	
コード	22NBA202	区分 (必修・選択)	必修	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義	
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】			
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。			
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。			
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。			
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。			
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。			
【授業の概要】				
人体を理解するうえで必要な解剖・生理学的知識を養うことを狙いとし、各臓器や組織、器官などの名称や構造上・機能上の特徴や活動のプロセス、作用機序、調節機構、反射などを系統別に学習する。形態機能学Ⅱでは特に骨格系、筋系、循環器系、呼吸器系についてについて、各部名称、構造上の特徴、機能について学習する。また、各組織、器官や器官間で行われる調節システムを知ることにより、人が日常生活で受ける様々な変化に対応していることを理解する。あわせて、ホメオスタシスの失調により様々な疾患や症状として現れることを学ぶ。				
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				
			ディプロマ・ポリシー	
			① ② ③ ④ ⑤	
1	骨格系を構成する細胞や組織の特徴や機能、調節について説明できる。	○	○	○
2	筋系を構成する細胞や組織の特徴や機能、反射について説明できる。	○	○	○
3	循環器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反射、調節について説明できる。	○	○	○
4	呼吸器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反射、調節について説明できる。	○	○	○
【授業計画】				
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)		
1	第6章 骨格系(1) 骨と骨格系の機能 骨の構造 骨の組織学 骨への血液と神経 骨形成 骨折と骨の修復 カルシウムのホメオスタシス	予習(約30分):6.1～6.75までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
2	第7章 骨格系(2) 骨格系の分類 骨の型 頭蓋 脊柱 胸郭	予習(約30分):7.1～7.3, 7.4～7.7までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
3	第8章 骨格系(3) 上肢帯 上肢骨 下肢体 下肢骨	予習(約30分):8.1～8.6を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
4	第9章 骨の連結 骨の連結の分類 線維性の連結 軟骨性の連結 滑膜生の連結の種類 可動域の影響する要因 身体の主な連結	予習(約30分):9.1～9.4, 9.6～9.8を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
5	第10章 筋組織 筋組織の概説 骨格筋組織 骨格筋組織の収縮と弛緩 筋の代謝	予習(約30分):10.1～10.4を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
6	第11章 筋系 骨格筋はどのようにして運動を引き起こすか 主な骨格筋	予習(約30分):11.1, 11.2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
7	第19章 心臓血管系:血液 血液の機能と特性 血球の産生 赤血球 白血球 血小板 止血	予習(約30分):19.1～19.5, 19.7を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
8	第20章 心臓血管系:心臓(1) 心臓の解剖学 心臓の弁と血液循環 心筋組織と心臓の刺激伝導系	予習(約30分):20.1～20.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
9	第20章 心臓血管系:心臓(2) 心電図 心周期 心拍出量	予習(約30分):20.4, 20.5を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
10	第21章 心臓血管系:血管と循環動態(1) 血管の構造と機能、毛細血管における物質交換 血流に影響を及ぼす因子	予習(約30分):6.1～6.7を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
11	第21章 心臓血管系:血管と循環動態(2) 血圧と血圧の調節 循環路	予習(約30分):7.1～7.3, 7.4～7.7を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
12	第22章 リンパ系と免疫(1) 機能と構造、自然免疫、獲得免疫	予習(約30分):8.1～8.6を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		
13	第22章 リンパ系と免疫(2) 細胞媒介性免疫、抗体媒介性免疫 自己認識と自己寛容	予習(約30分):9.1～9.4, 9.6～9.8を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。		

14	第23章 呼吸器系(1) 呼吸器系の解剖学 換気、肺気量分画と肺容量 酸素と二酸化炭素の交換	予習(約30分)10.1~10.4を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
15	第23章 呼吸器系(2) 酸素と二酸化炭素の運搬 呼吸調節	予習(約30分):11.1, 11.2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
【アクティブラーニング】		チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)		講義のCLASS ROOMを立ち上げ、講義内容の配信や質問などの対応する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○ 授業に関するビデオ・3D画像・拡大用カメラなどを使用した画像の提供 授業時間外の学修の支援
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
リアクションペーパーに書かれた講義内容の不明点や疑問点について、次の講義内で補足を行う。 中間試験や小テストの解答に関する補足説明を行う。		
【成績の評価方法】		
筆記試験 90%、小テスト10% 本科目では、筆記試験を2回に分けて実施し、2回の合計を評価の90%とする。小テストの10%は、各講義開始前に実施する小テストの合計から算出する。		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
桑木 共之、黒澤 美枝子(監修, 翻訳), その他2名:トートラ人体解剖生理学 原書11版、丸善出版、2020 ¥7590+税		
【参考書】		
原島 広至(著)、河合 良訓(監修):骨単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至(著)、河合 良訓(監修):肉単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至(著)、河合 良訓(監修):脳単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 原島 広至(著)、河合 良訓(監修):臓単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 Wynn Kapit、Lawrence M. Elson, 他1名:カラースケッチ 解剖学第4版、廣川書店、2015 ¥4300+税 Kapit、Macey、Meisami(著)、永田 豊(翻訳):カラースケッチ生理学、廣川書店、2006 ¥4300+税		
【オープンな教育リソース】		
特に使用しない		
【担当教員の実務経験】		
看護師としての勤務経験と解剖生理学やフィジカルアセスメント、成人看護学の教育経験のある教員が、看護としての臨床経験を踏まえ、看護や日常生活の視点を含めながら講義を進める。		
【オフィスアワー】		
教員が研究室にいる時間帯を常に提示し、講義内容に付いて不明なことや疑問点などがある場合、研究室に在室しているときには対応可能。 事前予約があるとよい。		
【教員連絡先】		
科目に関する連絡は原則class roomで行う。メール対応は平日の8:30~17:30までとする。 メールアドレス : thonda@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
特になし		

授業科目名	形態機能学Ⅲ	担当教員名	本田 智子
コード	22NBA203	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
人体を理解するうえで必要な解剖・生理学的知識を養うことを狙いとし、各臓器や組織、器官などの名称や構造上・機能上の特徴や活動のプロセス、作用機序、調節機構、反射などを系統別に学習する。形態機能学Ⅲでは特に泌尿器系、消化器系、内分泌系、生殖器系について、各部名称、構造上の特徴、機能について学習する。また、各組織、器官や器官系間で行われる調節システムを知ることにより、人が日常生活で受ける様々な変化に対応していることを理解する。あわせて、ホメオスタシスの失調により様々な疾患や症状として現れることを学ぶ。			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			
			ディプロマ・ポリシー
			① ② ③ ④ ⑤
1	消化器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反応、反射、調節について説明できる。		○
2	内分泌を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反応、調節について説明できる。		○
3	泌尿器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反応、反射、調節について説明できる。		○
4	身体における、体液、電解質の特徴や酸塩基平衡について説明できる。		○
5	生殖器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反応、調節について説明できる。		○
6			
7			
【授業計画】			
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)	
1	第24章 消化器系(1) 消化器系の概観 消化管の管壁 消化管の神経支配 腹膜	予習(約30分):24.1～24.4までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	
2	第24章 消化器系(2) 口腔 咽頭 食道 嚥下 胃	予習(約30分):24.5～24.9までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	
3	第24章 消化器系(3) 膵臓、肝臓と胆嚢	予習(約30分):24.10, 24.11を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	
4	第24章 消化器系(4) 小腸	予習(約30分):24.12を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	
5	第24章 消化器系(5) 大腸 消化の相	予習(約30分):24.13, 24.14を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	
6	第18章 内分泌系(1) 神経系と内分泌系による調節の比較 内分泌腺 ホルモン活性 ホルモン活性のメカニズム ホルモン分泌の調節	予習(約30分):18.1～18.6を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	
7	第18章 内分泌系(2) 視床下部と下垂体 甲状腺 副甲状腺 副腎	予習(約30分):18.7～18.14を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	
8	第18章 内分泌系(3) 膵臓 卵巣と精巣 松果体と胸腺 生体のストレス反	予習(約30分):18.10～18.14を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	
9	第26章 泌尿器系(1) 腎臓機能の概要 腎臓の構造と組織 腎臓整理の概要	予習(約30分):26.1～26.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	
10	第26章 泌尿器系(2) 糸球体濾過 尿細管再吸収と分泌 腎機能の評価	予習(約30分):26.4, 26.5, 26.6を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	
11	第26章 泌尿器系(3) 尿輸送 貯蔵 排泄 他の身体系における老廃物の処理	予習(約30分):26.8～26.10を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	
12	第27章 体液、電解質と酸塩基平衡(1) 体液区分と体液バランス 体液の電解質	予習(約30分):27.1, 22.2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	
13	第27章 体液、電解質と酸塩基平衡(2) 酸塩基平衡	予習(約30分):27.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。	

14	第28章 生殖器系(1) 男性生殖器系	予習(約30分):28.1を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
15	第23章 生殖器系(2) 女性生殖器系 女性の性周期	予習(約30分):28.2, 28.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
【アクティブラーニング】		チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)		講義のCLASS ROOMを立ち上げ、講義内容の配信や質問などの対応する。 授業に関するビデオ・3D画像・拡大用カメラなどを使用した画像の提供 授業時間外の学修の支援
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
リアクションペーパーに書かれた講義内容の不明点や疑問点について、次の講義内で補足を行う。 中間試験や小テストの解答に関する補足説明を行う。		
【成績の評価方法】		
筆記試験 90%、小テスト10% 本科目では、筆記試験を2回に分けて実施し、2回の合計を評価の90%とする。小テストの10%は、各講義開始前に実施する小テストの合計から算出する。		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
桑木 共之、黒澤 美枝子(監修, 翻訳),その他2名:トートラ人体解剖生理学 原書11版、丸善出版、2020 ¥7590+税		
【参考書】		
原島 広至(著)、河合 良訓(監修):骨単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至(著)、河合 良訓(監修):肉単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至(著)、河合 良訓(監修):脳単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 原島 広至(著)、河合 良訓(監修):臓単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 Wynn Kapit、Lawrence M. Elson, 他1名:カラースケッチ 解剖学第4版、廣川書店、2015 ¥4300+税 Kapit、Macey、Meisami(著)、永田 豊(翻訳):カラースケッチ生理学、廣川書店、2006 ¥4300+税		
【オープンな教育リソース】		
特に使用しない		
【担当教員の実務経験】		
看護師としての勤務経験と解剖生理学やフィジカルアセスメント、成人看護学の教育経験のある教員が、看護としての臨床経験を踏まえ、看護や日常生活の視点を含めながら講義を進める。		
【オフィスアワー】		
教員が研究室にいる時間帯を常に提示し、講義内容について不明なことや疑問点などがある場合、研究室に在室しているときには対応可能。 事前予約があるとよい。		
【教員連絡先】		
科目に関する連絡は原則class roomで行う。メール対応は平日の8:30~17:30までとする。 メールアドレス : thonda@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
特になし		

授業科目名	形態機能学演習	担当教員名	本田 智子					
コード	22NBA204	区分 (必修・選択)	必修					
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだことをふまえて演習を行い、人体の構造や生理学的反応についての理解を深める。「体動と循環状態の変動」では座位、立位、歩行などによって脈拍などの循環動態がどのように変化するかを実験的に体験し、その変化について講義で学んだ内容と関連させて調節システムについての学習を深める。「解剖見学実習」では実際の臓器や体内での位置関係を直接確認することで、人体の構造についての理解を深める。「心電図判読」では心電図の基本的な判読方法を学ぶとともに、心電図の波形と心臓の刺激伝導系を関連させながら理解する。「組織観察」は代表的ないくつかの組織を対象に細胞や組織の構造の実際を観察することによって、特徴的な構造と機能の関連性について学ぶとともに、形状や色の違いに関する観察眼を養う。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 身体の細胞や組織の構造を観察し、機能や役割について説明することができる。				○	○			
2 人体の胸・腹部にある臓器の構造や位置関係の実際について学ぶ。				○	○			
3 心電図の判読法を身に付け、心電図から心臓の刺激伝導系と心臓の運動を関連させ考察できる。				○	○			
4 体動が循環動態に与える影響について、講義で学習したことを基に考察できる。				○	○			
5								
【授業計画】								
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	演習オリエンテーション	演習前:科目の内容について確認する。(約15分) 演習後:配布資料の内容を確認し、注意事項などを把握する。(約20分)						
2	演習1:体動と循環状態の変動(計画立案1)	演習前:指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後:計画書の作成を行う(約30分)						
3	演習1:体動と循環状態の変動(計画立案2)	演習前:指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後:計画書の作成を行う(約30分)						
4	演習1:体動と循環状態の変動(計画の実施)	演習前:指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後:指定されたレポートを作成する。(約30分)						
5	演習1:体動と循環状態の変動(計画の実施)	演習前:指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後:指定されたレポートを作成する。(約30分)						
6	演習2:解剖見学実習(講義)	演習前:指定された事前課題を行う。(約60分) 演習後:指定されたレポートを作成する。(約30分)						
7	演習2:解剖見学実習(講義)	演習前:指定された事前課題を行う。(約60分) 演習後:指定されたレポートを作成する。(約30分)						
8	演習2:解剖見学実習(実習)	演習前:指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後:指定されたレポートを作成する。(約30分)						
9	演習2:解剖見学実習(実習)	演習前:指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後:指定されたレポートを作成する。(約30分)						
10	演習3:心電図判読	演習前:指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後:指定されたレポートを作成する。(約30分)						
11	演習3:心電図判読	演習前:指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後:指定されたレポートを作成する。(約30分)						
12	演習4:組織観察1 心筋・骨格筋・脊髄・小腸の細胞・組織の観察演習	演習前:指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後:指定されたレポートを作成する。(約30分)						
13	演習4:組織観察1 心筋・骨格筋・脊髄・小腸の細胞・組織の観察演習	演習前:指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後:指定されたレポートを作成する。(約30分)						
14	演習4:組織観察2 肝臓・膵臓・腎臓の細胞・組織の観察	演習前:指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後:指定されたレポートを作成する。(約30分)						
15	演習4:組織観察2 肝臓・膵臓・腎臓の細胞・組織の観察	演習前:指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後:指定されたレポートを作成する。(約30分)。						

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	授業に関するビデオ・拡大用カメラを使用した画像の提供 授業外学修の支援
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	
【課題のフィードバック】 リアクションペーパーに書かれた演習内容の不明点や疑問点について、次の講義内で補足を行う。 Gmailなどを使用して質問対応やフィードバックを行う。		
【成績の評価方法】 演習1～4の内容に応じたルーブリック評価表を用いて、各レポートを各25点として評価・集計する。(計100%)		
【履修申請上の条件】 形態機能Ⅰ～Ⅲを履修していることが望ましい。		
【教科書】 桑木 共之、黒澤 美枝子(監修, 翻訳), その他2名: トートラ人体解剖生理学 原書11版、丸善出版、2020 ¥7590+税		
【参考書】 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修): 骨単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修): 肉単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修): 脳単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修): 臓単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 Wynn Kapit、Lawrence M. Elson, 他1名: カラースケッチ 解剖学第4版、廣川書店、2015 ¥4300+税 Kapit、Macey、Meisami (著)、永田 豊 (翻訳): カラースケッチ生理学、廣川書店、2006 ¥4300+税		
【オープンな教育リソース】 特に使用しない		
【担当教員の実務経験】 看護師としての勤務経験と解剖生理学やフィジカルアセスメント、成人看護学の教育経験のある教員が、看護での臨床経験を踏まえ、看護や日常生活の視点を含めながら身体の構造や機能について演習を進める。		
【オフィスアワー】 教員が研究室にいる時間帯を常に提示し、講義内容に付いて不明なことや疑問点などがある場合、研究室に在室しているときには対応可能。 事前予約があるとよい。		
【教員連絡先】 科目に関する連絡は原則class roomで行う。メール対応は平日の8:30～17:30までとする。 メールアドレス : thonda@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】 特になし		

看護学部

授業科目名	栄養生化学	担当教員名	吉田 稔・原 正幸・柴田 みち			
コード	22NBA207	区分 (必修・選択)	必修			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
ヒトはタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルなどを食物として取り入れ、エネルギー源やからだの構成材料として必要な物質に変換して正常な機能や形態を維持している。栄養素と呼ばれるこれら物質は水と酸素の存在下に酵素反応によって必要な物質に合成される。本講義では3大栄養素であるタンパク質、糖質、脂質の生化学的構造と特性、生体内での代謝とエネルギー産生・貯蓄そして身体にとって重要な水・電解質の特徴と機能を学習する。またこれらの栄養素の働きを理解することは、日常生活での栄養素の過剰摂取に起因する生活習慣病の予防や改善そして健康の維持を考える上で重要である。とくに生活習慣病の予防は食品を介して摂取する栄養素の種類、量、摂取のタイミングが重要であることを理解する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	栄養素の生体内での反応や酵素の役割を説明できる。		○			
2	糖質、脂質、タンパク質の構造、消化、吸収、代謝を説明できる。		○			
3	生体内におけるエネルギー産生の過程を説明できる。		○			
4	遺伝情報とその発現について説明できる。		○			
5	食品の栄養学的特徴と食事摂取基準を説明できる。		○			
6	それぞれのライフステージにおける栄養を説明できる。		○			
7	臨床栄養について学び、主な疾患の栄養管理や食事療法を説明できる。		○			
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	栄養と生化学の基礎 ・消化と吸収、同化と異化反応、細胞の構造、三大栄養素の代謝の概要等を学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
2	酵素の栄養生化学 ・酵素の性質と酵素反応、酵素と補酵素等について学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
3	糖質の栄養生化学 ・糖質の分類と構造、糖質の消化、吸収、代謝等について学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
4	脂質の栄養生化学 ・脂質、脂肪酸、コレステロールと胆汁酸の構造・消化・吸収・代謝およびリポたんぱく質の構造と代謝等について学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
5	タンパク質の栄養生化学 ・アミノ酸、タンパク質の構造・消化・吸収・代謝等を学ぶ。また血漿タンパク質について理解する。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
6	エネルギーの栄養生化学 ・呼吸とエネルギー産生、糖質・脂質・タンパク質代謝の相互の関連について学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
7	ポルフィリン代謝と異物代謝 ・ヘムの合成と分解、ビリルビンの代謝、生体異物代謝、活性酸素とその除去反応について学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
8	ビタミンと無機質の栄養生化学 ・各種ビタミンの消化・吸収、構造、機能と疾患そして各種無機質の機能等を学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
9	遺伝子の生化学(1) ・核酸の構造と代謝、遺伝子と染色体の構造、遺伝子とタンパク質の合成等を学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
10	遺伝子の生化学(2) ・遺伝子異常と疾患、がんの生化学、遺伝子工学の応用等を学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
11	食物と栄養 ・食物と栄養、栄養素と栄養価、主要食品の栄養的特徴、食生活指針等を学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
12	栄養摂取基準(1) ・栄養摂取基準、日本人の食事摂取基準の基本的考え方、食事摂取基準の使用の際の留意点、活用に関する基本的考え方、エネルギーの食事摂取基準等を学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
13	栄養摂取基準(2) ・タンパク質・脂質・糖質・食物繊維の食事摂取基準、エネルギー産生栄養素バランス、水溶性ビタミンの食事摂取基準、多量・微量ミネラル等を学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
14	成長・生活と栄養 ・乳幼児の栄養、学童期・青少年期の栄養と問題、中年期・老年期の栄養と問題、妊産婦の栄養、エネルギー必要量と栄養等を学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
15	栄養療法 ・食事療法、経管栄養、輸液等を学ぶ。	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】 フィードバックとして小テスト(課題)を実施し、解答の解説を行う。		
【成績の評価方法】 成績評価は総括的評価と形成的評価で行う。総括評価は学期末に実施する客観試験(70%)により行い、形成的評価は講義後に必要に応じて行う小テスト(30%)をもって行う。		
【履修申請上の条件】 この科目は形態機能学(解剖生理学)と関連しており、予習・復習には解剖生理学の教科書も活用することが望ましい。		
【教科書】 脊山洋右・島野仁・松島照彦編集:新体系 看護学全書、人体の構造と機能、栄養生化学		
【参考書】 島山鎮次:系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能 ② 医学書院 小野章史ほか:系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能 ③ 医学書院		
【オープンな教育リソース】 本講義では使用しません。		
【担当教員の実務経験】 管理栄養士として業務経験をもつ教員が栄養分野の講義を担当する。		
【オフィスアワー】 月曜日 15:00～17:00 事前に連絡をしてから訪問すること		
【教員連絡先】 myosida@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】 特になし。		

看護学部

授業科目名	感染予防学	担当教員名	竹村 弘			
コード	22NBA208	区分 (必修・選択)	必修			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
この授業は、病原微生物と感染症について学び、感染症の予防および治療のための基本的知識の獲得を目指す。病原微生物として、細菌・ウイルス・真菌などの性質を理解し、それらが引き起こす感染症とそれに伴う生体反応、薬物療法、予防方法を学ぶ。また、近年医療現場で問題となっている、薬剤耐性菌や医療関連感染、新興感染症、再興感染症に関する感染経路やその予防方法を学ぶ。さらに、看護師として患者や自分自身を感染から守るための感染予防に関する一般的な考え方を学ぶ。演習では微生物を可視化し、医療現場で最も重要な感染予防の技術である手洗いについて総合的に学ぶ。 病原微生物に関する基本的知識の獲得にとどまらず、その知識を応用した医療現場における感染予防策を理解することを目的とする。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	細菌・ウイルス等の病原微生物の形態学的・生化学的・生理学的な性状について説明できる。		○			
2	病原微生物の特性に応じた感染予防の方法に関する基本的な概念を説明できる。		○			
3	免疫の基本を理解し、宿主となるヒトと病原微生物の相互関係として現れる感染症の成立について説明できる。		○			
4	看護師として、臨床実践で必要とされる感染予防の具体策について説明できる。		○	○		
5	社会生活での感染予防における看護師の役割について説明できる。		○	○		
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	感染・感染症の基本 感染の仕組みと発生要因、感染症の種類について学ぶ。水平感染、垂直感染、内因性感染、日和見感染症、人獣共通感染症、節足動物媒介感染症等の概念について学ぶ。感染症の検査、敗血症と菌血症の違いなどについて学ぶ。 (碓井 之雄)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。				
2	細菌感染症(1) 細菌の形態、グラム染色性、一般的な特徴を学ぶ。 ブドウ球菌、レンサ球菌を中心にグラム陽性菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。 (碓井 之雄)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。				
3	細菌感染症(2) 腸内細菌科、Clostridioides difficileなど腸管感染症の原因となる細菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。梅毒、淋病、クラミジアなどの性行為感染症について学ぶ。 (碓井 之雄)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。				
4	細菌感染症(3) 肺炎球菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌、緑膿菌、レジオネラ菌、マイコプラズマ、クラミジアなど呼吸器感染症、中枢神経感染症(髄膜炎)の原因となる細菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。 (碓井 之雄)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。				
5	細菌感染症(4) 結核菌、非結核性抗酸菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。結核菌の院内感染対策のグループディスカッションなどを含む。 (竹村 弘)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。				
6	真菌・原虫による感染症 主な真菌、原虫の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。 (竹村 弘)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。				
7	免疫と生体防御機構 ヒトのバリア機能、および免疫の種類とそのメカニズムなどを学ぶ。 (大神田 敬)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。				
8	ウイルス感染症(1) ウイルスの特徴を学ぶ。 呼吸器系、消化器系への感染症を引き起こすウイルスの性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。 (大神田 敬)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。				
9	ウイルス感染症(2) 肝炎および血液疾患の原因となるウイルスの性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。 (大神田 敬)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。				
10	感染症の治療 化学療法と薬剤耐性 抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の特徴、副作用、細菌の薬剤耐性機構などについて学ぶ。 (國島広之)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。				

11	新興・再興感染症と感染症法 新型インフルエンザ、MERSなどの新興・再興感染症、感染症法で届出が規定された感染症などについて学ぶ。 (國島広之)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。
12	感染症の予防(1) 組織による感染予防対策 感染制御チーム、抗菌薬適正使用チームの実際の活動などについて学ぶ。 (三田由美子)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。
13	感染症の予防(2) 医療関連感染予防対策① 標準予防策、感染経路別予防策などを学ぶ。 病院施設等で行われている感染予防対策の実際を学ぶ。 (三田由美子)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。
14	感染症の予防(3) 医療関連感染予防対策② 滅菌、消毒、洗浄の概念を理解し、各種病原体の滅菌・消毒方法などを学ぶ。 手術部位感染対策、医療環境整備などについて学ぶ。 (中谷佳子)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。
15	感染症の予防(4) 職業感染予防対策 ワクチン接種、針刺し・切創などの職業感染対策などを学ぶ。 職業感染対策のグループディスカッションなどを含む。 (中谷佳子)	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。
	筆記試験	
【アクティブラーニング】		チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)		特になし。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室内で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
特になし。		
【成績の評価方法】		
筆記試験100%		
【履修申請上の条件】		
教科書の該当箇所を予習して授業に臨むこと。 復習としてノートに授業内容をまとめること。		
【教科書】		
吉田真一、他:疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 第14版 系統看護学講座 専門基礎分野(医学書院)		
【参考書】		
染方史郎(金子幸弘):染方史郎の楽しく覚え好きになる感じる細菌学×抗菌薬(じほう) 藤本秀土、他:わかる!身につく!病原体・感染・免疫 改訂第3版(南山堂) 医療情報科学研究所編:看護技術がみえる2 臨床看護技術(メディックメディア) 水口康雄、他:ナースのための微生物学 改訂6版(南山堂)		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
特になし。		
【オフィスアワー】		
特になし。		
【教員連悪先】		
学務課へ連絡をする。		
【備考】		
・2コマまたは3コマ連続の講義となる。 ・現在、臨床で必要とされている最新の知識やトピックスは教科書には記載されていないことが多いので、メモを取りながら授業を聴講し、復習できるよう努めること。		

授業科目名	疾病治療論 I	担当教員名	加藤智啓(聖マリアンナ医科大学教員)
コード	22NBA209	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
疾病治療論Iでは、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患を中心に学習する。特に地域社会や各療養・治療機関で遭遇しやすい代表的疾患について、その病態やそれぞれの疾患に準じた検査・診断を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに習得している形態機能学と結び付けて理解する。□			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			
			ディプロマ・ポリシー
			① ② ③ ④ ⑤
1	疾病の診断に関する基本と方法および治療について記述できる。		○
2	感覚器及び呼吸器系の疾患・病態・診断(検査)、治療について記述できる。		○
【授業計画】			
	授業計画		授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【】 ≪疾病診断・治療≫ ・一般検査、免疫・血清検査など		テキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
2	【】 ≪疾病診断・治療≫ ・負荷検査、生理機能検査など		負荷検査、生理機能検査など・テキストの授業計画部分の予習をする(30分)
3	【】 ≪感覚器系・耳鼻咽喉頭系の疾患の病態と診断・治療≫ a. 嗅覚・味覚障害 b. 聴覚障害(難聴、Ménière<メニエール>病)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
4	【】 ≪感覚器系・耳鼻咽喉頭系の疾患の病態と診断・治療≫ c. 炎症性疾患(咽頭炎、扁桃炎) d. 腫瘍(舌癌、咽頭がん)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
5	【】 ≪眼科系の疾患の病態と診断・治療①≫ e. 視覚障害(白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
6	【】 ≪眼科系の疾患の病態と診断・治療②≫ e. 視覚障害(白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
7	【】 ≪皮膚科系の疾患の病態と診断・治療①≫ f. 皮膚障害(湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎、熱傷)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
8	【】 ≪皮膚科系の疾患の病態と診断・治療②≫ f. 皮膚障害(湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎、熱傷)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
9	【】 ≪呼吸器系の疾患の病態と診断・内科的治療①≫ a. 炎症性疾患(気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎) b. 気管支喘息 c. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)

10 【】	≪呼吸器系の疾患の病態と診断・内科的治療②≫ a. 炎症性疾患(気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎) b. 気管支喘息 c. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
11 【】	≪呼吸器系の疾患の病態と診断・内科的治療③≫ d. 肺循環障害(肺高血圧、肺塞栓症) e. 肺結核 f. 気胸 g. 腫瘍(肺癌、中皮腫)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
12 【】	≪呼吸器系の疾患の病態と診断・内科的治療④≫ d. 肺循環障害(肺高血圧、肺塞栓症) e. 肺結核 f. 気胸 g. 腫瘍(肺癌、中皮腫)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
13 【】	≪呼吸器系の疾患の病態と診断・外科的治療①≫ a. 気胸 b. 腫瘍(肺癌、中皮腫)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
14 【】	≪呼吸器系の疾患の病態と診断・外科的治療②≫ a. 気胸 b. 腫瘍(肺癌、中皮腫)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
15 【】	≪疾病診断・治療≫ ・画像診断		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
【アクティブラーニング】			チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク			○
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
授業計画に沿った予習・復習を行い、その成果を授業のなかで確認する			
【成績の評価方法】			
筆記試験(100%)			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】			
系統看護学講座 成人看護学[2][12][13][14]医学書院			
【参考書】			
特になし			
【オープンな教育リソース】			
特になし			
【担当教員の実務経験】			
聖マリアンナ医科大学を中心に、医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。			
【オフィスアワー】			
授業の前後において、質問等を受ける時間を設ける。			
【教員連絡先】			
連絡を必要とする要件がある場合、大学教務事務に申し出ること。			
【備考】			
授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1ヶ月前に公示する。			

授業科目名	疾病治療論Ⅱ	担当教員名	加藤智啓(聖マリアンナ医科大学教員)
コード	22NBA210	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
疾病治療論Ⅱでは、中枢神経系・末梢神経系の疾患、骨・関節疾患、筋肉・神経筋接合部の疾患を中心に学習する。地域社会や各療養・治療期間で遭遇しやすい代表的疾患や学生自身の健康管理に重要な疾患について、その病態やそれぞれの疾患に準じた検査や検査結果の特徴を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに修得している形態機能学と結び付けて理解する。□			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			
			ディプロマ・ポリシー
			① ② ③ ④ ⑤
1	放射線治療、麻酔法、手術療法、リハビリテーションの基本について記述できる。		○
2	栄養の摂取・消化吸収・代謝機能に関連した疾患の病態、診断、治療について記述できる。		○
【授業計画】			
	授業計画		授業外学修(予習・復習・課題等)
1 【】	≪疾病診断・治療≫ ・放射線治療		テキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
2 【】	≪疾病診断・治療≫ リハビリテーション①		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
3 【】	≪疾病診断・治療≫ リハビリテーション②		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
4 【】	≪上部消化管の疾患の病態と診断・内科的治療①≫ a. 炎症性疾患(逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症) b. 潰瘍性疾患(胃潰瘍、十二指腸潰瘍)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
5 【】	≪下部消化管の疾患の病態と診断・内科的治療②≫ a. 炎症性疾患(潰瘍性大腸炎、Crohn<クローン>病) b. イレウス c. 排便障害(便秘、下痢)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
6 【】	≪上部消化管の疾患の病態と診断・外科的治療①≫ a. 潰瘍性疾患(胃潰瘍、十二指腸潰瘍) b. 腫瘍(食道癌、胃癌)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
7 【】	≪下部消化管の疾患の病態と診断・外科的治療②≫ a. 炎症性疾患(虫垂炎、痔瘻) b. イレウス c. 腫瘍(大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
8 【】	≪肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・内科的治療①≫ a. 炎症性疾患(肝炎、胆管炎、膵炎)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
9 【】	≪肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・内科的治療②≫ b. 脂肪肝、アルコール性肝炎、肝硬変		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
10 【】	≪肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・外科的治療①≫ a. 胆石症 b. 腫瘍(肝癌、胆嚢癌、胆管癌、膵癌)		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)

11 【】	≪腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・外科的治療②≫ a. 鼠径ヘルニア b. 腹膜炎 c. 横隔膜ヘルニア		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
12 【】	≪疾病診断・治療≫ ・麻酔法		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
13 【】	≪疾病診断・治療≫ ・手術療法と生態侵襲(1)開腹術		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
14 【】	≪疾病診断・治療≫ ・手術療法と生態侵襲(2)開胸術		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
15 【】	≪疾病診断・治療≫ ・手術療法と生態侵襲(3)開頭術		前回授業の復習とテキストの授業計画部分の予習をする。(30分)
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
授業計画に沿った予習・復習を行い、その成果を授業のなかで確認する			
【成績の評価方法】			
筆記試験(100%)			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】			
系統看護学講座 成人看護学 [5]医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [15]医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院			
【参考書】			
特になし			
【オープンな教育リソース】			
特になし			
【担当教員の実務経験】			
聖マリアンナ医科大学を中心に、医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。			
【オフィスアワー】			
授業の前後において、質問等を受ける時間を設ける。			
【教員連絡先】			
連絡を必要とする要件がある場合、大学教務事務に申し出ること。			
【備考】			
授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1ヶ月前に公示する。			

看護学部

授業科目名	医療概論	担当教員名	上谷・三宅・望月・松本・黄			
コード	22NBA214	区分 (必修・選択)	必修			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
医療を取り巻く変化は大きく、かつ多様化している。医療技術の高度化・複雑化に伴い、医療者自身の価値観による判断・行動が問われる課題は多い。この科目は、医療を学ぶイントロダクションとしての位置づけであり、講義を通して医学、医療、保健、福祉の基本理念を理解する。それぞれの歴史と現況、保健医療福祉システム、関わっている職種の役割・責務を学び、医療と付随する課題や医療の倫理的・社会的側面について考えを深める。また、将来医療に携わるものとしての自覚を持ち、学修する態度を身につけるために、医療の様々な側面を知り、患者の思いや立場に配慮しながら学ぶことの大切さを理解する。医療者としてどうあるべきかを考え、看護専門職者として対象を尊重する価値観・態度を養う。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	社会において医療の基本理念、歴史的背景について説明できる。	○			○	
2	社会における医療の現状および課題を理解し、課題を達成するために必要な専門職の役割について説明できる。	○			○	
3	医療の仕組みを理解し、今後のあるべき将来像および医療者としてのあり方について論じることができる。	○			○	
4	医療者としての対象を尊重する価値観、態度について論じることができる。	○			○	
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	科目ガイダンス (上谷) シラバス、ワークブック、学修ポートフォリオについて説明 医療概論を学ぶ意義と医学・医療の歩み (三宅) 1. 医療の役割と将来像 2. 医学・医療の歩みと歴史について	予習(60分): ①医学・医療の歩みと歴史、ヒポクラテス、ナイチンゲールについて調べ、課題用紙に整理する。 復習(60分): ①講義ノート、ワークブックを整理する。 ②医学・医療の歴史についてまとめる。 *毎回の講義終了後は、Google Formでリフレクションシートの記入				
2	「医の倫理」思想史 (望月) 1. 古代ギリシアの「ヒポクラテスの誓い」から現代の「リスボン宣言」まで 2. パターナリズムとインフォームド・コンセント	予習(60分): ①世界医師会のジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言について調べ、課題用紙に整理する。 復習(90分) ①講義ノート・ワークブックを整理する。 ②医の倫理のキーワードについてまとめる。				
3	医療者としてのプロフェッショナリズム (望月) 1. プロフェッショナリズム 2. 医療倫理、利益相反	予習(60分): ①プロフェッション、プロフェッショナリズムとはなにかについて調べ、課題用紙に整理する。 復習(90分): ①講義ノート・ワークブックを整理する。 ②医療の専門職としての倫理観、倫理的行動のあり方についてまとめる。				
4	医療の現状と課題① (松本) 1. 我が国の医療供給体制 2. 医療安全 3. 生命倫理	予習(90分): ①厚生労働省のホームページにアクセスし、国民医療費の動向について最新のデータを調べ、課題用紙に整理する。 *「国民医療費・対国内総生産・対国民所得比率の年次推移」 復習(60分): ①講義ノート・ワークブックを整理する。 ②日本の医療提供体制や医療安全、尊厳死に関する現状と課題を整理する。				
5	医療の現状と課題② (松本) 1. チーム医療 2. 歯端医療	予習(60分): ①チーム医療の現状と課題について調べ、課題用紙に整理する。 復習(90分): ①講義ノート・ワークブックを整理する。 ②チーム医療のあり方についてまとめる。				
6	医療の現状と課題③ (黄) 1. 医療者と患者	予習(60分): ①患者-医療者関係におけるパターナリズム、相互主体的な関係、パートナーシップについて調べ、整理する。 復習(90分): ①講義ノート・ワークブックを整理する。 ②患者-医療者関係のあり方について自身の考えを整理する。				

7	医療の現状と課題④ (黄) 1. 医療の将来像 ～病院医療から地域在宅医療へ	予習(60分): ①在宅医療、地域包括ケア、看取り等の現状と課題について調べ、課題用紙に整理する。 復習(60分): ①講義ノート・ワークブックを整理する。 ②住み慣れた地域で暮らすことの意味について考えを整理する。 課題(60分) ①第8回の事前課題提示:次の授業のGWの準備を行う:自己の考えを整理しておく。	
8	まとめ (上谷) 1. チーム医療における看護専門職者の責務 事例検討:個人ワークとシェア 2. 医療者として看護専門職としての今後のあり方 グループディスカッション	予習(60分): ①これまでの授業を見直し、自分の意見がいえるように、テーマについて整理しておく。 復習(90分): ①グループ討議について参加度、貢献度、協調性等について振り返る(ルーブリック)。 ②講義ノート・ワークブックを整理し、レポート課題の準備を行う。 最終レポート課題(180分) ①これまでの講義の中で興味・関心を抱いたテーマを1つ選び、現状と課題、自身の考えについてまとめる。 ②「医療者としてのあるべき将来像」についてまとめる。 *レポート様式、ページ等については講義中に提示する。	
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			授業前の日本医師会HP https://www.med.or.jp/ 、世界医師会HP https://www.wma.net/ 、厚生労働省へアクセスし、事前課題に取り組み、授業に臨む。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室内で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
課題のフィードバックは、授業内で行う。 毎回の講義終了後のリフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Crass Roomで個別もしくは全体にフィードバックする。			
【成績の評価方法】			
レポート(60%)、課題への取り組み・ポートフォリオ等の提出物(40%)による総合評価 目標1・目標2・目標3 :授業後のレポート・各授業の学修ポートフォリオを評価する。 目標3・目標4 :レポートによる評価(ルーブリック評価)。①これまでの講義の中で興味・関心を抱いたテーマを1つ選び、現状と課題、自身の考え、②医療者としてのあるべき将来像、について論述できること、2点についてのレポートを評価する。			
【レポート評価基準(ルーブリック評価)】			
・評価項目:①課題に沿ったタイトルの設定、②内容の一貫性・論理性・わかりやすい表現、③設定した問題の背景の説明、④文献の引用等による考察の深まり、⑤文章の体裁・適切な表現(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等)、などの項目について自己・他者評価を含めて評価する。 ・提出期日の厳守。提出遅延時は減点対象とする。 ・ 剽窃行為は禁止 、評価対象外とする。			
【グループワーク評価(ルーブリック評価)】			
・評価項目:①相手に伝え・話を聴く双方向型、②場や相手の状況を読む、③表情や視線などの非言語を読み取る力、④真摯に向き合う姿勢・振る舞い・雰囲気づくり、等を自己・他者評価を含めて評価する。			
【ポートフォリオ評価(ルーブリック評価)】			
・評価項目:①資料の有無、②整理、③順序性、④学修記録、⑤独自性・工夫、⑥保存性、について評価する。			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】			
適宜資料を配布する。 参考図書を必要に応じ活用すること。			
【参考書】			
千代豪昭, 黒田研二編集, 学生のための医療概論, 第3版, 増補版, 医学書院, 2019. 小坂樹徳, 田村京子編著, 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度①現代医療論, 第3版, 2012. 柳澤信夫著, 現代医学概論, 第2版, 医歯薬出版株式会社, 2016. 小泉俊三他: 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度1 総合医療論 医学書院, 2014. 厚生労働省編: 厚生統計要覧, 厚生統計協会, 各年. 厚生労働統計協会編: 国民衛生の動向 2020/2021 (厚生指針2020年8月増刊), 一般財団法人 厚生労働統計協会			
【オープンな教育リソース】			
特になし			
【担当教員の実務経験】			
医師として医療者として、専門分野の医学的な知識、技術をもとに医学・医療の歴史、現状と課題等の講義を行う。 また、科目責任者は看護師としての臨床経験があり、医療全般の課題について講義する。			
【オフィスアワー】			
火曜日1限・2限、木3限・4限 昼休み Gmailでの問合せ可能			
【教員連絡先】			
iuetani@t-junshin.ac.jp			
【備考】			
医学・医療の歴史を知ることは、現状と問題点を理解する上で基礎となる学習である。各種書籍やインターネットでの情報を活用して理解を深め、さらに、各種メディア、一般書で取り上げられる医学・医療に関する問題について常に関心を寄せ、その内容について積極的にアプローチする姿勢を期待している。			

授業科目名	公衆衛生学	担当教員名	吉田 稔
コード	22NBA217	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】
 公衆衛生学では、健康の保持・増進を組織化された共同社会の中で社会努力によって、疾病の予防、寿命の延長そして身体的・精神的健康と能率の増進を目指す学問である。ここでは健康に関する様々な要因を認識し、健康障害を予防するための一生を通した様々な保健活動や産業活動に起因する疾病予防について学ぶ。さらに健康は環境、病因そして宿主(ヒト)のバランスの下で成立している。とくに人間の生命維持に不可欠なものは内部環境(人体の恒常性)に加え、外部環境(自然的環境、人為的環境)の保持である。しかし、我々を取り巻く外部環境は近年、多様化を模様し、人々の疾病構造や健康問題にも大きく影響を与えている。健康を取り巻く要因について個人レベル・集団レベルで学び、疾病の予防の在り方についても総合的に考える。□

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 健康の概念やそれに関わる保健の概念を説明することができる。			○		
2 我が国の健康状況の実態と疫学的概念を説明できる。			○		
3 感染症の成立とその対策を説明できる。			○		
4 様々な保健とその活動の意義について説明できる。			○		
5 生活環境および住居環境に関する健康問題を説明できる。			○		
6					
7					

【授業計画】	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	「公衆衛生を学ぶにあたって」 ・公衆衛生の定義と役割や健康の概念を理解する。とくに「健康」については、グループ討論で理解する。	事前学習:「健康とは何か」を考え、完結にまとめる。(15分) 事後学習:講義とグループワークを踏まえて、「健康」を定義する。(10分) 復習(20分):授業内容を整理する。
2	「ヘルスプロモーションと公衆衛生の歴史」 ・ヘルスプロモーションの基本理念と目的、意義を理解する。公衆衛生の歴史を学ぶ。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
3	「現代の健康問題」 ・健康日本21の目的を踏まえて、現代社会の生活基盤、ライフスタイルと健康との関係について理解する。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
4	「疫学」 ・疫学の概念、疫学研究方法、疫学の効果指標を理解する。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
5	「感染症とその予防」 ・感染症の現状、主な感染症とその対応、感染症対策のシステム、感染症患者の看護と保健活動について理解する。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
6	「母子保健」 ・母子保健の統計、地域母子保健対策の体系、主な母子保健施策について理解する。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
7	「学校保健」 ・学校保健の概要、目的、学校保健行政の内容(保健・安全・体育・給食)について理解する。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
8	「成人保健」 ・成人保健の意義と目的、健康問題の現状と課題、制度とシステムについて理解する。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
9	「高齢者保健」 ・高齢者保健の目的と地域保健の役割、高齢者を支えるシステム・制度について理解する。高齢者特有の健康に関する問題や社会での問題について学ぶ。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(5分):授業内容を整理する。
10	「地域保健とソーシャル・キャピタル」 ・地域の保健活動、地域住民に対する保健サービス、その実現のための地域保健法を理解する。また保健活動におけるソーシャル・キャピタルの意義について学ぶ。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。

11	「産業保健」 ・産業保健の目的と特徴、労働衛生関係法令の概要、職業性疾病とその予防対策について理解する。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。	
12	「食品保健」 ・食品保健の目的・制度について理解する。健康栄養、食品管理、食中毒に関する課題について理解する	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。	
13	「環境保健」 ・地球環境の保全、我が国の公害問題、大気汚染に関する問題について理解する。そして環境保全に関する基本理念や施策を定めた環境基本法を学ぶ。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。	
14	「生活環境と健康」 ・温熱要素と温熱指数、上水道と下水道、悪臭、騒音に関する健康や生活環境に関わる課題を理解する。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。	
15	「住居環境と健康」 ・室内空気環境、シックハウス症候群・化学物質過敏症に関する健康問題を理解する。ごみ・廃棄物問題について学ぶ。	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。	
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
授業終了後に行う小テストは問題の解説後に返却する			
【成績の評価方法】			
成績評価は総括的評価と形成的評価で行う。総括評価は授業終了後に実施する客観試験(70%)により行い、形成的評価は講義後に必要に応じて行う小テスト(20%)と授業(10%)態度をもって行う。			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】			
系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生 健康支援と社会保障制度 医学書院			
【参考書】			
・「厚生省の指標・臨時増刊号―国民衛生の動向―」厚生統計協会(財) ・公衆衛生がみえる2020-2021、メディックメディア			
【オープンな教育リソース】			
本講義では使用しません。			
【担当教員の実務経験】			
本講義は実務経験を生かした授業内容ではありません。			
【オフィスアワー】			
月曜日 15:00~17:00			
【教員連絡先】			
myosida@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
特になし			

授業科目名	健康教育学	担当教員名	渡辺羊子・戸塚恵子・宮城真樹			
コード	22NBA218	区分 (必修・選択)	必修			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
この教科では、健康づくりのために重要な方法の一つである健康教育の方法と実際を学ぶ。健康教育の対象者は、妊産婦から子ども、成人、高齢者まであらゆる人々が対象となり、健康教育を行う場面も学校、企業、地域など様々である。対象者のニーズに合わせた健康教育が実施できるよう、知識と技術を学修する。また、健康教育では対象者が健康問題に気づき、主体的に自己の健康課題の解決に取り組む態度や、行動する力を育むことができるような援助技術を学修する。具体的には、健康教育の概念、コミュニティ・オーガニゼーション、自主グループやネットワーク、住民参加など地域力の向上を目指した健康教育の実施方法や媒体、企画・評価などについて、講義や演習を通して学修する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー
						① ② ③ ④ ⑤
1 健康教育の基本理念を述べることができる。						○
2 健康行動に関する理論を述べることができる。						○
3 あらゆる人々に応じた健康教育を述べることができる。						○
4 あらゆる活動場面に応じた健康教育を述べることができる。						○
5 健康教育の企画、指導案、評価の方法を述べることができる。						○
6 対象や場の特徴をふまえた健康教育の企画をグループで行うことができる。						○
7 健康教育の実演(発表)を実施することができる。						○
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	ガイダンス 健康教育の理念 ・健康 ・健康教育の考え ・健康教育の目的、定義、理念 【講義】	(渡辺)	予習(60分)「個人の健康・集団の健康とは何か」を、考えノートにまとめる。 復習(60分)授業の振り返りを行い要点をノートにまとめる。			
2	健康教育の基礎理論 ・KAPモデル、健康信念モデル、行動変容ステージモデル、自己効力感等 【講義】	(渡辺)	予習(60分)「どうしたら行動に移すことができるのか」を、3つ以上考えノートにまとめる。 復習(60分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノートにまとめる。			
3	健康づくりにおける健康教育 ・保健・医療からの健康教育(健康増進、病気の予防、早期発見・早期治療、治療(悪化防止)、リハビリテーションと健康教育) ・健康づくりの考え方 ・健康づくりと国の動き 【講義】	(渡辺)	予習(60分)今まで学習してきた「健康づくり」関することを調べ、調べた内容をノートにまとめる。授業内で確認問題を行うため、2回目までの復習をしておく。 復習(60分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノートにまとめる。			
4	集団、個別の健康教育・健康相談 ・個別への健康教育・健康相談、集団への健康教育 ・コミュニティ・オーガニゼーション、自主グループ、ネットワークと健康教育 ・住民参加と健康教育 【講義】	(渡辺)	予習(60分)地域(身の回り)にどのような「健康に関するグループ」が存在しているか3つ以上調べ、ノートにまとめる。 復習(60分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノートにまとめる。			
5	健康教育を行う対象と場 (渡辺) ・学校保健における健康教育 ・高齢期にある人々を対象とした健康教育 ・成人・働く人々を対象とした健康教育 ・親と子どもを対象とした健康教育 【講義】	(渡)	予習(60分)小中高高校生、母子、成人、高齢者の健康問題を新聞、教科書、統計資料等から調べ、ノートにまとめる。 復習(60分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノートにまとめる。			
6	行動変容をうながすための健康教育 ・健康教育における心構え、マナー 【講義・ロールプレイ】	(渡辺)	予習(60分)「接遇マナー」について調べ、ノートにまとめる。 復習(60分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノートにまとめる。			
7	健康教育の方法 ・媒体、企画、指導案、評価、プレゼン方法につて 【講義】	(渡辺)	予習(60分)メディア、広報、掲示等身の回りにおける健康教育の資料を集めてくる。 復習(60分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノートにまとめる。			
8	健康教育の企画書作成	(渡辺 戸塚 宮城)	予習(60分)グループで健康教育を行うにあたり、テーマを考え参考となる資料を持参する。			
9	【演習】		復習(180分)グループで企画書作成を仕上げをする。			
10	健康教育の指導案作成	(渡辺 戸塚 宮城)	予習(60分)指導案を考え、グループ演習がスムーズに進むようノートに要点をまとめる。			
11	【演習】		復習(180分)グループで指導案作成を仕上げる。			
12	健康教育の媒体作成、発表の準備	(渡辺 戸塚 宮城)	予習(60分)媒体を考え、グループ演習がスムーズに進むようノートに要点をまとめる。			
13	【演習】		復習(180分)グループで媒体作成と発表準備をする。			
14	健康教育の発表	(渡辺 戸塚 宮城)	予習(120分)発表の練習			
15	【演習】		復習(60分)課題レポート「健康教育の演習からの気づきと学び」を800～1000字でまとめる。 *授業外学習時間は、60時間必要であるため、不足分は休日等を活用し復習すること。			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		ビデオ・DVD プロジェクター、PC等
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
課題のフィードバックは授業内で行う。 知識の確認をするために、授業内に確認問題を実施する。		
【成績の評価方法】		
<評価基準> ・「到達目標」に明示している、1・2・3・4を定期試験の評価基準とする。 ・「到達目標」に明示している、5・6・7は演習参加状況、発表内容で評価する。 ・課題レポートと演習は、ルーブリックを用いて自己評価・他者評価を行う。 <割合> ・定期試験40%、課題レポート20%、演習の指導案、媒体作成、プレゼンの内容40% ＊課題レポートは、遅れて提出した場合も受け取るが5割の評価となる。		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
教科書なし 授業で資料を配布する		
【参考書】		
・最新保健学講座<別巻1>健康教育論 宮坂忠夫 メヂカルフレンド社 2013 ・医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 松本千明 医歯薬出版 ・実践行動変容のためのヘルスキューション 奥原剛 大修館書店		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
渡辺羊子:大学病院の看護師の実務経験、地域保健(保健所・市保健センター)と学校保健(大学保健室)における多様な場で保健師として、実務経験を活かした授業を展開する。 戸塚恵子:臨床看護、保健師(保健所・市町村保健センター)において行ってきた健康教育や保健指導の実務経験をもとに授業を展開する。 宮城真樹:保健センター、学校保健、産業保健等の経験を活かして講義を行う。		
【オフィスアワー】		
渡辺羊子:火～金 12:10～13:00 戸塚恵子:月・火・木・金 12:10～13:00 宮城真樹:月～金 12:10～13:00		
【教員連絡先】		
渡辺羊子:未定 戸塚恵子:ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp 宮城真樹:未定		
【備考】		
看護職は、いろいろな対象者や場面での健康問題に対し健康教育が欠かせません。今後、専門分野の看護を習得していきますが、実践に必要な健康教育の基礎を身に付けてください。健康教育のデモンストレーション演習もあります。学生の皆さんは、主体性をもって積極的に参加してください。		

授業科目名	保健統計学 I	担当教員名	吉田 稔		
コード	22NBA219	区分 (必修・選択)	必修		
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。				
【授業の概要】					
統計学は集団に関する数量的研究方法を対象とする科学であり、集団の特徴を数値で把握し、活用する学問である。この集団の取り扱いの違いにより記述統計学と推測統計学(推計学)に分けられ、集団の特徴が健康に関連するものであるものが保健統計学である。看護の領域でも、根拠に基づく看護evidence-based nursing (EBN) が求められている。統計学はその根拠を導き出す手法であり、医療現場で得られたデータの性質の把握やデータ間の比較のために解析に用いられる。集団における健康事象に関するデータ収集や解析に関する基礎的知識としての統計学を身につけるとともに、統計解析正しく行うための基礎的な考え方についても学ぶ。さらに疾患の原因の探索や予防法の評価に疫学が用いられており、統計的手法は疫学を学ぶための基礎となる。□					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー
					①
					②
					③
					④
					⑤
1. 統計学の基礎的な考え方を説明できる。					
2. 基本統計量(平均、標準偏差など)の意味を理解し、計算方法と利用方法を説明できる。					
3. 確率分布、検定と推定、回帰分析について説明できる。					
4. 分析すべき問題に対し、適切な統計学的手法を用いて計算できる。					
5. 論文に記載された統計処理の意味を理解できる。					
【授業計画】					
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	統計学の基礎 ・母集団と標本、統計調査の種類を理解する。	予習(40分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。			
2	データの整理 ・度数分布とヒストグラム、中心的傾向を示す指標、散らばりを示す指標を理解する。	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。			
3	確率分布 ・正規分布、標準正規分布の応用、標本平均の分布、 χ^2 分布、t分布、F分布を理解する。	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。			
4	区間推定 ・平均の区間推定、分散の区間推定を理解する	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。			
5	2群の平均値の比較-t検定- ・対応のない2群の差の検定と対応がある2群の差の検定を理解する。	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。			
6	F分布検定-等分散検定- ・F分布を応用した等分散の検定と分散分析(3群以上の平均値の1様性を検定)を理解する。	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。			
7	独立性の検定- χ^2 検定- ・2群の割合の差の検定、Yatesの補正、Fisher直接確率検定について理解する。	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。			
8	2つのデータの関わり合いを示す指標 ・ピアソン相関係数と回帰直線について理解する。	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)			エクセルを用いて統計解析をおこなう。		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○			
③:ディスカッション・ディベート					
④:グループワーク					
⑤:プレゼンテーション					
⑥:実習・フィールドワーク					
【課題のフィードバック】					
フィードバックとして小テスト(課題)を実施し、解答の解説を行う。					
【成績の評価方法】					
成績評価は総括的評価と形成的評価で行う。総括評価は学期末に実施する客観試験(70%)により行い、形成的評価は講義後に必要に応じて行う小テスト(30%)をもって行う。					
【履修申請上の条件】					
エクセルによる統計解析を行うためノートパソコンを使用する。					
【教科書】					
標準保健師講座 疫学・保健統計学 医学書院					

【参考書】 加納克己・高橋秀人共著:基礎医学統計学 改定第7版、南江堂 石村貞夫、劉晨、石村友二郎共著:やさしく学ぶ統計学 Excelによる統計解析 東京図書
【オープンな教育リソース】 本講義では使用しません。
【担当教員の実務経験】 本講義は実務経験を生かした授業内容ではありません。
【オフィスアワー】 月曜日 15:00～17:00
【教員連絡先】 myosida@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

授業科目名	看護学概論	担当教員名	天野雅美
コード	22NPR301	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		

【授業の概要】

本科目は、看護の基盤を学修するにあたり理解しておきたい看護の歴史や概念について学修する。フローレンス・ナイチンゲールの活躍を原点として、看護の歴史の変遷を概観し、看護が看護学として発展した経緯や先人の活躍を学修する。特に主要な看護理論家の看護概念を学び、看護の定義を理解する。更に、自らの日常生活を振り返り、看護の対象である人間が生活する意味を理解することを目指す。看護の捉え方を示し看護学の概念を構成している人間、健康、環境、看護および看護の機能と役割について学習し、看護学の基本を理解する。個々の課題の取り組みをもとにして、グループワークで見分を広げ、発表会やレポートを通して看護観を養う。本科目の履修により、看護への興味を増し、関心が深まることで学習への動機づけを図る。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】

	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護の歴史の変遷を説明できる。					○
2 看護の概念を説明できる。	○				
3 看護の専門性、看護の機能・役割を述べる事ができる。				○	
4 看護の本質を考察できる。					○

【授業計画】

	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	ガイダンス:看護学、基礎看護学、科目概要、看護を学ぶ意義 看護の歴史の変遷①:歴史を学ぶ意義	予習(90分):シラバスを熟読し、授業概要を理解する。テキスト1.序章、第4章Aを読み、看護学を学ぶ動機と看護職のイメージや仕事内容をノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護を学ぶ意義と看護の歴史の変遷について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
2	看護の歴史の変遷②:看護職が活躍する場(発表)、医療・福祉・介護施設	予習(90分):看護職が活躍する場について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
3	看護の対象①:人間の特徴、基本的欲求、人間と発達、人間と生活、学習支援	予習(90分):テキスト1.第2章を読み、看護の対象である人間の身体的・精神的・社会的特徴をノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護の対象について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
4	看護の対象②:人間と生活(発表)	予習(90分):人間と生活について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
5	健康のとらえ方①:健康に影響を与えるもの、健康の定義、健康・障害・生活との関連	予習(90分):テキスト1.第3章を読み、国民の健康状態と生活について、ノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、健康のとらえ方について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
6	健康のとらえ方②:健康に影響を与えるもの(発表)	予習(90分):国民の健康について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
7	看護の提供者①:看護職の資格と養成制度、教育課程の変遷、	予習(90分):テキスト1.第4章BCDを読み、看護職の資格と養成制度をノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護の提供者について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
8	看護の提供者②:看護の資格と教育(発表)	予習(90分):看護の資格と教育について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
9	看護の専門性①:看護のマネジメント、チーム医療	予習(90分):テキスト1.第6章を読み、看護サービスとは何かについてノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
10	看護の専門性②:看護方式(発表)	予習(90分):看護方式についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
11	看護における倫理①:倫理の原則、ICN看護師の倫理綱領、日本看護協会の看護者の倫理綱領	予習(90分):テキスト1.第5章を読み、看護における倫理とは何かについてノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
12	看護における倫理②:倫理的事例(発表)	予習(90分):倫理的事例についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
13	看護の理論①:看護の構成要素	予習(90分):テキスト1.第1章を読み、看護とは何かについてノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
14	看護の理論②:私たちが考える看護の構成要素(発表)	予習(90分):看護の理論についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。

15	看護の国際化と看護:看護における国際化の視点、国際社会における看護の対象、多様な文化と看護、国際協力活動と看護 看護の役割と機能・課題:看護の将来ビジョン	予習(90分):テキスト1. 第7章を読み、看護の国際化の現状、看護専門職とは何か、期待される看護者像をノートにまとめる。 復習(90分):授業の第1回～第15回までの学びをノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。	
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		○	・Google classroomを活用して、授業内容の指示をしたり、Google formsにより学修の理解度を確認する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。 フィードバックとして、レポート・リアクションペーパーにコメントを入れて返却する。			
【成績の評価方法】			
・課題やレポート(100%)で総合的に評価する。課題の取り組み内容が6割に満たない場合は、課題の再提出を課す。 ・総授業時間2/3以上の出席者を評価する。			
【履修申請上の条件】			
・特になし。			
【教科書】			
1. 茂野香おる他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論, 医学書院, 2022. 2. ナイチンゲール著, 小玉香津子他訳:看護覚え書き-本当の看護とそうでない看護, 日本看護協会出版会, 2022. 3. ヴァージニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版, 2022.			
【参考書】			
1. 宮脇美保子編:新体系看護学全書 基礎看護学[1] 看護学概論, メヂカルフレンド社. 2. 松本光子編著:看護学概論, ヌーベルヒロカワ.			
【オープンな教育リソース】			
・特になし。			
【担当教員の実務経験】			
・看護師・保健師の資格を有し、内科病棟・外科病棟を中心とした看護師臨床経験がある。看護基礎教育は、基礎看護学領域を専任とした大学教育経験がある。			
【オフィスアワー】			
・B棟3428-1研究室 平日12:10-13:00			
【教員連絡先】			
・mamano@g.t-junshin.ac.jp 事前にアポイントメントを取ること			
【備考】			
・本科目の単位修得が、基礎看護学実習 I の先修科目となっている。			

授業科目名	基本援助技術	担当教員名	樋口美樹・高山由利江・安藤幸枝 本田智子・大津山優葵・天野雅美		
コード	22NPR302	区分 (必修・選択)	必修		
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】				
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。				
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。				
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。				
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。				
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。				
【授業の概要】					
<p>本科目は、看護を必要としている人々に対して、的確な看護判断のもとで、確実に実践できる基礎的能力を養うものである。</p> <p>具体的には、人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活援助に関わる基本的看護技術であり、一般的な手順に加え、科学的根拠を踏まえた技術の習得をめざす。技術項目は看護技術に共通しているコミュニケーション、感染予防技術、観察の技術、環境調整の技術、ボディメカニクスと安楽な体位の援助技術などである。</p> <p>特に、コミュニケーションや感染予防の技術は全ての援助技術に共通する援助技術であり、看護師として対象である患者の生活を支援する上で最も基本となる技術である。</p> <p>また、看護技術は安全・安楽・自立という看護の原理原則にのっとり、対象者の個性をふまえて実施される。</p> <p>演習を通してたんに技術を実施するのではなく、対象者とのコミュニケーション、対象者の観察、エビデンスをふまえた安全で安楽な技術の習得をめざす。</p> <p>授業ではワークシート等を使用し、各自の援助内容を援助前から計画的に学修し、振り返りができるようにする。</p>					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					
ディプロマ・ポリシー					
① ② ③ ④ ⑤					
1 看護技術の概念を説明できる。					
○ ○ ○ ○ ○					
2 看護の共通技術となるコミュニケーションに必要な知識と方法を説明できる。					
○ ○ ○ ○ ○					
3 日常生活援助技術の基本となる対象者の安全、安楽を守る技術を実施できる。					
○ ○ ○ ○ ○					
4 患者・看護者の役割体験から学んだ内容を述べるができる。					
○ ○ ○ ○ ○					
5 自己の看護技術を振り返り、課題を述べるができる。					
○ ○ ○ ○ ○					
【授業計画】					
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	<p>ガイダンス:演習での学習方法と実習室の使い方を学ぶ (演習の進行、身だしなみ・実習室の使用方法、評価等)</p> <p>1. 看護技術の概念 看護技術の基本原則と習得のプロセス 担当:樋口</p>	<p>復習(30分):授業内容を振り返り、整理する</p> <p>【課題・提出】 グーグルクラスルーム・グーグルフォームを使用した演習に関するワークに取り組む</p>			
2	<p>2. 対象理解のための観察 対象者の全体をみるとは</p> <p>3. コミュニケーション① コミュニケーションに関する基礎知識</p> <p>【講義】 コミュニケーションの意義と目的、構成要素、 関係構築のためのコミュニケーション 担当:樋口</p>	<p>予習・復習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 授業内容を振り返り、整理する</p>			
3	<p>4. 感染防止の技術</p> <p>【講義】 スタンダードプリコーションと感染経路別予防策 担当:樋口</p>	<p>予習・復習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 授業内容を振り返り、整理する</p>			
4	<p>3. コミュニケーション②</p> <p>【演習】 関係構築のためのコミュニケーション 担当:樋口 高山 安藤 本田 大津山 天野</p>	<p>予習・復習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 授業内容を振り返り、ワークの整理する</p> <p>【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む</p>			
5	<p>4. 感染防止の技術②</p> <p>【演習】 患者・医療者双方を守る安全の技術(手洗い・PPE) 流水による手洗い、手指衛生、マスク・アイガード・エプロン・ 手袋の装着と脱着 担当:樋口 高山 安藤 本田 大津山 天野</p>	<p>予習・復習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 授業内容を振り返り、ワークの整理する</p> <p>【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む</p>			
6	<p>5. 環境調整技術 ①</p> <p>【講義】 療養生活の環境と援助の実際 担当:高山</p>	<p>予習・復習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 授業内容を振り返り、整理する</p>			

7	6. 活動・休息援助技術 ① 【講義】 基本的活動の基礎知識(ボディメカニクスとよい姿勢、体位) 運動機能の低下した人への援助に関する基礎知識 移動を援助する方法 担当:樋口	予習・復習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 授業内容を振り返り、整理する	
8	6. 活動・休息援助技術 ② 7. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 ① 【講義】 休息の援助に関する基礎知識(睡眠の援助 含む) 体位保持(ポジショニング) 罨法 担当:樋口	予習・復習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 授業内容を振り返り、整理する	
9	6. 活動・休息援助技術 ③ 【演習】 ボディメカニクスを活用による体の動きの体感 【演習】 体位変換 左右への移動 仰臥位から側臥位 側臥位から仰臥位 仰臥位からファーラー位 仰臥位から長坐位 長坐位から端坐位 端坐位から立位 端坐位から仰臥位 担当:樋口 安藤	予習・復習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 事例にあわせた援助計画書の立案 授業内容を振り返り、ワークや援助計画書の整理をする 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の追記・修正	
10	7. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 ② 【演習】 ポジショニング・罨法 仰臥位 側臥位 半側臥位 ファーラー位 氷枕・氷嚢の作成 担当:(樋口) 本田 高山	予習・復習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 事例にあわせた援助計画書の立案 授業内容を振り返り、ワークや援助計画書の整理をする 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の追記・修正	
11	6. 活動・休息援助技術 ④ 【演習】 杖歩行・車いすの移乗と移送・ストレッチャー① 担当:(樋口) 大津山 天野	予習・復習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 事例にあわせた援助計画書の立案 授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の追記・修正	
12	6. 活動・休息援助技術 ⑤ 【演習】 杖歩行・車いすの移乗と移送・ストレッチャー② 担当:(樋口) 大津山 高山 天野	予習・復習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 事例にあわせた援助計画書の立案 授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の追記・修正	
13 14	5. 環境調整技術 ②・③ 【演習】 臥床患者のシーツ交換と環境整備 事例をもとに、既習の援助技術(スタンダードプリコーション・コミュニケーション・観察・体位変換・ シーツ交換)を使って技術を組み合わせてみよう。 担当:高山 安藤 大津山 樋口	予習・復習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 事例にあわせた援助計画書の立案 授業内容を振り返り、ワークや援助計画書の整理をする 【課題】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の追記・修正	
15	基本援助技術 まとめ 【演習発表評価会】 臥床患者のシーツ交換 担当:高山 安藤 大津山 樋口 天野	予習(240分):事例をもとに、学生間で援助計画書を立案し、技術の練習をする 復習(45分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の追記・修正	
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		○	Webでの事前課題配信や確認課題配信などを取り入れ、各自が主体的に学修できる工夫をする。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
事前課題は、講義・演習に使用し、適宜フィードバックをおこなう			
【成績の評価方法】			
総合評価は、筆記試験75%、演習発表会10%、課題学習・授業の取り組み15%とする。 演習発表会(臥床患者のシーツ交換)は、グループでの援助計画書ならびに参加度を加味して評価する。評価表もしくは評価の視点は、後日配信予定とする。 課題学習・授業の取り組みは、演習後のワークの提出(記載されている内容、提出期日の遵守)10%、取り組み状況(演習への参加度・グループへの貢献度、 援助計画書の追記の状況と提出状況)5%によって評価する。			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】			

茂野 香おる他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学【2】 基礎看護技術 I, 医学書院, 2021.
任 和子他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学【3】 基礎看護技術 II, 医学書院, 2021.
医療情報科学研究所編:看護がみえるVol.1 基礎看護技術, メディックメディア, 2018.

【参考書】

講義・演習の中で適宜紹介する

【オープンな教育リソース】

特になし ただし、クラスルームで事前に確認する動画コンテンツ等は紹介する

【担当教員の実務経験】

看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護技術のエビデンスや実践などについて教授する

【オフィスアワー】

水:1・2限 昼休み (9:00~13:00)

木:3・4限 (13:00~16:10)

ただし、在室時是对応できることもありますので、事前にメール等で連絡を入れてください。

平日9:00~19:00 土曜日9:00~15:00 メール対応しています(ただし、他の授業をしている可能性もあります)。

【教員連絡先】

mhiguchi@g.t-junshin.ac.jp

注意事項

□メール受付時間 : 平日 9:00~19:00

□メールタイトル(件名) : ①科目名「基本援助技術」②学籍番号 ③氏名を記載する。

□宛名とメール内容 : ④宛名を記載し、⑤簡潔・明瞭に用件を記載する。

【備考】

基礎看護技術実習(1年後期)に向けて、この科目を履修しておくことが望ましい。

演習に備えて、必ず事前課題に取り組むこと。

前週の演習・学習内容は、ワークシートの提出、内容によっては援助計画書が課題である。

演習は、身支度を整え、手洗いが済んでいる状態で開始とする。具体的には、初回ガイダンス時に説明する。

演習は、準備から片付けまでが一連の学習であることを理解して臨む。準備・片付け等で演習室に入室する場合は、規定の演習室の使用 방법에準じる。

※演習にあたり、準備する物品がある場合は授業内もしくはWeb上のGoogleクラスルームで伝達する。

※Webサイトへの登録・入室の方法は、初回ガイダンス時に説明するため、事前に大学のGmailに登録しておくこと。

※※2018年度カリキュラムで看護技術演習 I を未履修の学生は、本科目と後期に開講する生活援助技術の単位修得をもって、看護技術演習 I (2018年度カリキュラム)の単位修得とする。

※※2019年度カリキュラム:看護技術演習 I に該当

看護学部

授業科目名	生活援助技術	担当教員名	樋口美樹・大津山優葵・天野雅美 安藤幸枝・本田智子・高山由利江	
コード	22NPR303	区分 (必修・選択)	必修	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/60時間/演習	
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】			
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。			
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を实践する能力を身につけている。			
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を实践する能力を身につけている。			
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。			
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。			
【授業の概要】 本科目は、看護を必要としている人々に対して、的確な看護判断のもとで、確実に実践できる基礎的能力を養うものである。 具体的には、人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活援助に関わる基本的看護技術であり、一般的な手順に加え、科学的根拠を踏まえた技術の習得をめざす。 技術項目は対象の日常生活を支える清潔の援助(寝衣交換、部分浴、清拭、洗髪)、排泄の援助、栄養と食事援助、観察の援助技術であり、生活援助に関わる技術を中心に学修する。 生活の援助技術は、安全・安楽・自立という看護の原理原則に加え、個性が大きく問われてくる技術でもある。また、1つの援助技術で完結することもあるが、複合的に組み合わせられ実施される技術でもある。 そこで本授業では、各自が清潔の援助技術を中心に心地よさや個性の追求に向け、援助に課題を見出し、課題解決学習をおこなう。 グループで課題解決のための演習や話し合いの時間を設け、心地よさの追求や個性について学んだことをクラスで共有する時間を設ける。 複合的な援助については、事例にあわせて1年次に学修した援助内容を組み合わせるグループで援助計画書を立案し、実施することをおこなっていく。これにより、より実践的に援助することができるように学修をしていく。				
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				
			ディプロマ・ポリシー	
			①	②
			③	④
			⑤	
1	日常生活援助技術を実施するために必要な知識と方法を説明することができる。		○	○
2	日常生活援助技術を安全・安楽・自立に基づき実施することができる。		○	○
3	看護師、患者の役割体験から学んだ内容を述べるることができる。		○	○
4	自己の看護技術を振り返り、課題を述べるることができる。		○	○
【授業計画】				
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)		
1・2	ガイダンス:本時の学習方法・進め方 技術確認(評価対象)について(バイタルサイン/臥床患者のシーツ交換/臥床患者の寝衣・シーツ交換) (演習の進行、評価について) 1. 観察の技術 一般状態のアセスメント① :バイタルサイン測定 【講義】 バイタルサインに関する基礎知識 (体温・脈拍・呼吸に関する基礎知識) 担当:樋口	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取り組む 授業内容を振り返り、整理する 授業で確認した動脈を必ず自宅で触れてくる(触知してくる)		
3・4	1. 観察の技術 一般状態のアセスメント② :バイタルサイン測定 バイタルサインの測定・観察方法 【演習】バイタルサイン測定① 体温・脈拍・呼吸・血圧(触診法) 担当:樋口・安藤・本田・大津山・高山	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 授業内容を振り返り、課題の整理 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 血圧計のコックのおろし方を練習する		
5・6	1. 観察の技術 一般状態のアセスメント③ :バイタルサイン測定 バイタルサインの測定・観察方法 【演習】バイタルサイン測定 血圧(触診法)→聴診法 一連の流れで測定する 担当:樋口・安藤・本田・大津山・高山	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 授業内容を振り返り、課題の整理 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 事後演習課題に取り組む		
7・8	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ① 【講義】 衣生活の援助に関する基礎知識/衣生活を整える方法 清潔援助に関する基礎知識 清潔を整える方法(入浴・シャワー浴・足浴・清拭・陰部洗浄・口腔ケア) 整容 担当:樋口	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取り組む 授業内容・確認テストを振り返り、整理する		
9・10	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ② 【演習】 足浴 臥床、座位 担当:樋口・本田	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 援助計画書の作成 授業内容を振り返り、課題の整理 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の修正		
11・12	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ③ 【演習】 洗髪 ケリーパッド、洗髪台、洗髪車 担当:大津山・安藤・高山	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 援助計画書の作成 授業内容を振り返り、課題の整理 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の修正		

13・14	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ④ 【演習】 寝衣交換・清拭① 担当:樋口・安藤・本田・大津山・高山	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 援助計画書の作成(浴衣タイプ→甚平タイプ) 授業内容を振り返り、課題の整理 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の修正
15・16	2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ⑤ 【演習】 寝衣交換・清拭② 担当:樋口・安藤・本田・大津山・高山	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 援助計画書の作成 授業内容を振り返り、課題の整理 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の修正
17	【課題学習】 選択…以下の内容より選択(例) 足浴:湯の量による温まり方の違い/リラックスを求めた足浴の工夫(マッサージや入浴剤)/ 清拭:石鹸清拭のふき取りと皮膚のpHの変化/心地よい拭き方とは(温度・拭く時の圧・タオルの絞り方) 洗髪:ケリーパッドの高さ/洗髪と拭髪の汚れの落ち方の違い 菴法:氷枕の氷・水の量の違いによる心地よさの違い	予習(60分): ① 後期入ってすぐにグループで課題を選択し、選択した課題に応じてグループを編成する。各自で文献を調べ、演習時に持ち寄る。 ② 課題に応じた演習内容を各自で立案し提出する(演習時間は正味70～80分) ※わからない場合は教員に必ず事前に相談する
18	発表: 学んだ内容をグループでまとめ、発表する 担当:樋口	復習(140分): ① 各自の演習内容の振り返りおよび他グループの発表を聞いて学んだことを振り返る。 ② 今後の援助にどのように活かすのか具体的プランをたてる(個人ワーク)
19	【技術の統合】 事例:Aさん22歳 39.3℃ 背部に発汗がみられ、軽度息切れが見られる。 軽度の頭痛がある。体の向きは声をかければ変えることはできるが、 座位はできないという。 「背中がべたべたして気持ち悪い。シーツも湿っている感じがする。 暑いし、頭痛い」とナースコールで訴えてきた。	予習(60分): ① 既習学修の振り返り(援助計画書の見直し含む) ② Aさんにどんな援助が必要なのか、考えてくる
20	※Aさんは、1時間ほど前に悪寒戦慄があったため、足元に湯たんぽを使用し、毛布をかけていた。現在も掛物は先程のままであった。 事例を読んで必要な援助をグループで考え、援助計画を立案する。 29・30回目に発表する。 担当:樋口	復習(270分以上):グループ ① グループで話し合ったAさんへの援助計画書を立案する(グループで立案する) → 後日提出(評価対象) ② ①にしたがってAさんへ援助を実施する(グループごとに練習する) → 後日実施(評価対象)
21	3. 「食べる」と「排泄すること」の援助 ① 3-1) 食事の援助(経口的栄養摂取)① 【講義】 食事・栄養状態に関する基礎知識 食事の援助方法 担当:大津山	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取り組む 授業内容・確認テストを振り返り、整理する
22	3. 「食べる」と「排泄すること」の援助 ② 3-2) 排泄の援助① 【講義】 排泄に関する基礎知識 / 自然排泄を促す援助 / 床上排泄の援助方法 / オムツ交換 担当:大津山	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取り組む 授業内容・確認テストを振り返り、整理する
23	3. 「食べる」と「排泄すること」の援助 ③ 3-1) 食事の援助(経口的栄養摂取)②	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 援助計画書の作成 授業内容を振り返り、課題の整理
24	【演習】 食事援助と口腔ケア 担当:大津山・安藤・本田・高山・樋口	【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の修正
25・26	3. 「食べる」と「排泄すること」の援助 ④ 3-2) 排泄の援助② 【演習】 便器・尿器を使用した排泄の援助 オムツ交換排泄の援助(便・尿器・オムツ交換) 担当:大津山・安藤・本田・高山・樋口	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 援助計画書の作成(浴衣タイプ→甚平タイプ) 授業内容を振り返り、課題の整理 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の修正
27・28	3. 「食べる」と「排泄すること」の援助 ⑤ 3-2) 排泄の援助③ 2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ⑥ 【演習】 陰部洗浄 担当:大津山・安藤・本田・高山・樋口	予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 援助計画書の作成 授業内容を振り返り、課題の整理 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の修正
29・30	生活援助技術まとめ① 【事例演習発表会】技術の統合	19・20回で実施した事例 ※予習(270分以上)…19・20回の復習に該当 ① グループで話し合ったAさんへの援助計画書を立案する(グループで立案する) → 後日提出(評価対象) ② ①にしたがってAさんへ援助を実施する(グループごとに練習する) → 後日実施(評価対象)

47-00	<p>実際の発表に加え、留意点や工夫点をプレゼンテーションする。 担当:樋口・安藤・本田・大津山・高山・天野</p>	<p>復習(40分):評価結果をふまえ、グループで援助計画書を修正する 修正した援助計画書をもとに、再度、自分たちで援助をおこなう。 【提出】 修正したグループの援助計画書 振り返りシート</p>
【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	Webでの事前課題配信や確認課題配信などを取り入れ、各自が主体的に学修できる工夫をする。 実践に即し、援助を統合させて実施する視点を学ぶ。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
<p>【課題のフィードバック】</p> <p>事前課題は、講義・演習に使用し、適宜フィードバックをおこなう</p>		
<p>【成績の評価方法】</p> <p>総合評価は、筆記試験70% 事例演習発表会10% 実験的課題学習のプレゼンテーション5% 課題学習・取り組み15%とする。 なお、事例演習発表会はグループでの援助計画書ならびに参加度等を加味して評価する。評価表もしくは評価の視点は、後日配信予定とする。 課題学習・取り組みは、演習後のワークの提出(記載されている内容、提出期日の遵守)10%、取り組み状況(演習への参加度・グループへの貢献度、援助計画書の追記の状況と提出状況)5%によって評価する。</p>		
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>		
<p>【教科書】</p> <p>茂野 香おる他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学【2】 基礎看護技術 I, 医学書院, 2021. 任 和子他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学【3】 基礎看護技術 II, 医学書院, 2021. 医療情報科学研究所編:看護がみえるVol.1 基礎看護技術, メディックメディア, 2018.</p>		
<p>【参考書】</p> <p>講義・演習の中で適宜紹介する</p>		
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし ただし、クラスルームで事前に確認する動画コンテンツ等は紹介する</p>		
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護技術のエビデンスや実践などについて教授する</p>		
<p>【オフィスアワー】</p> <p>水:1・2限 昼休み (9:00～13:00) 木:3・4限 (13:00～16:10) ただし、在室時は対応できることもありますので、事前にメール等で連絡を入れてください。 平日9:00～19:00 土曜日9:00～15:00 メール対応しています(ただし、他の授業をしている可能性もあります)。</p>		
<p>【教員連絡先】</p> <p>mhiguchi@g.t-junshin.ac.jp</p> <p>注意事項 <input type="checkbox"/>メール受付時間 : 平日 9:00～19:00 <input type="checkbox"/>メールタイトル(件名) : ①科目名「生活援助技術」 ②学籍番号 ③氏名を記載する。 <input type="checkbox"/>宛名とメール内容 : ④宛名を記載し、⑤簡潔・明瞭に用件を記載する。</p>		
<p>【備考】</p> <p>基礎看護技術実習(1年後期)に向けて、この科目を履修しておくことが望ましい。 演習に備えて、必ず事前課題に取り組むこと。 前週の演習・学習内容は、ワークシートの提出、内容によっては援助計画書が課題である。 演習は、身支度を整え、手洗いが済んでいる状態で開始とする。具体的には、初回ガイダンス時に説明する。 演習は、準備から片付けまでが一連の学習であることを理解して臨む。準備・片付け等で演習室に入室する場合は、規定の演習室の使用法に準じる。 ※演習にあたり、準備する物品がある場合は授業内もしくはWeb上のGoogleクラスルームで伝達する。 ※Webサイトへの登録・入室の方法は、初回ガイダンス時に説明するため、事前に大学のGmailに登録しておくこと。</p> <p>※※2018年度カリキュラムで看護技術演習 I を未履修の学生は、本科目と前期に履修する基本援助技術の単位修得をもって、看護技術演習 I (2018年度カリキュラム)の単位修得とする。 ※※2019年度カリキュラム:看護技術演習 IIに該当</p>		

1単位30時間

基本

1日 病棟実習 8:30～16:00 1日6.5時間

授業科目名	看護とコミュニケーション	担当教員名	天野雅美
コード	22NPR305	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		

【授業の概要】

本科目は、コミュニケーション論や基本援助技術で学修した基本的知識に基づき、看護実践に必要なコミュニケーションの理論と方法について学ぶ。また、特に、対象－看護者関係に焦点を当て、信頼関係を構築するための基本的な内容を学び、さらに援助的コミュニケーションについて学修する。看護者が用いる質問の方法や誠実な対応、共感的理解に焦点を当て、沈黙の意味やコミュニケーションの時間帯などを学ぶ。看護者に求められるコミュニケーションは、相互作用であること、挨拶や身だしなみなどの基本的態度が求められること、コミュニケーションの成立から関係性の構築が必要であること、コミュニケーションに障害を持つ患者には様々な状態があり、それらの障がいに応じてコミュニケーションの対応の特徴があること、などを含めて一連の内容がコミュニケーションスキルに繋がることを学修する。ロールプレイングを実施し、その体験を逐語録にして、自分のコミュニケーションの過程を振り返り、よりよいコミュニケーションを考える。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1. コミュニケーションの目的を想起できる。	○			○	
2. 接近的コミュニケーションの原理を説明できる。	○		○		
3. 効果的なコミュニケーションの技術を説明できる。			○	○	
4. コミュニケーション障害がある人への対応を考えることができる。			○		
5. ロールプレイングにより自己の特徴を述べるができる。	○		○		

【授業計画】		
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【ガイダンス】 1. コミュニケーションの目的の想起 1) 看護や医療におけるコミュニケーションの構造・プロセス 2) 対人関係プロセスとしての看護 2. ロールプレイング	予習(90分):シラバスを熟読し、授業概要を理解する。テキスト第1章A.コミュニケーションの意義と目的、B.コミュニケーションの構成要素と成立過程を復習する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
2	1. 看護におけるケアリングとコミュニケーション 1) ケアリングの概念と今日的意味 2. ロールプレイング	予習(90分):看護学概論第1章B.看護の役割と機能を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
3	1. 関係構築のためのコミュニケーション__① 1) 接近的コミュニケーションの原理 2) 接近的行動の前提となる基本的な態度 3) 接近的行動と非接近的行動 4) 接近的コミュニケーションの成立 2. ロールプレイング	予習(90分):テキスト第1章C.関係構築のためのコミュニケーションの基本を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
4	1. 関係構築のためのコミュニケーション__② 1) 接近的コミュニケーションの原理 2) 接近的行動の前提となる基本的な態度 3) 接近的行動と非接近的行動 4) 接近的コミュニケーションの成立 2. ロールプレイング	予習(90分):テキスト第1章C.関係構築のためのコミュニケーションの基本を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
5	1. 効果的なコミュニケーションの技法__① 1) 傾聴 2) 情報収集 3) 説明 4) アサーティブネス 2. ロールプレイング	予習(90分):テキスト第1章D.効果的なコミュニケーションの実際を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
6	1. 効果的なコミュニケーションの技法__② 1) 傾聴 2) 情報収集 3) 説明 4) アサーティブネス 2. ロールプレイング	予習(90分):テキスト第1章D.効果的なコミュニケーションの実際を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。

7	1. コミュニケーション障がいがある人への対応__① 1)コミュニケーションに障がいのある人の特徴 2)言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3)コミュニケーション障がいがある人への対応 2. ロールプレイング	予習(90分):テキスト第1章E.コミュニケーション障がいへの対応を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。	
8	1. コミュニケーション障がいがある人への対応__② 1)コミュニケーションに障がいのある人の特徴 2)言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3)コミュニケーション障がいがある人への対応 2. ロールプレイング 3. まとめ 授業評価アンケート	予習(90分):テキスト第1章E.コミュニケーション障がいへの対応を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。	
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			•Google classroomを活用して、授業内容の指示をしたり、Google formsにより学修の理解度を確認する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
<ul style="list-style-type: none"> •課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。 •フィードバックとして、レポート・リアクションペーパーにコメントを入れて返却する。 			
【成績の評価方法】			
<ul style="list-style-type: none"> •課題レポートやロールプレイングの取り組み(100%)で総合的に評価する。課題の取り組み内容が6割に満たない場合は、再提出を課す。 •評価の視点は、初回授業時に提示する。 •提示された課題に取り組んでいない場合、減点対象となる。 •総授業時間2/3以上の出席者を評価対象とする。 			
【履修申請上の条件】			
•特になし。			
【教科書】			
1. 茂野香おる他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論, 医学書院, 2022. (1年前期に購入済み)			
【参考書】			
1. 宮脇美保子編:新体系看護学全書 基礎看護学[1] 看護学概論, メヂカルフレンド社. 2. 松木光子編著:看護学概論, ヌーベルヒロカワ.			
【オープンな教育リソース】			
•特になし。			
【担当教員の実務経験】			
•看護師・保健師の資格を有し、内科病棟・外科病棟を中心とした看護師臨床経験がある。看護基礎教育は、基礎看護学領域を専任とした大学教育経験がある。			
【オフィスアワー】			
•B棟3428-1研究室 平日12:10-13:00			
【教員連絡先】			
•mamano@g.t-junshin.ac.jp 事前にアポイントメントを取ること			
【備考】			
•特になし。			

授業科目名	暮らしの理解	担当教員名	戸塚智美 戸塚恵子 南 幸子 渡辺羊子 宮城真樹					
コード	22NPR308	区分 (必修・選択)	必修					
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
人々には様々な暮らしがある。「暮らし」とは、日々を過ごしていくこと、生活の方法や様式、ライフスタイルという意味がある。この科目では、地域における人々の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響について学修する。人の一生には、「学ぶ」、「働く」、「子どもを産み育てる」、「病気を治す」、「若いとともに生きる(定年後の生活)」、「最期を迎える」等、様々な暮らしがあることを理解する。また、地域で暮らす人々は、「家族」、「仲間」、「近隣の人々」、「学校や職場」の中で支えあって生きていることを理解する。さらに、地域の生活環境(文化的環境・社会的環境・自然環境)が健康に及ぼす影響について学修する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 「暮らし」と「生活」の意味を述べるができる。						○		
2 様々な人々の暮らしを述べるができる。				○		○		
3 生活環境が健康に与える影響を述べるができる。						○		
4 人の一生の中で、「学ぶ」、「働く」、「子どもを産み育てる」、「病を治す」、「人生の最終段階」の意味を述べるができる。				○		○		○
5 地域で暮らす人々は、「家族」、「仲間」、「近隣の人々」、「学校や職場」の中で支えあって生きていることを述べるができる。				○		○		○
6 地域包括ケアシステムと地域包括支援センターの概要が述べられる。						○		○
【授業計画】								
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)						
	授業オリエンテーション 【「暮らし」・「生活」の概念】 ①人々の「暮らし」とは ②人々の「生活」とは ③人々の暮らしと健康について(生活環境が健康に与える影響) ④自分自身の生活を考えてみよう ・「食生活指針」(平成28年6月)に則り、自身の食生活を考える ・生活習慣(運動・睡眠・学習・趣味・買物等)と健康を考える ・生活環境(居住環境・家族等)と健康を考える ・経済面と生活を考える(小遣い・アルバイトの収入・1ヶ月の生活費)	【戸塚智 戸塚恵 南 渡辺 宮城】						
1		予習(30分):シラバスを一読し、授業のイメージを持って参加する。						
2		復習(60分): 『課題ノート』に以下をまとめる。 ①「暮らし」と「生活」の意味 ②自分自身の生活 ③生活環境が健康に与える影響						
3	【人の一生の中の暮らしを考える】 (前半:グループワーク、後半:発表会)	【戸塚智 戸塚恵 南 渡辺 宮城】						
4	①「学ぶ」意味を考える(小学校⇒中学校⇒高等学校⇒大学⇒生涯学習) ②「働く」意味を考える(アルバイト⇒看護師・一般企業等)	予習(40分): ①人の一生の中で、「学ぶ」、「働く」ことについてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「学ぶ」、「働く」ことについてインタビューをして、『課題ノート』にまとめる。 復習(60分):人の一生の中で、「学ぶ」、「働く」ことの意味についてまとめる。						
5	【人の一生の中の暮らしを考える】 (前半:グループワーク、後半:発表会)	【戸塚智 戸塚恵 南 渡辺 宮城】						
6	③「子どもを産み育てる」意味を考える	予習(40分): ①人の一生の中で、「子どもを産み育てる」ことについてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「子どもを産み育てる」ことについてインタビューをして、『課題ノート』にまとめる。 復習(60分):人の一生の中で、「子どもを産み育てる」ことの意味についてまとめる。						
7	【人の一生の中の暮らしを考える】 (前半:グループワーク、後半:発表会)	【戸塚智 戸塚恵 南 渡辺 宮城】						
8	④「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」意味と生活を考える	予習(40分): ①人の一生の中で、「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」ことについてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」ことについてインタビューをして、課題ノートにまとめる。 復習(60分):人の一生の中で、「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」ことの意味と生活についてまとめる。						
9	【人の一生の中の暮らしを考える】 (前半:グループワーク、後半:発表会)	【戸塚智 戸塚恵 南 渡辺 宮城】						
10	⑤「人生の最終段階」を考える	予習(40分): ①人の一生の中で、「人生の最終段階」のイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「人生の最終段階」についてインタビューをして、課題ノートにまとめる。 復習(60分):人の一生の中で、「人生の最終段階について」の意味についてまとめる。						
11	【地域における暮らしの理解】 ①地域の人々との暮らし	【戸塚智 戸塚恵 南】						
12	②「家族」、「仲間」、「近隣の人々」、「学校や職場」の中で支えあって生きている	予習(40分): ①家族・近隣の人々・自治会の人々との暮らしについて、イメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「地域の人々と支えあって暮らしていること」に関するインタビューをして、『課題ノート』にまとめる。 復習(60分):「家族」、「仲間」、「近隣の人々」、「学校や職場」で支えあって生きていることについてまとめる。						
13	【地域包括ケアシステム】 ①地域で暮らす:八王子市左入地区を理解する	【戸塚智・外部講師】						
14	②地域包括ケアシステムとは ③地域包括支援センターとは ④地域包括支援センター左入の取り組み事例(外部講師)	予習(40分):以下を『課題ノート』にまとめる ①厚生労働省ホームページの地域包括ケアシステムを熟読し、疑問点を課題ノートに記述する。 ②八王子市左入地区についてホームページ等で調べる。 ③地域包括支援センター左入の事業内容を調べる。 復習(60分): ①地域包括ケアシステム・地域包括支援センターについてまとめる。 ②地域包括支援センター左入の取り組み事例をまとめる						
15	【暮らしの理解】 ①人々の暮らしと健康について ②地域で暮らすことについて	【戸塚智】						
		予習(30分):『課題ノート』に暮らしや健康に関する内容を追記する。 復習(60分):次のテーマ①②をレポートする。 ○課題レポート ①人々の暮らしと健康について ②地域で暮らすことについて						

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
講義内容の質問や意見をリアクションペーパーに記入し、質問等のフィードバックは、次の講義の中で実施する。		
【成績の評価方法】		
<p><評価基準></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「到達目標」に明示している目標1～6を定期試験の評価対象とする。 ・課題レポートは「①人々の暮らしと健康について、②地域で暮らすことについて考察できること」を評価基準とする。 ・課題ノートは第1回～第15回までの予習・復習に活用し、記述内容の具体性を評価基準とする。 <p><割合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「定期試験40%、課題レポート30%、課題ノート30%で評価する」 		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①:地域療養を支えるケア 第7版 メディカ出版 2022年		
【参考書】		
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎からわかる 地域・在宅看護論 照林社 2021年 ・五十嵐隆:はじめてママ&パパの育児—0～3才赤ちゃんとの暮らし 気がかりがスッキリ 主婦の友社 2014 ・戸塚洋二:がんと闘った科学者の記録 文春文庫 2009 ・Bricolage(ブリコラージュ)2021夏号【273号】地域でつなぐ 2021 ・岩名礼介 新版 地域包括ケア サクセスガイド:「住み慣れた地域で自分らしい暮らし」を実現する メディカ出版 2020 ・秋山正子:「暮らしの保健室」ガイドブック「相談/学び/安心/交流/連携/育成」の場 日本看護協会出版会 2021 ・リンダ・グラットン:LIFE SHIFT(ライフ・シフト)—100年時代の人生戦略 東洋経済新聞社 2016 ・長谷川和夫:僕はやっとなんか認知症のことがわかった 自らも認知症になった専門医が日本人に伝えたい遺言 KADOKAWA 2019年 		
【オープンな教育リソース】		
記載事項なし		
【担当教員の実務経験】		
<p>戸塚智美:臨床看護・訪問看護の実務経験をもとに、疾患や障害が対象の日常生活に及ぼす影響と療養者とその家族に対する看護を総合的に教授する。</p> <p>戸塚恵子:臨床看護(重症心身障害児・者)、保健所、保健センター、福祉事務所の実務経験から保健医療福祉の法律や制度について看護の視点から授業を展開する。</p> <p>南幸子 :臨床看護、訪問看護、特定居宅支援事業所、地域包括支援センターの勤務経験から地域・在宅で生活するために必要な看護支援を教育内容に取り入れた授業を展開する。</p> <p>渡辺羊子:臨床看護・訪問看護・保健師の実務経験を踏まえ、保健・医療・福祉の視点を意識しながら、地域で生活する人々への看護について授業を展開する。</p> <p>宮城真樹:保健センター、学校保健、産業保健等の経験を活かして講義を行う。</p>		
【オフィスアワー】		
<p>戸塚智美:月～金12:10～13:00</p> <p>戸塚恵子:月～金12:10～13:00</p> <p>南幸子 :月～金12:10～13:00</p> <p>渡辺羊子:火～金 12:10～13:00</p> <p>宮城真樹:月～金 12:10～13:00</p>		
【教員連絡先】		
<p>戸塚智美:stotsuka@g.t-junshin.ac.jp</p> <p>戸塚恵子:ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp</p> <p>南幸子 :sminami@g.t-junshin.ac.jp</p> <p>渡辺羊子:未定</p> <p>宮城真樹:未定</p>		
【備考】		

授業科目名	基礎看護技術実習	担当教員名	樋口美樹・天野雅美・安藤幸枝 本田智子・大津山優葵・高山由利江 他	
コード	22NPR338	区分 (必修・選択)	必修	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/実習	
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】			
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。			
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。			
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。			
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。			
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。			
【授業の概要】				
<p>本科目では、療養生活の場に出向き、患者とのコミュニケーションや環境調整や清潔の援助など看護援助場面の一部実施を通して、患者におこなわれている日常生活の援助について学ぶ。学生は、看護者のシャドウイングにより、療養環境や看護援助を理解し、患者と接することにより、看護者としてふさわしい行動や看護について考え、理解を深める。この実習は、看護学生として実習における学習の仕方を学ぶ最初の実習である。実習における他者とのかかわり、自己の振り返りから自己の傾向を知り、看護学生として基本的な態度を身につけることができる。</p>				
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー
				①
				②
				③
				④
				⑤
1 患者を尊重し、コミュニケーションをとることができる。				○
2 患者の療養環境と療養生活を述べるができる。				○
3 看護がどのように実践されているのかを説明することができる。				○
4 自己の振り返りや他者との情報共有を通して、学びを深めることができる。				○
5 看護学生として自覚と責任ある行動をとり、主体的に実習に取り組むことができる。				○
【授業計画】				
授業計画		授業外学修(予習・復習・課題等)		
<p>詳細は基礎看護学実習 I 要項を参照</p> <p>実習期間:2022年12月12日(月)～16日(金)</p> <p>実習時間:原則として8:00～16:30</p> <p>実習施設:聖マリアンナ医科大学病院2病棟、多摩病院6病棟、西部病院4病棟、東横病院1病棟</p> <p>実習方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は6～7名でグループを編成し、各病棟に分かれて実習を行う。 ・病院・病棟オリエンテーションを受ける。 ・看護師とともに患者に行われている看護援助を見学する。 ・看護師とともに患者に行われている看護援助を一部実施する。 (スタンダードプリコーション・環境整備・シーツ交換・清潔援助・移動/移送の援助) ・患者とコミュニケーションをはかる。 ・療養環境を観察する。 ・実習最終日には実習のまとめを行い、他の学生と学びを共有する。 		<p>【実習1日目】 予習(60分): ・実習目標を理解し、各自の実習目標を立てる。 ・実習当日の一日の行動計画を立てる。 ・実習に向けた事前課題を準備する。 ・必要な援助技術の練習を行う。 復習(60分): ・本日の目標を評価し、明日の行動計画を立案する。</p> <p>【実習2・4日目】 予習(各60分): ・実習目標を記録用紙に記載する。 ・見学及び一部実施できる援助技術の手順を確認する。 復習(各80分): ・実習を振り返り、記録用紙を整理する。 ・見学・実施した看護援助について振り返り、翌日の行動計画に活用する。</p> <p>【実習3日目 水曜日】 学内 実習1日目・2日目で学んだ内容をグループで共有する。 実習1日目・2日目で学んだ内容を記録用紙を使用して整理する。 教員による指導を受ける。 病棟で実施している援助、患者に実施されている看護援助を練習する。(環境整備・シーツ交換・清潔援助・移動/移送の援助) 復習(120分) 学内で指導を受けた内容をもとに記録用紙の整理をする。</p> <p>【実習5日目】 予習(60分): ・実習の学びについてまとめておく。 ・実習記録提出に向けて記録を整理する。 ・実習評価表をもとに自己評価をする。 復習(60分): ・評価面接を振り返り、今後の自分の課題を整理する。</p>		

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		・基礎看護技術実習前に、グループを中心に実習室を有効活用して、看護技術の復習をする。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	
【課題のフィードバック】		
・実習中の質問や疑問は、当日や翌日に実習担当教員や実習指導者より返答する。また、必要時、記録の提出にコメントを入れて返却する。		
【成績の評価方法】		
・4/5以上の出席をもって、実習目標の到達度を実習内容・態度・実習記録・カンファレンスへの参加度などをもとに、評価表の評価項目(100%)に沿って総合的に評価する。 ・実習記録物の提出が指定された期日および時間に遅れた場合は、不合格となる。		
【履修申請上の条件】		
2021年度カリキュラムで基礎看護技術実習を受講する場合は ・「看護学概論」の単位修得が先修要件となっている。 ・「基本援助技術」の単位修得が望ましい。 ・「生活援助技術」については履修中であることが望ましい。 ※※2018年度カリキュラムで基礎看護技術実習を受講する場合には、2018年度カリキュラム看護技術演習Ⅰ(基本援助技術と生活援助技術)が先修要件となっている。(基礎看護学実習Ⅰに読み替える) ※※※2019年度カリキュラムで基礎看護学技術実習を受講する場合には、基本援助技術が先修要件となっている。(基礎看護学実習Ⅰに読み替える)		
【教科書】		
・特に指定しない。		
【参考書】		
・看護学概論、看護技術演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト		
【オープンな教育リソース】		
・特に使用しない		
【担当教員の実務経験】		
・看護師としての臨床経験のある教員および、看護教育に従事した経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護の思考過程や援助技術の実践などについて教授する。		
【オフィスアワー】		
・担当教員…実習病院で実習期間中の実習時間内に行う。		
【教員連絡先】		
各担当教員の連絡方法は、別途説明する。		
【備考】		
・実習開始前に、学内で実習オリエンテーションを行う。オリエンテーションでは事前課題が提示されるので準備して実習に臨むこと。 ・健康管理に十分留意して実習に臨むこと。		

授業科目名	成人看護学概論	担当教員名	小濱 優子			
コード	22NPR316	区分 (必修・選択)	必修			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
<p>本科目では、成人各期(青年期・壮年期・中年期・向老期)の各発達段階における身体的・精神的・社会的特徴について、生涯発達の視点からさまざまな発達理論をもとに学修する。成人各期の特徴について自己学修した内容をレポートにまとめ、グループディスカッションを行い、グループ毎のプレゼンテーションによる学びを共有する。成人期である学生自身も成人として、大人として自身の生涯発達の課題について考察を深め、多角的視点で成人期を捉えていく。さらに、成人を取り巻く最新の成人保健の動向について学び、成人の健康の維持・増進および疾病予防のための看護師の役割についても学ぶ。成人への看護実践に必要な支援体制と保健医療福祉制度との関連についても学ぶ。</p>						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	成人とは何か、大人とは何か、自分の考えを記述できる、	○				
2	生涯発達論からみた成人各期の分類について説明できる。	○				
3	成人各期の各発達段階における身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。	○		○		
4	成人保健の動向について説明できる。		○			
5	成人の健康の維持・増進および疾病の予防のための看護の役割について説明できる。		○	○		
6	成人への看護実践に必要な支援体制と保健医療福祉制度との関連について説明できる。			○		
7	グループワーク後の発表会で学びを共有し、記述できる。	○				
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	オリエンテーション(授業の概要・目標、スケジュール、評価基準等) I.成人とは、大人とは何か、考えてみよう	予習(60分):テキスト第1章-A-①を読み、成人とは、大人とは何かについて考えておく。 復習(90分):本時の授業目標についてノートに整理する。「成人とは、大人とは」について自己学習を行い、課題レポート①にまとめる。				
2	II.生涯発達論からみた成人各期の特徴 1. エリクソン 2. ハヴィガースト 3. 生涯発達論	予習(60分):テキスト第1章-A-②を読み、成人各期の分類について予習する。 復習(90分):本時の授業目標についてノートに整理する。成人期の発達危機の特徴について復習する。				
3	III.成人各期の各発達段階における特徴(1) 1. 身体的特徴 2. 精神的特徴 3. 社会的特徴	予習(60分):テキスト第1章-A-②、-Bを読み、成人の各発達段階の特徴を予習する。 復習(90分):「成人前期」の特徴について課題レポート②にまとめる。				
4	III.成人各期の各発達段階における特徴(2) 1. 身体的特徴 2. 精神的特徴 3. 社会的特徴 IV.成人保健の動向	予習(60分):テキスト第1章-A-②、-B、第2章-Aを読み、成人の各発達段階の特徴、成人保健の動向について予習する。 復習(90分):本時の授業目標についてノートに整理する。				
5	V.成人の健康の維持・増進および疾病の予防のための看護の役割	予習(60分):テキスト第4章、5章を読み、成人の健康の維持・増進および疾病の予防のための看護の役割について予習する。 復習(90分):本時の授業目標についてノートに整理する。				
6	VI.成人への看護実践に必要な支援体制と保健医療福祉制度	予習(60分):テキスト第2章-Bを読み、看護実践に必要な支援体制と保健医療福祉制度について予習する。 復習(90分):本時の授業目標についてノートに整理する。				
7	VII.グループワーク (成人とは、大人とは何か)	予習(60分):「成人とは、大人とは何か」について自己の考えをまとめておく。 復習(90分):「成人とは、大人とは何か」についてグループでまとめたことを整理し、発表に向けて準備を行う。				
8	VII. グループワーク発表会 (成人とは、大人とは何か)	予習(90分):「成人とは、大人とは何か」についてグループでまとめ、発表の準備を行う。 復習(90分):他のグループワークの発表内容から学びを共有し、課題レポート③にまとめる。				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			特になし			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート		○				
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション		○				
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
講義後の意見や質問をリアクションペーパーに記入し、各々の課題については次回以降の講義でフィードバックを行う。						
【成績の評価方法】						
<p><評価基準>到達目標に明示している項目を定期試験の評価基準とする。 <評価割合>定期試験:70%、課題レポート①②:20%、グループワーク後の課題レポート③:10%とする。</p>						

<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院</p>
<p>【参考書】</p> <p>服部祥子:生涯人間発達論 医学書院 厚生労働統計協会編:国民衛生の動向 (最新版)</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>担当教員の実務経験(臨床・成人看護学教育)を取り入れ、教授する。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>平日の昼休み時間。事前にメール等で連絡してから訪問すること。</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>小濱優子:ykohama@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>各回の予習を行い、授業に臨むこと。</p>

授業科目名	老年看護学概論	担当教員名	塚本 都子			
コード	22NPR317	区分 (必修・選択)	必修			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
<p>本科目は、ライフサイクルからみた老年期にある対象の身体的・精神的・社会的な特徴を疑似的な生活体験をもとに学ぶ。具体的には、避けることのできない生理的な老いについて、高齢者疑似体験をとおし、筋力・視力・聴力低下など身体的変化や心理面への影響を明らかにし、理解を深める。また、フレイルやサルコペニアにつながる視点から、高齢者個々の日常生活への影響について考察する。少子超高齢社会がすすむ現在、我が国の老年人口の推移と将来推計の特徴をふまえ、世帯構成や要介護者の増加要因を理解し、高齢者を取り巻く保健医療福祉の動向や課題について学ぶ。さらに、自己のエイジズムの傾向を知り、老年看護を支える理論・概念をおさえ、高齢者の権利擁護を基盤とした老年看護の役割と目標を学修する。</p>						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	ライフサイクルからみた老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。	○				
2	高齢者を取り巻く保健医療福祉の動向や課題を述べるができる。			○	○	
3	高齢者の権利擁護について説明できる。	○			○	
4	老年看護の理論と概念について述べるができる。	○			○	
5	高齢者の健康障害の特徴をふまえ、看護の原則と目標を説明できる。	○			○	
【授業計画】						
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	イントロダクション 1) 老いのイメージ 2) 高齢者の健康 3) 加齢と老化 4) フレイルとサルコペニア 担当:塚本	予習(30分):老いのイメージについて、自分自身の考えをまとめる。 復習(30分):講義後、「老いる」ことの自分自身の考えをまとめる。				
2・3	老年期にある対象の身体的特徴 1) 老化の疑似的生活体験 【グループ演習】 (1) 視力低下、視覚障害 (2) 手指の巧緻性の低下 (3) 聴覚低下 (4) 全身の筋力や関節可動域の変化 2) 臓器・器官別の加齢性変化 (1) 脳・神経系 (2) 心・血管系 (3) 呼吸器系 (4) 消化器系 (5) 腎・泌尿器系 (6) 骨・筋・運動器系 (7) 造血器・生殖器系 担当:塚本	予習(60分):老化にともなう高齢者の身体的変化についてテキストを読みまとめる。 復習(60分):演習を振り返り、器官別に身体的機能の変化の特徴をまとめる。 課題①(300分):「老化が心身と生活に及ぼす影響について」のレポートを提出する。 提出期間:1週間後。(成績評価15%)				
4	老化による日常生活への影響 1) 身体的側面の変化 2) 知的・認知的側面の変化 3) 心理的側面の変化 4) 社会的側面の変化 担当:塚本	予習(30分):テキストの該当するページを読み、分からない用語を調べる。 復習(60分):講義を振り返り、高齢者の生活のなかで注意が必要な場面について、根拠とともにまとめる。				
5	老年期の発達課題 1) 発達理論と発達課題 2) 老年期の発達課題 3) スピリチュアリティ 担当:塚本	予習(60分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(60分):老年期の発達課題、死生観についてまとめる。				
6	人口学的指標からの老年期の理解および医療のしくみ 1) 高齢化と高齢者世帯 2) 高齢者の健康状態、平均寿命、健康寿命、死亡の動向 3) 高齢者と家族機能 4) 介護家族の課題 5) 高齢者の医療のしくみ 担当:塚本	予習(60分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(60分):介護家族に対して、どのような対策が必要かを考えまとめる。各自在住する地域の介護保険サービス提供施設について調べる。				
7	老年看護の原則と目標【1】 1) 高齢者に対するスティグマ、エイジズム 2) アドボカシー、アドボケイト 3) ノーマライゼーション 4) 自立支援 担当:塚本	予習(60分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、看護師を目指す自己の課題を明らかにする。 復習(60分):自立支援についてまとめる。				
8	老年看護の原則・目標【2】 1) 高齢者虐待/身体拘束 2) 権利擁護のための制度 3) 老年看護における看護理論 ・エンパワメント ・ストレングスモデル ・ライフレビュー ・コンフォート理論 4) 高齢者のための国連原則 5) まとめ 担当:塚本	予習(60分):新聞記事の検索システムを活用し、高齢者虐待や身体拘束に関連した報道をとりあげ、自己の考えをまとめる。 復習(30分):高齢者の権利を擁護するために、必要な対策について考えをまとめる。 課題②(360分) 1回～8回までの授業を振り返り、レポートを提出する。 タイトル「近年の高齢者を取り巻く問題・課題と看護職を目指す自分の考え」 表紙に、タイトルを書き、文字のフォントは、12ポイント・明朝体・太文字とする。 表紙以外の本文は、フォント10.5ポイント・明朝体とする。 用紙は、A4、横書き、上下・左右余白ともに20mmとし、1ページ40字×40行とする。 提出期間:1週間後。(成績評価15%)				

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	DVDの活用
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	タブレット端末を活用した身体機能チェック
③:ディスカッション・ディベート	○	高齢者疑似体験セット
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
【課題のフィードバック】		
リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義のなかで実施する。		
【成績の評価方法】		
課題①レポート15点、課題②レポート15点、筆記試験70点とし、総合評価する。 レポートの課題と評価は、事前ガイダンスをおこない、5つの観点に対して評価基準3段階で作成したルーブリック表を用いておこなう。 評価と到達目標との関係については、到達目標1は課題①と筆記試験で評価する。到達目標2・3・5は、課題②と筆記試験で評価する。到達目標4は、筆記試験で評価する。		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
亀井智子:老年看護学①老年看護学概論/老年保健 第5版,/メヂカルフレンド社.		
【参考書】		
1.百瀬 由美子, 奥野 茂代ほか:老年看護学—概論と看護の実践 第6版,スーベルヒロカワ. 2.北川公子ほか:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学9版,医学書院. 3.佐々木英忠ほか:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 5版,医学書院.		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
老年内科での看護師実務経験、認知症高齢者の療養施設での研修・研究活動のある教員が、老化、病、障害を複合的に抱える高齢者と家族を支える看護の原則、目標・理論について教授する。		
【オフィスアワー】		
塚本は、火・木の12:00～13:00、16:30～17:30である。研究室への訪室やe-mailでの質問に対応する。		
【教員連絡先】		
mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
この科目は、2年次の必修科目である老年生活機能援助論・老年健康回復援助論につながる重要な学修内容となっています。 予習、復習は、必ず教科書を活用し、丁寧に行ってください。授業を受けることで、老年看護学への学問的な関心が高まります。		

授業科目名	暮らしの理解体験実習	担当教員名	戸塚智美 戸塚恵子 南 幸子 渡辺羊子 宮城真樹
コード	22NPR340	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/実習
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
この科目では、「暮らしの理解」で学修した知識をもとに、地域で暮らす人々とのコミュニケーションを通して人々の暮らしと地域の人々への支援を学ぶ。体験実習では、「学ぶ」、「働く」、「子どもを産み育てる」、「病を治す」、「若いとともに生きる(定年後の生活)」のテーマを中心に地域の人々とのコミュニケーションを通して暮らしの実態を把握する。地域住民の暮らし実態は、①地域住民の生活史、②地域住民の生活(食生活、運動、睡眠等)、③地域住民の社会生活(家族、趣味、ボランティア等)、④地域住民の健康状態、⑤地域住民の健康に対する価値観(考え)ならびに、健康と暮らしとの関連として、①地域住民の健康と暮らし(食生活・活動等)との関連、②地域住民の健康と社会生活との関連をまとめ、地域住民の暮らしのニーズ・課題を明確にする。さらに、グループディスカッションを通して、地域の人々の暮らしの理解を深めるとともに、支援のあり方を考察する。			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			ディプロマ・ポリシー
			① ② ③ ④ ⑤
1 地域住民の暮らしの実態を述べることができる。			<input type="checkbox"/>
2 健康と暮らしとの関連について述べるができる。			<input type="checkbox"/>
3 地域住民の暮らしのニーズ、課題を述べるができる。			<input type="checkbox"/>
4 地域住民への支援のあり方を述べるができる。			<input type="checkbox"/>
5 地域住民の方を尊重し、マナーを守って行動することができる。			<input type="checkbox"/>
6 看護学生として適切に判断・行動することができる。			<input type="checkbox"/>
【授業計画】			
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)	
1	1日目: 【戸塚智 戸塚恵 南 渡辺 宮城】 1. オリエンテーション ・実習の到達目標、実習概要の説明を受ける ・『暮らしの体験実習』の自己の目標を立案する。 2. インタビューガイドの作成 ・個々に調べた八王子市左入・高尾地域の特徴を共有する。 ・地域住民の暮らしに関するインタビューガイドの作成 ・インタビューガイドに沿ってリハーサルを行う	予習 (1)八王子市左入地域の特徴をインターネット等で調べる。 (2)「暮らしの理解」の課題ノートを参考に高齢者の暮らしをまとめる。(60分) 復習(60分): (1)地域住民の暮らしのインタビューガイドをまとめ、リハーサルを行う。	
2	2日目: 【戸塚智 戸塚恵 南 渡辺 宮城】 1. 介護予防教室等に参加 2. 地域住民の暮らしに関するインタビューを実施する ①地域住民の生活史 ②地域住民の生活(食生活、運動、睡眠等) ③地域住民の社会生活(家族、趣味、ボランティア等) ④地域住民の健康状態 ⑤地域住民の健康に対する価値観(考え)	予習(60分): (1)行動目標・スケジュールを立案する。 復習(120分): (1)インタビュー結果をまとめる。 (2)行動計画表(実習結果と考察、学び)をまとめる。	
3	3日目: 【戸塚智 戸塚恵 南 渡辺 宮城】 1. 地域住民の暮らしのインタビュー結果をまとめる ①地域住民の生活史 ②地域住民の生活(食生活、運動、睡眠等) ③地域住民の社会生活(家族、趣味、ボランティア等) ④地域住民の健康状態 ⑤地域住民の健康に対する価値観(考え) 2. 健康と暮らしとの関連 ①地域住民の健康と暮らし(食生活・活動等)との関連 ②地域住民の健康と社会生活との関連 3. 地域住民の暮らしのニーズ・課題を明確にする ※1～3をパワーポイントにまとめる。	予習(60分): (1)インタビュー結果をまとめる。 (2)健康と暮らしとの関連についてまとめる。 復習(60分): (1)インタビュー結果に対する地域住民の暮らしのニーズ・課題をまとめる。	
4	4日目: 【戸塚智 戸塚恵 南 渡辺 宮城】 1. 地域住民への支援のあり方 1) 地域住民の健康に関する価値観・考え 2) 地域住民の生活に関する価値観・考え 3) 地域住民が考える価値観を取り入れた支援について 2. 『暮らしの体験実習』の学び ※1～2をパワーポイントにまとめる。	予習(60分): (1)八王子市で行われている地域住民への支援についてまとめる。 復習(120分): (1)インタビュー結果に対する地域住民への支援のあり方をまとめる。	
5	5日目: 【戸塚智 戸塚恵 南 渡辺 宮城】 1. 実習の学びの発表会・まとめ ①地域住民の暮らしのインタビュー結果 ②健康と暮らしとの関連 ③地域住民の暮らしのニーズ・課題を明確にする ④地域住民への支援のあり方 ⑤『暮らしの体験実習』の学び	予習(60分): (1)実習の学びの発表の準備 復習(120分): (1)実習記録の整理 (2)課題レポートの作成	

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	
【課題のフィードバック】 実習5日目の発表後に実施する。		
【成績の評価方法】 行動計画表(10%)、インタビュー結果(20%)、ディスカッションの発言内容(10%)、実習記録(20%)、実習レポート40(%)を評価表に沿って評価する。		
【履修申請上の条件】 「暮らしの理解」を履修していることが望ましい。		
【教科書】 ・ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①:地域療養を支えるケア 第7版 メディカ出版 2022年		
【参考書】 ・基礎からわかる 地域・在宅看護論 照林社 2021年 ・五十嵐隆:はじめてママ&パパの育児—0～3才赤ちゃんとの暮らし 気がかりがスッキリ 主婦の友社 2014 ・戸塚洋二:がんと闘った科学者の記録 文春文庫 2009 ・Bricolage(ブリコラージュ)2021夏号【273号】地域でつなぐ 2021 ・岩名礼介 新版 地域包括ケア サクセスガイド:「住み慣れた地域で自分らしい暮らし」を実現する メディカ出版 2020 ・秋山正子:「暮らしの保健室」ガイドブック「相談/学び/安心/交流/連携/育成」の場 日本看護協会出版会 2021 ・リンダ・グラットン:LIFE SHIFT(ライフ・シフト)—100年時代の人生戦略 東洋経済新聞社 2016 ・長谷川和夫:僕はやっと認知症のことがわかった 自らも認知症になった専門医が日本人に伝えたい遺言 KADOKAWA 2019年		
【オープンな教育リソース】 記載事項なし		
【担当教員の実務経験】 戸塚智美:臨床看護・訪問看護の実務経験をもとに、疾患や障害が対象の日常生活に及ぼす影響と療養者とその家族に対する看護を総合的に教授する。 戸塚恵子:臨床看護(重症心身障害児・者)、保健所、保健センター、福祉事務所の実務経験から保健医療福祉の法律や制度について看護の視点から授業を展開する。 南幸子 :臨床看護、訪問看護、特定居宅支援事業所、地域包括支援センターの勤務経験から地域・在宅で生活するために必要な看護支援を教育内容に取り入れた授業を展開する。 渡辺羊子:臨床看護・訪問看護・保健師の実務経験を踏まえ、保健・医療・福祉の視点を意識しながら、地域で生活する人々への看護について授業を展開する。 宮城真樹:保健センター、学校保健、産業保健等の経験を活かして講義を行う。		
【オフィスアワー】 戸塚智美:月～金12:10～13:00 戸塚恵子:月～金12:10～13:00 南幸子 :月～金12:10～13:00 渡辺羊子:火～金 12:10～13:00 宮城真樹:月～金 12:10～13:00		
【教員連絡先】 戸塚智美:stotsuka@g.t-junshin.ac.jp 戸塚恵子:ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp 南幸子 :sminami@g.t-junshin.ac.jp 渡辺羊子:未定 宮城真樹:未定		
【備考】		

看護学部

授業科目名	看護叡智探究論 I (基礎)	担当教員名	高橋千佳子
コード	22NAD410	区分 (必修・選択)	選択
年次/期間	1年次 / 通年	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
<p>本科目は、1年次より「看護師国家試験」受験に向けての意識づけを行うことを目的としている。加えて、主体的に学ぶアクティブラーニングの観点から、学習者が自らの課題を明確にし、取り組む科目である。</p> <p>授業ではまず、国家試験の目的・概要について、教員からレクチャーを受ける。また、夏期休暇中に読書課題として患者闘病記を読み、看護職を目指す者としての考えを小論文にまとめる。闘病記からの学びと自己の課題を明らかにし、実際に闘病体験者との交流を行い、人間をかけがえのない存在として尊ぶ姿勢を学ぶ。</p>			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			ディプロマ・ポリシー
			① ② ③ ④ ⑤
1	看護師国家試験に向けた学修方法を説明できる。		○
2	他者との交流を通し自主的に学び自らの課題を述べることができる。		○ ○
3	文献検索能力を身に付けるとともに文献検索の重要性を説明できる。		○ ○
4	看護師国家試験問題に取り組み、必修・一般問題の合格水準を満たすことができる。		○ ○ ○
5			
【授業計画】			
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)	
1 7/26	「看護師国家試験」とは何か？オリエンテーション(試験問題、本学の支援体制など)夏休みの課題の説明(高橋・南)	予習:シラバスを熟読する。(30分) 復習:授業終了後の振り返りをまとめる。(30分)	
2 7/26	卒業生による国家試験対策について伝授(卒業生2名)	予習:国家試験に取り組むため情報を収集をする。(30分) 復習:授業終了後の振り返りをまとめる。(30分) 夏休みの課題:指定された患者闘病記の中から1冊を選び、小論文にまとめる。(480分)	
3 9/20	看護師国家試験の受験に必要な、読み書きのリテラシー(荻原)	予習:自分の「読み書きの力」を客観的にとらえ、その特徴や課題について考えておくこと。(30分) 復習:授業で学んだことを基に、自らのリテラシーを高めるために、自己が具体的にを行うことについて述べられるようにする。(30分)	
4 9/27	患者闘病記からの学びと自己の課題を明らかにする(高橋)	予習:夏休みの課題である患者闘病記の小論文を読み返し自己の課題を考える。(30分) 復習:授業終了後の振り返りをまとめる。(30分)	
5 10/6	闘病体験者との交流(高橋・地域の高齢者)	予習:1年次のコミュニケーションの授業資料を読む。(30分)	
6 10/6		復習:闘病体験者との交流を振り返りまとめる。(30分)	
7 10/11	まとめ・発表(高橋)	予習:闘病体験者との交流の学びをまとめる。(30分) 復習:他者の発表を踏まえ自己の学習課題をまとめる。(30分)	
8 10/18	コミュニケーションに関連する国家試験の過去問題に挑戦(南) 授業のまとめ(高橋)	復習:模擬試験問題の解き直しをする。(60分) 課題:1回～7回までの授業を振り返りをまとめる。(480分)	
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
基本的に毎回の授業での学びを記載し、授業内でフィードバックを行う。夏休み課題、レポート課題は、学生に返却してフィードバックを行う。			
【成績の評価方法】			
グループワーク参加度:40% 小論文:60%(夏休み課題とレポート課題の両方で60%とする。内容の理解度、表現力、オリジナリティでルーブリック評価を実施する。)			
【履修申請上の条件】			
特になし。1年次科目であるため、1年生のみ履修できる。			
【教科書】			
なし。			
【参考書】			
授業時に紹介する。「患者闘病記」は大学で指定した中から自分で選ぶこと。			
【オープンな教育リソース】			
【担当教員の実務経験】			
【オフィスアワー】			
【教員連絡先】			
【備考】			
高橋が全体のコーディネートをします。			

【成績の評価方法】

小テスト:30% (予習課題に関連した内容の小テストを筆記で実施し、理解・知識の定着をはかる。)
グループワーク:10% (貢献度をルーブリックを用いて評価する。)
小論文:60% (夏休み課題とレポート課題の両方で60%とする。内容の理解度、表現力、オリジナリティでルーブリック評価を実施する。)

【履修申請上の条件】

特になし。1年次科目であるので、1年生のみ履修できる。

【教科書】

『看護学生スタートアップトレーニング』メディカ出版

【参考書】

授業時に紹介する。「患者闘病記」は大学で指定した中から自分で選ぶこと。
看護ROO <https://www.kango-roo.com/kokushi/kako/> なぜどうして①～⑥メディックメディア 人体と機能東京アカデミー

【オープンな教育リソース】

なし。

【担当教員の実務経験】

なし。

【オフィスアワー】

木曜日 3時間目と4時間目

【教員連絡先】

cmori@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

高橋が全体のコーディネートをするが、毎回、国家試験対策委員である看護学科専任教員が中心となって授業を行う。